（平成 27 年 6 月実施）

第４２回

市民アンケート調査報告書

―― あなたと市政を結ぶ ――

浜松市

目　次

Ⅰ　調査概要

１　調査目的 1
２　調査事項 1
３　調査実施概要 1
４　回収状況 1
５　報告書内のデータ記述について 1
６　回答者の属性 2

Ⅱ　調査結果

１　あなたはご存じですか？ 4
２　浜松市歌について 16
３　環境に配慮したライフスタイルの定着度について 20
４　障害を理由とした生きづらさ・差別等の事例について 22
５　地区社会福祉協議会について 26
６　ドメスティック・バイオレンス（DV）について 30
７　浜松市平和都市宣言について 34
８　新電力の活用について 38
９　健康づくりについて 44
10　浜松市のスポーツ推進について 50
11　子育て支援について 54
12　市民の地震への備えについて 64
13　地域情報化について 72
14　市民コールセンターについて 76
15　市政に関する現状認識について 80
16　市の取り組みの満足度評価について 83

付録　調査票

Ⅰ　調査概要

１　調査目的

本調査は、昭和 45 年度から始まり、48 年、50 年度と行った後、52 年度以降は毎年実施し、本年度で 42 回目になる。社会情勢の変化に伴う市民の生活意識や市政に対する関心やニーズなどを把握するため、毎年各部署から提出された希望調査項目を精査した後、調査項目を決定し、属性などにより集計した調査結果を詳細に分析し、今後の施策の方向性や事業展開など行政のさまざまな施策の基礎資料として活用しているものである。

２　調査事項

○あなたはご存じですか？
○浜松市歌について
○環境に配慮したライフスタイルの定着度について
○障害を理由とした生きづらさ・差別等の事例について
○地区社会福祉協議会について
○ドメスティック・バイオレンス（DV）について
○浜松市平和都市宣言について
○新電力の活用について
○健康づくりについて
○浜松市のスポーツ推進について
○子育て支援について
○市民の地震への備えについて
○地域情報化について
○市民コールセンターについて
○市政に関する現状認識について
○市の取り組みの満足度評価について

３　調査実施概要

（１）調査地域　浜松市全域
（２）調査対象　満 20 歳以上の男女 3,000 人
（３）抽出方法　住民基本台帳から無作為抽出
（４）調査方法　質問紙郵送法
（５）調査期間　平成 27 年 6 月 13 日～30 日
（６）調査機関　特定非営利活動法人　静岡県西部地域しんきん経済研究所

４　回収状況

発送数	有効回収数	有効回収率
3,000 件	1,466 件	48.9%

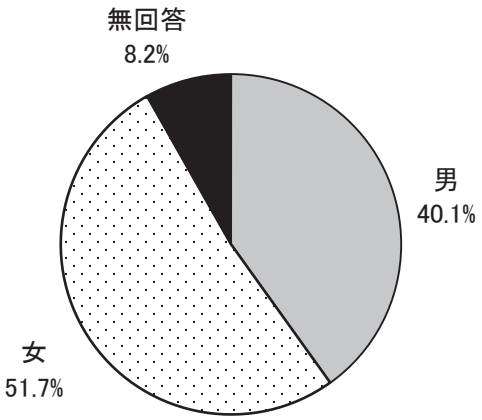
５　報告書内のデータ記述について

（１）比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が 100%にならないことがある。
（２）基数とすべき実数は、図表中に「N」として記載した。比率はこの基数を 100%として算出している。
（３）質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100%を超える。
（４）図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューターの処理の都合上、省略している箇所がある。
（５）クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。

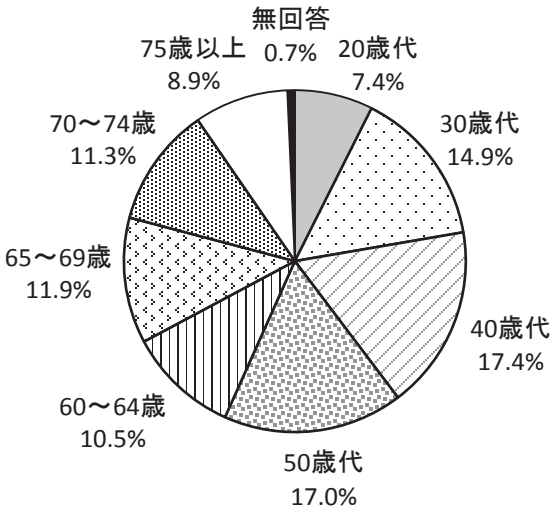
６　回答者の属性

N=1,466

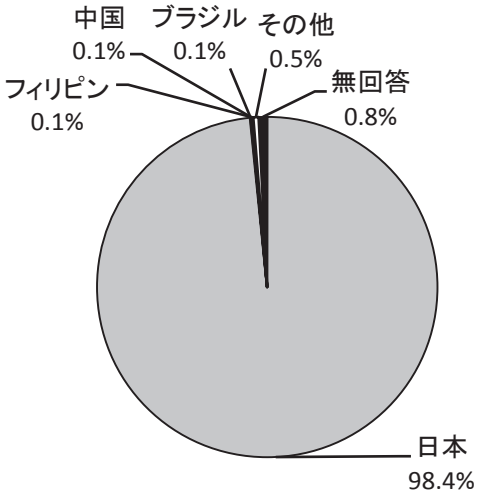
（１）性別



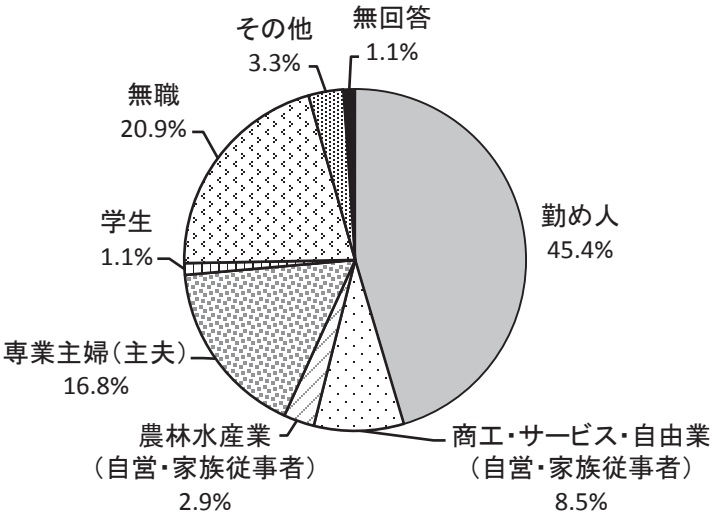
（２）年齢



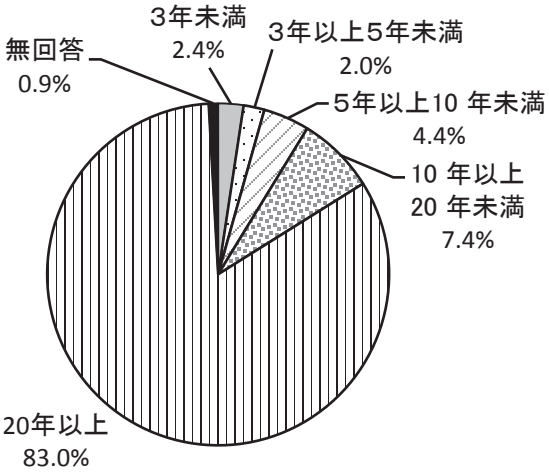
（３）国籍



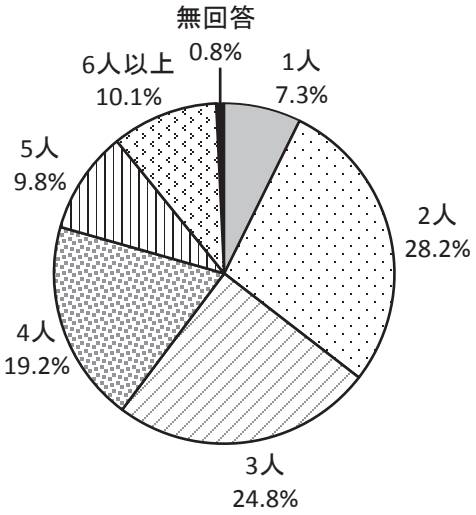
（４）職業



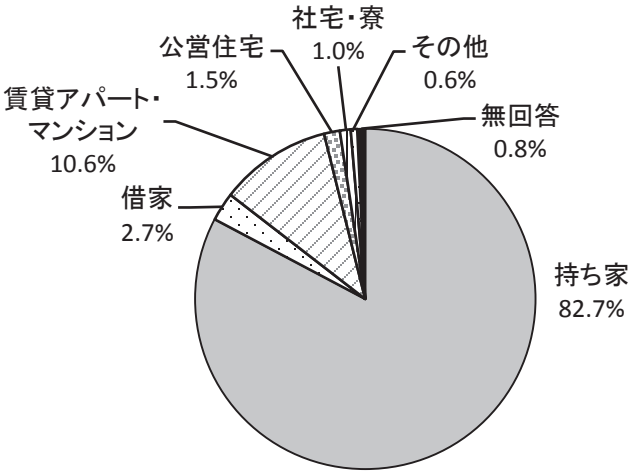
（５）居住年数



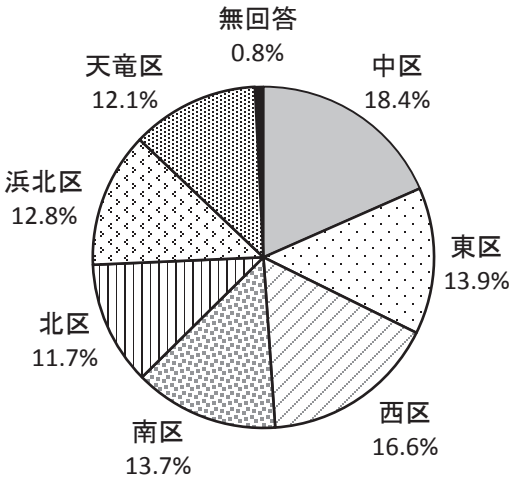
（６）家族数



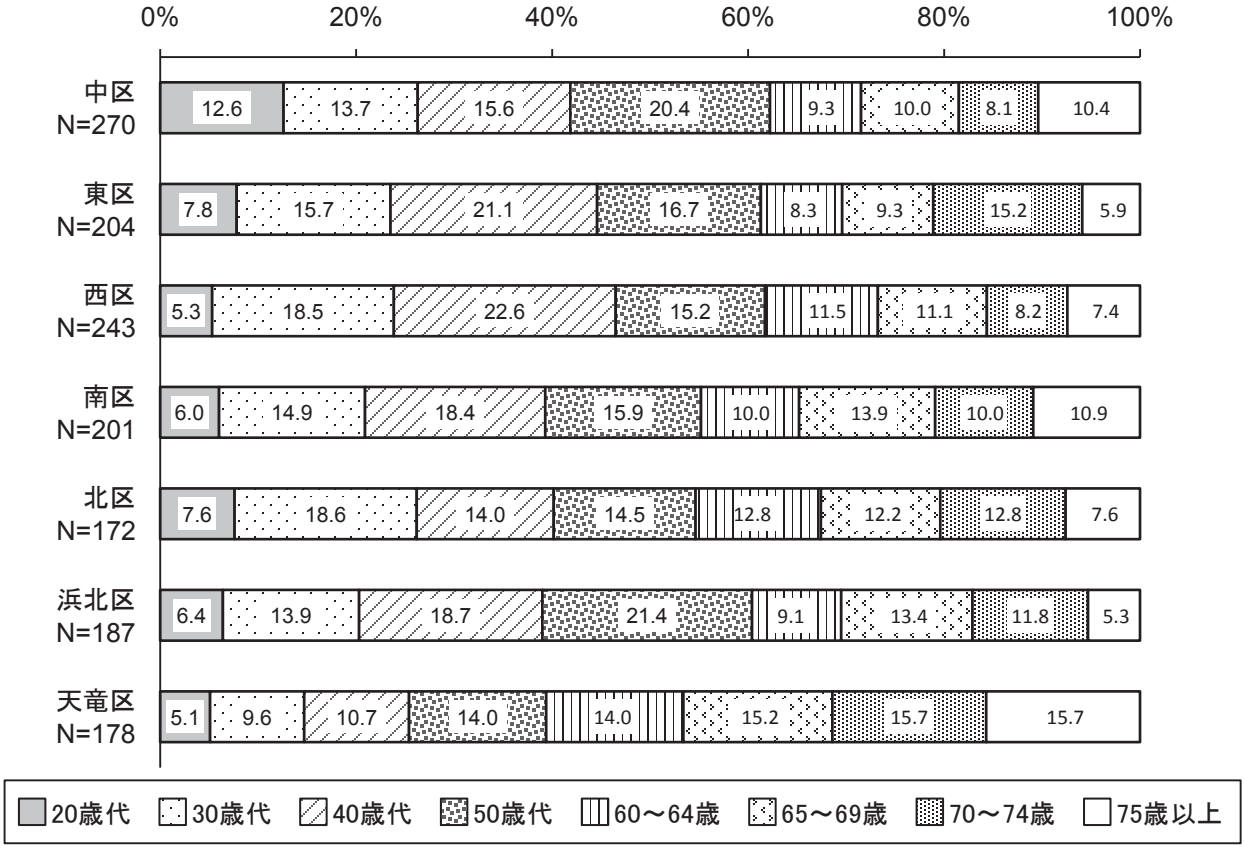
（７）居住形態



（８）行政区



（９）行政区別年齢



Ⅱ　調査結果

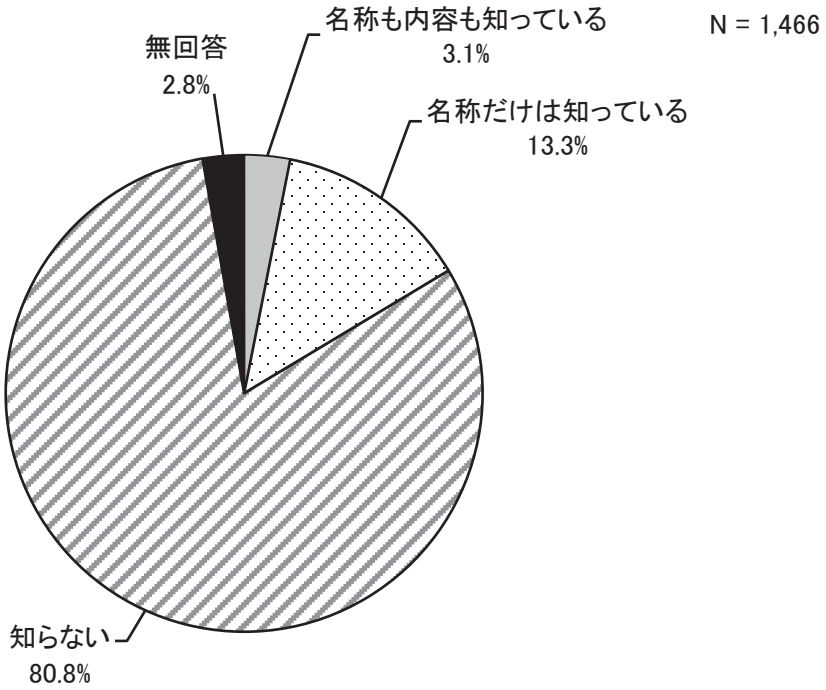
1　あなたはご存じですか？

問１　　次の項目について、あなたはご存じですか。
　　１～３（または、４）のうちから１つ選んで〇を付けてください。

①　浜松市音・かおり・光環境創造条例

※人に潤いや安らぎを与えてくれる音・かおり・光資源を保全するとともに、自らも人に不快感や嫌悪感を与える騒音、悪臭および光害の防止に取り組み、快適な生活環境創造のための条例。

「浜松市音・かおり・光環境創造条例」の認知度は 16.4%



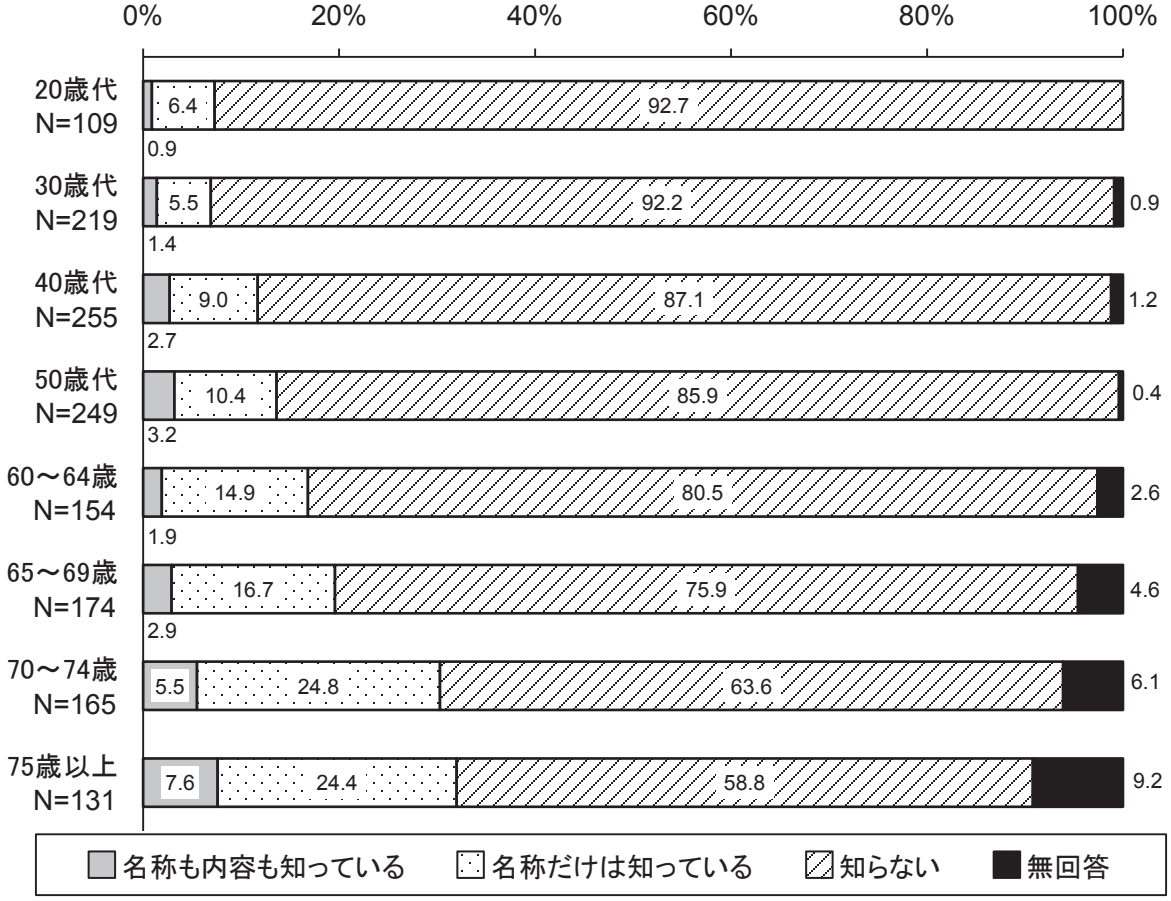
「名称も内容も知っている」（3.1%）と「名称だけは知っている」（13.3%）を合わせた『認知度』は、16.4%となり、「知らない」の 80.8%を 64.4 ポイント下回った。

年齢別でみると、20 歳代、30 歳代の『認知度』は、10%未満にとどまる一方、70歳以上の『認知度』は 30%を超えており、年齢が高まるに伴い『認知度』も高くなる傾向がみられた。

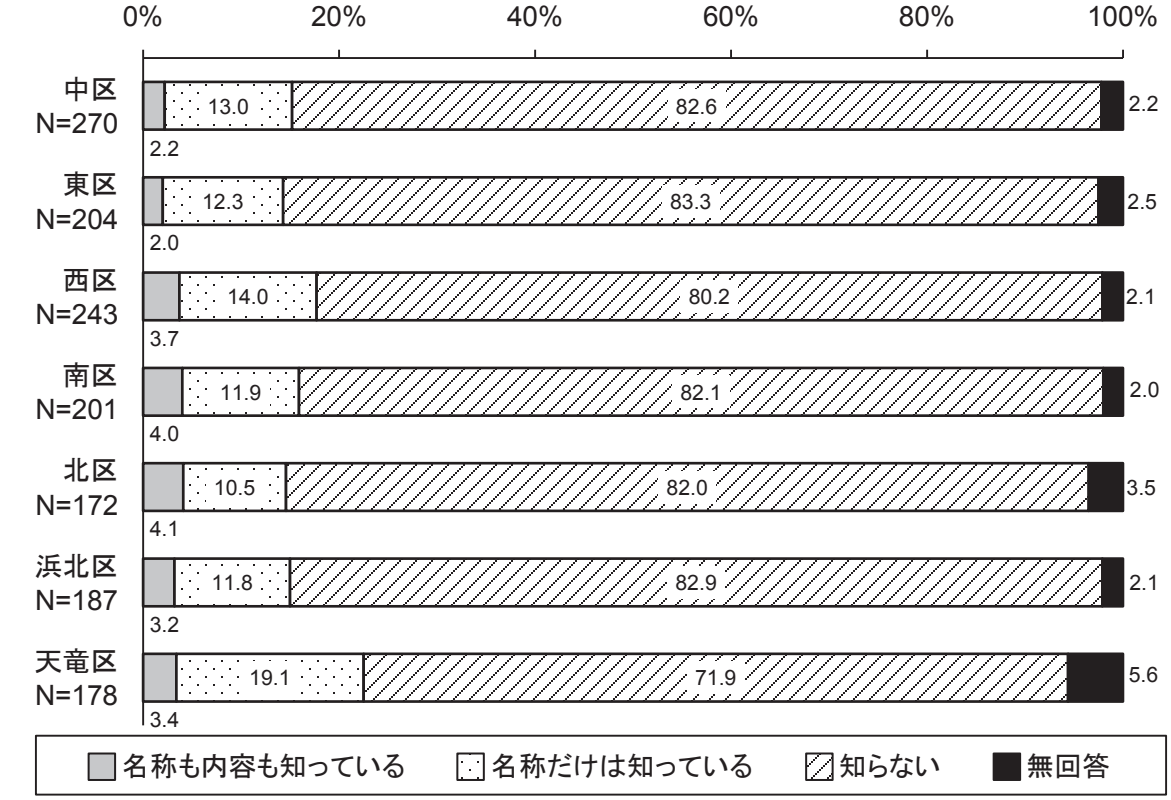
行政区別でみると、『認知度』が最も高かったのは、天竜区の 22.5%であった。

今後は、浜松駅前や商業施設での啓発グッズ配布、庁内モニターでの放送などの周知活動を引き続き行うほか、『認知度』が低かった 20～30 歳代向けの周知活動を強化していく必要がある。

【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
6.4
92.7
0.9
30歳代 N=219
5.5
92.2
0.9
1.4
40歳代 N=255
9.0
87.1
1.2
2.7
50歳代 N=249
10.4
85.9
0.4
3.2
60～64歳 N=154
14.9
80.5
2.6
1.9
65～69歳 N=174
16.7
75.9
4.6
2.9
70～74歳 N=165
5.5
24.8
63.6
6.1
75歳以上 N=131
7.6
24.4
58.8
9.2
名称も内容も知っている
名称だけは知っている
知らない
無回答

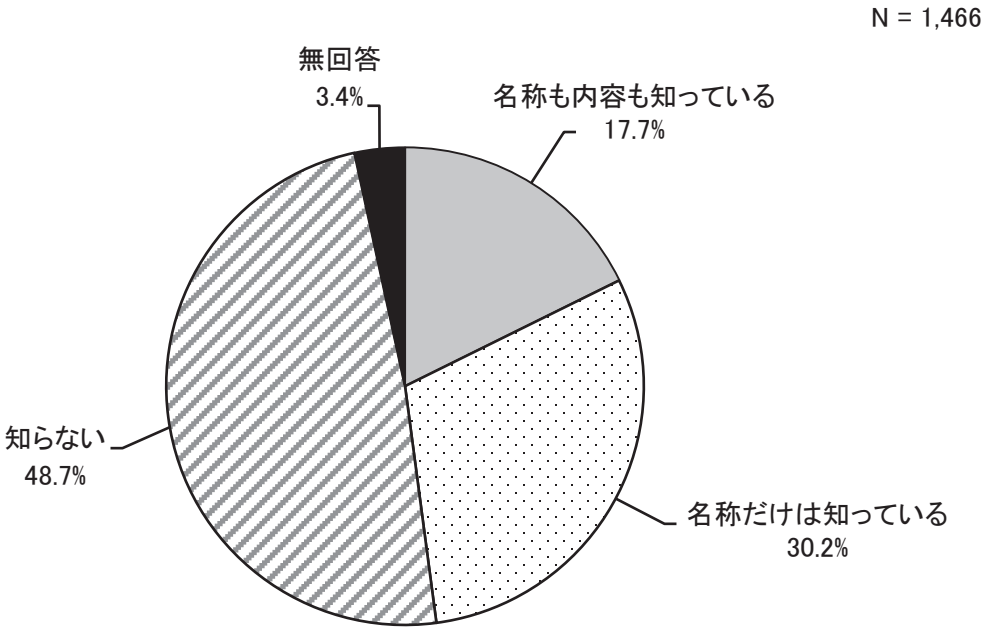
【行政区別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
中区 N=270
13.0
82.6
2.2
2.2
東区 N=204
12.3
83.3
2.5
2.0
西区 N=243
14.0
80.2
2.1
3.7
南区 N=201
11.9
82.1
2.0
4.0
北区 N=172
10.5
82.0
3.5
4.1
浜北区 N=187
11.8
82.9
2.1
3.2
天竜区 N=178
19.1
71.9
5.6
3.4
名称も内容も知っている
名称だけは知っている
知らない
無回答

②　生物多様性

※生き物の豊かな個性とつながりのこと。すべての生き物にはちがい（「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」）があり、互いにつながり合い、支え合って生きています。

「生物多様性」の認知度は 47.9%



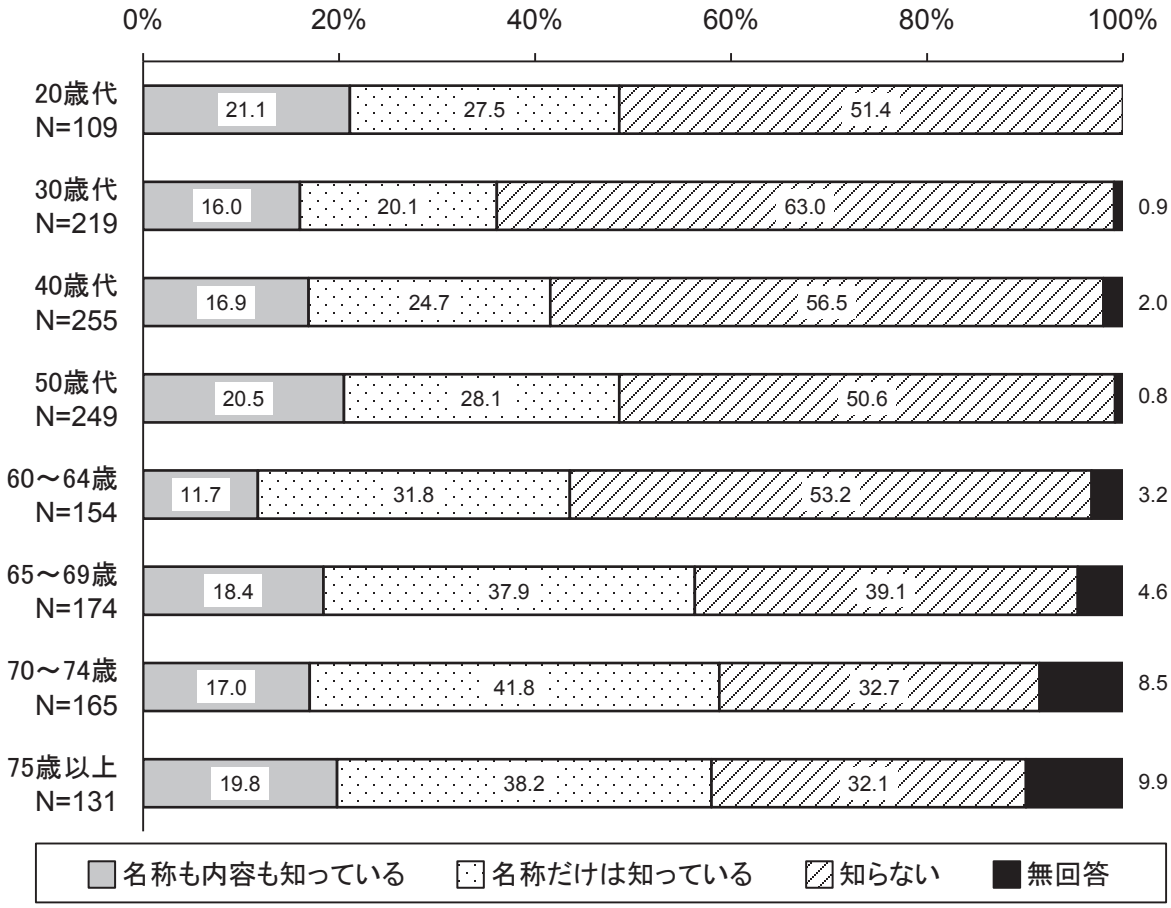
「名称も内容も知っている」（17.7%）と「名称だけは知っている」（30.2%）を合わせた『認知度』は 47.9%となり、「知らない」の 48.7%とほぼ同数となった。

年齢別でみると、70 歳以上の『認知度』が 60%弱と比較的高く、30 歳代の認知度が 36.1%と最も低かった。「名称も内容も知っている」に限ってみれば、20 歳代が 21.1%で最も高かった。

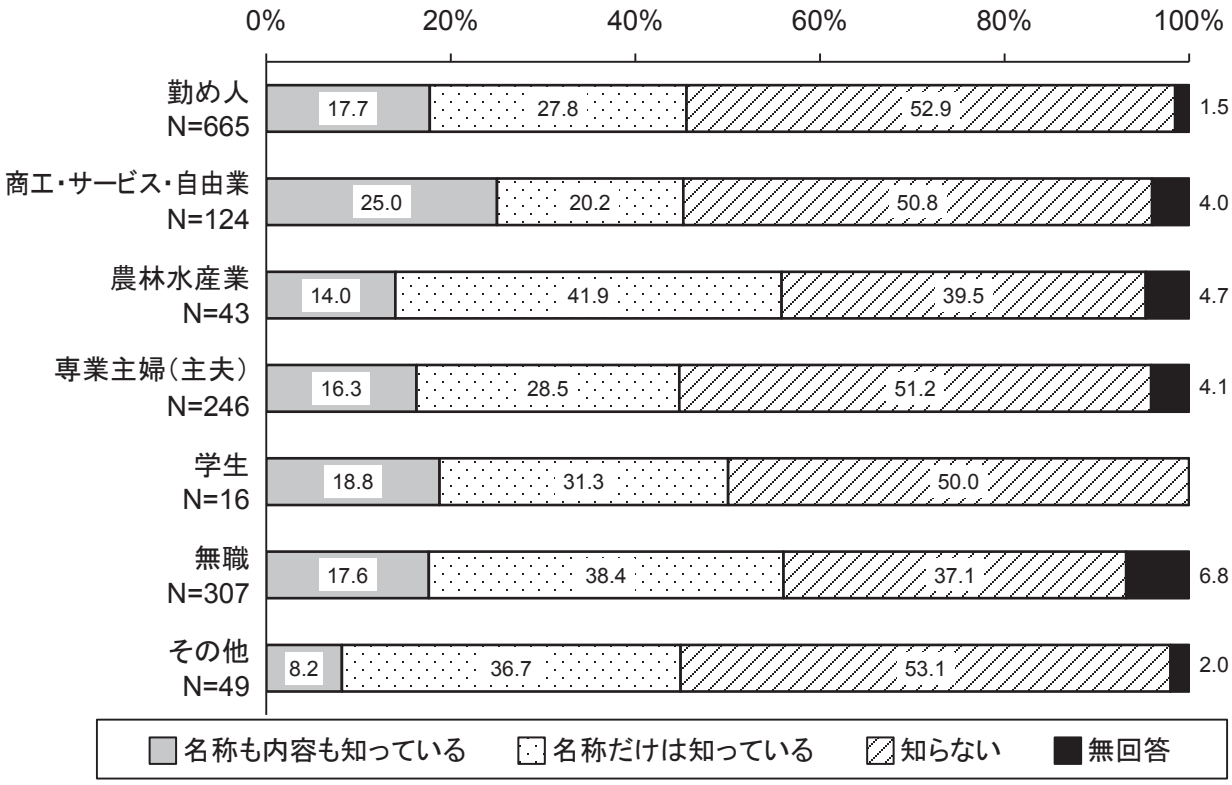
職業別でみると、生物多様性との関わりが比較的高い職業といえる農林水産業従事者の『認知度』が 55.9%と高かった。

本市では、平成 25 年 3 月に「生物多様性はままつ戦略」を策定し、戦略に基づき生物多様性保全のための様々な施策を推進している。平成25年度からは、毎年、生物多様性についての市民の関心を高めるため、国連が定めた「国際生物多様性の日」である 5 月 22 日の前後に市役所市民ロビーや図書館でパネル展示などを行っている。今後も、人の暮らしが生物多様性の恵みの上に成り立っており、将来にわたる保全の重要性を啓発していくことが必要であることから、継続的な広報活動を行っていく。

【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
21.1
27.5
51.4
30歳代 N=219
16.0
20.1
63.0
0.9
40歳代 N=255
16.9
24.7
56.5
2.0
50歳代 N=249
20.5
28.1
50.6
0.8
60～64歳 N=154
11.7
31.8
53.2
3.2
65～69歳 N=174
18.4
37.9
39.1
4.6
70～74歳 N=165
17.0
41.8
32.7
8.5
75歳以上 N=131
19.8
38.2
32.1
9.9
名称も内容も知っている
名称だけは知っている
知らない
無回答

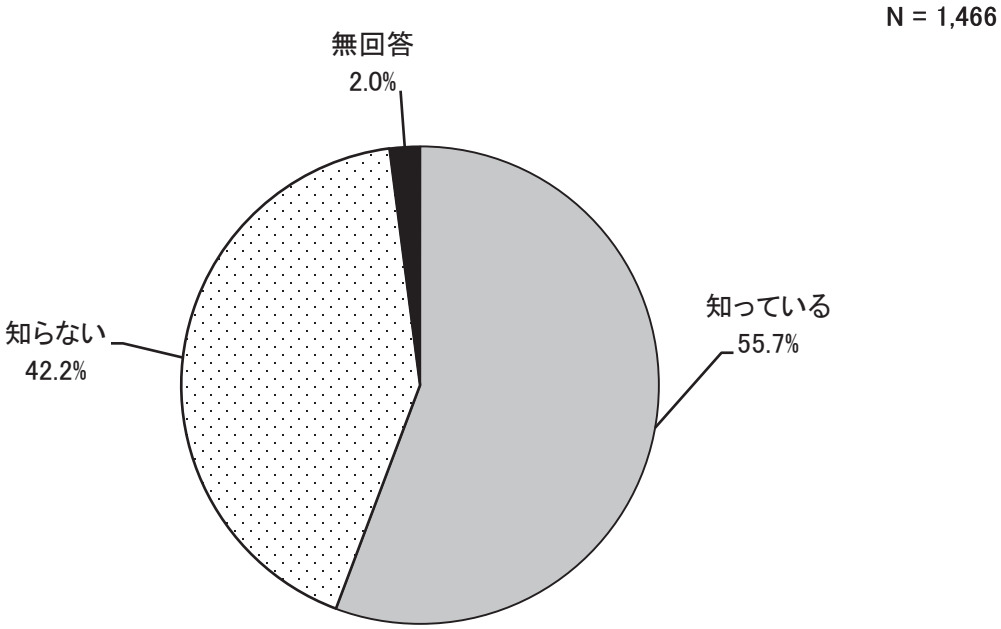
【職業別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
勤め人 N=665
17.7
27.8
52.9
1.5
商工・サービス・自由業 N=124
25.0
20.2
50.8
4.0
農林水産業 N=43
14.0
41.9
39.5
4.7
専業主婦（主夫） N=246
16.3
28.5
51.2
4.1
学生 N=16
18.8
31.3
50.0
無職 N=307
17.6
38.4
37.1
6.8
その他 N=49
8.2
36.7
53.1
2.0
名称も内容も知っている
名称だけは知っている
知らない
無回答

③　市制記念日

※浜松市では市制施行を記念して、７月１日を市制記念日として定めています。

「市制記念日」を知っている人は 55.7%



「知っている」が 55.7%となり、「知らない」の 42.2%を 13.5 ポイント上回った。

年齢別でみると、年齢が高まるに伴い「知っている」の回答も高くなる傾向がみられた。70歳以上は 7 割以上の人が知っているが、20～30 歳代は 3 割未満にとどまっている。

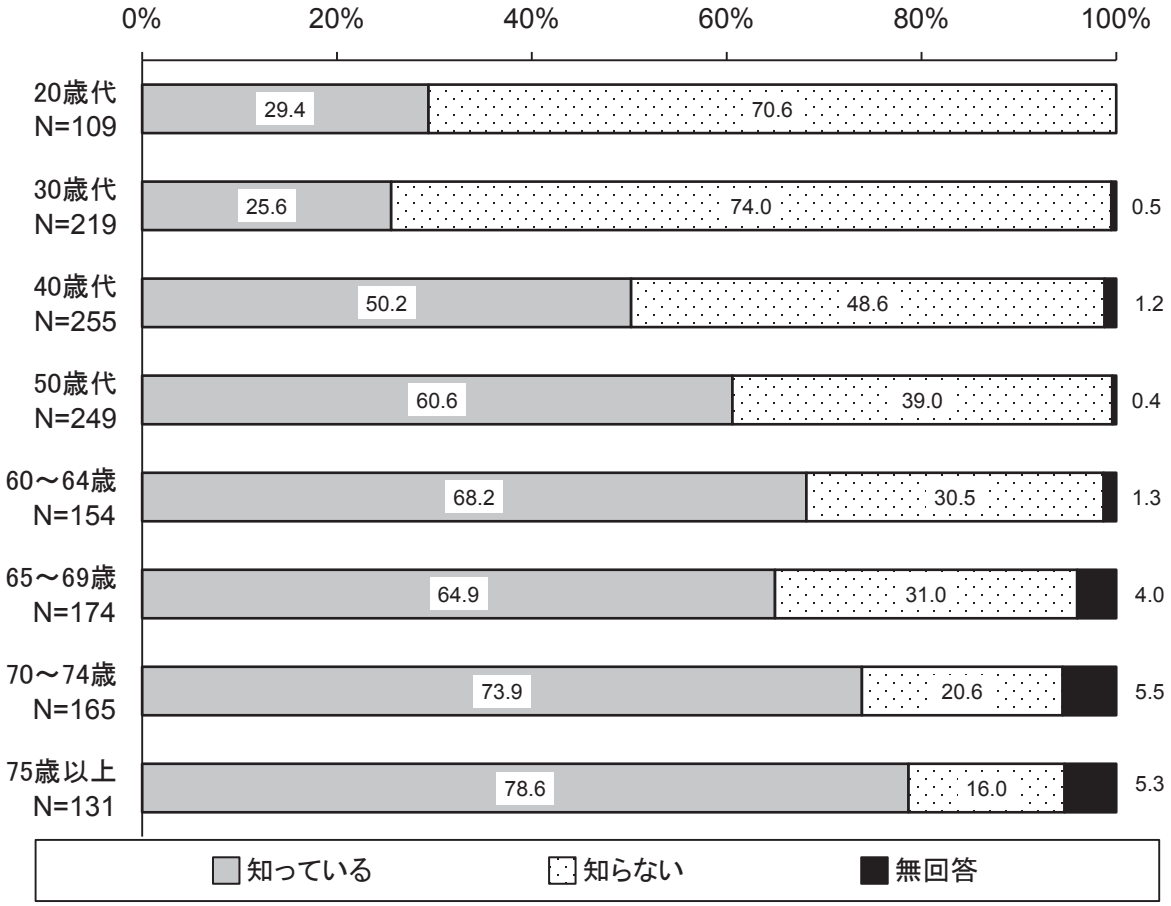
行政区別でみると、「知っている」が最も高かったのは浜北区の 62.6%。最も低かったのは天竜区の 39.9%で 7 区中唯一「知っている」が「知らない」を下回った。市制記念日に開催している記念事業について、平成26年度は、天竜区や北区の民族芸能を上演するなど、内容を工夫しているが、天竜区の認知度は低くなっている。

平成 27 年度の記念事業では、中区と天竜区の小学生の市内間交流事業発表などを行った。

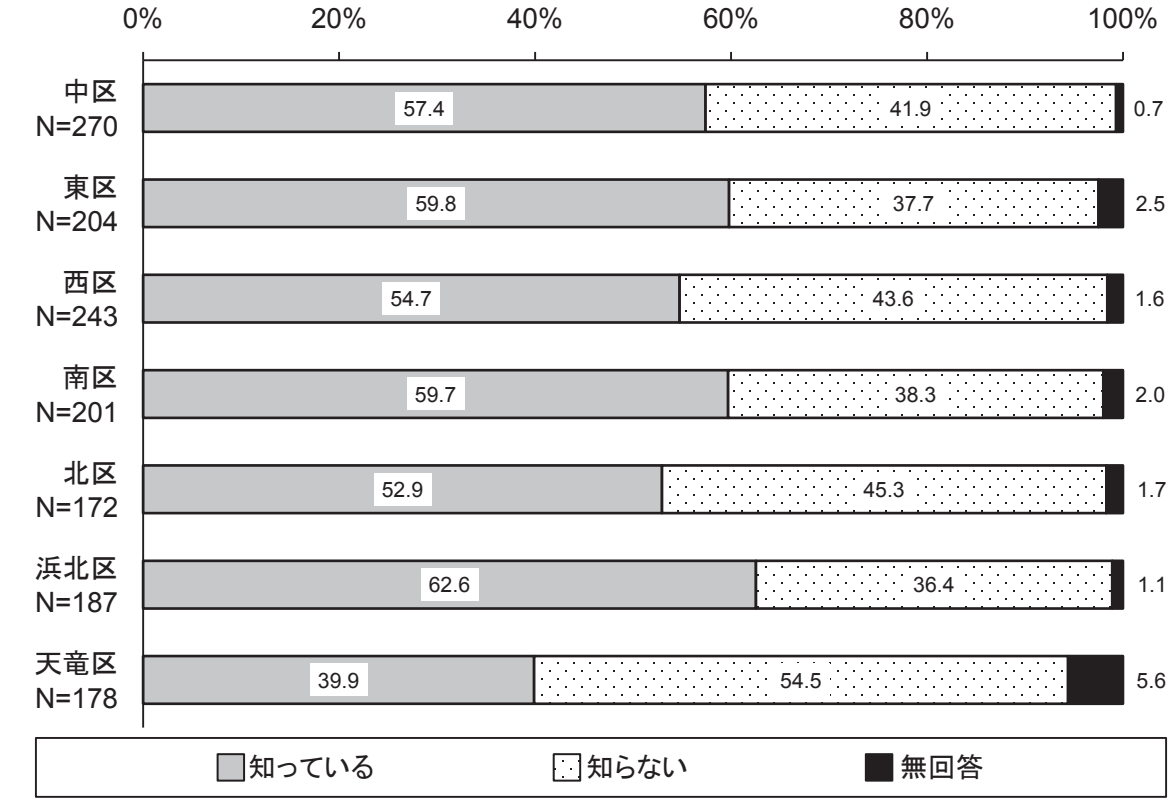
今後、「知っている」が低かった天竜区を中心として認知度向上を意識しながら、市制記念日の周知、広報の方法や記念事業の内容、これまで浜松駅前で行ってきた開催場所の変更等を検討する必要がある。

また、20～30歳代の認知度が低かったことから、若年層に市制記念日を浸透させていく必要がある。現在、市制記念日に合わせ郷土食材を使用した学校給食特別メニューの提供を行うなど認知度向上を図っているが、「市制記念日に学校で浜松市歌を歌う」「本市ゆるキャラ“出世大名家康くん　を利用したPR」「式典と学校行事の連携」などにより、子供のころから市制記念日を知る機会を増やしていく必要がある。さらには、浜松市の「歴史」「産業」「農作物」「風土」など、郷土に興味を持ってもらうことで、市制記念日を覚えてもらう取り組みも必要といえる。

【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
29.4
70.6
30歳代 N=219
25.6
74.0
0.5
40歳代 N=255
50.2
48.6
1.2
50歳代 N=249
60.6
39.0
0.4
60～64歳 N=154
68.2
30.5
1.3
65～69歳 N=174
64.9
31.0
4.0
70～74歳 N=165
73.9
20.6
5.5
75歳以上 N=131
78.6
16.0
5.3
知っている
知らない
無回答

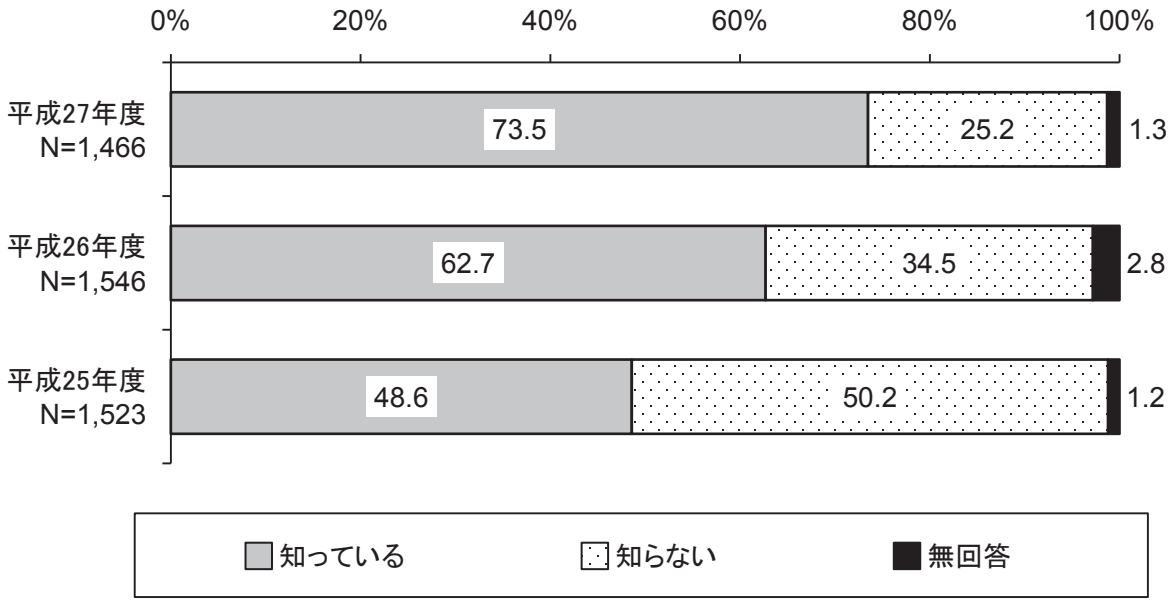
【行政区別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
中区 N=270
57.4
41.9
0.7
東区 N=204
59.8
37.7
2.5
西区 N=243
54.7
43.6
1.6
南区 N=201
59.7
38.3
2.0
北区 N=172
52.9
45.3
1.7
浜北区 N=187
62.6
36.4
1.1
天竜区 N=178
39.9
54.5
5.6
知っている
知らない
無回答

④　協働センター

※平成２５年４月から、公民館が、併設されている市民サービスセンターと統合し「協働センター」となりました。

「協働センター」を知っている人は 73.5%

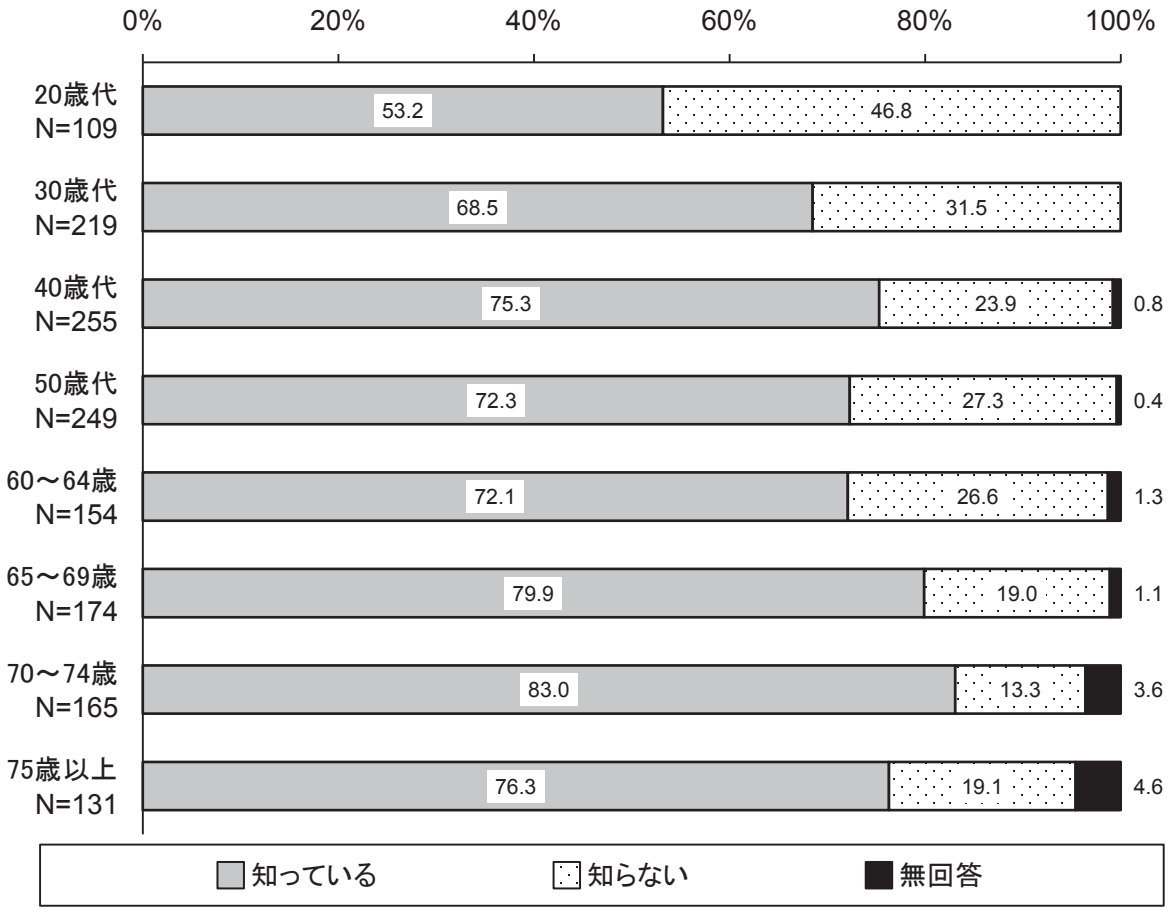


協働センター発足直後の平成 25 年度調査では「知っている」が 48.6%と 50%を割りこんでいたが、平成 26 年度調査は 62.7%、今年度調査は 73.5%と前年度比 10.8 ポイント増加しており、協働センターが徐々に市民に浸透していることがわかる。

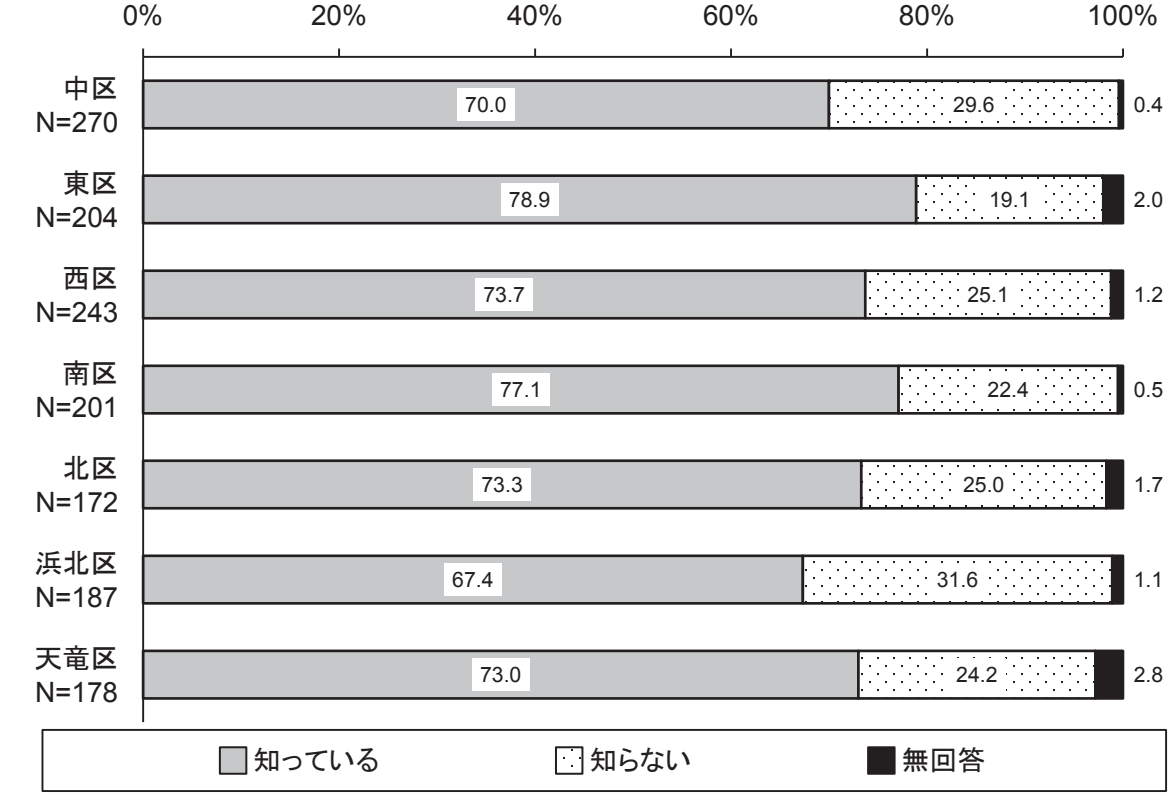
年齢別でみると、年齢が高くなるほど「知っている」の回答割合も高く、40 歳代以降はいずれも 70%を超えている。20 歳代は平成 26 年度調査と比較すると 11.2 ポイント増加したものの、53.2%と過半数をわずかに上回る水準にとどまっている。今後は、特に若年層の協働センター利用を促すような広報活動や事業展開が重要といえる。

行政区別でみると、全ての行政区で「知っている」の回答割合が平成 26 年度調査と比較し高くなっており、全市域において浸透してきている。

【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
53.2
46.8
30歳代 N=219
68.5
31.5
40歳代 N=255
75.3
23.9
0.8
50歳代 N=249
72.3
27.3
0.4
60～64歳 N=154
72.1
26.6
1.3
65～69歳 N=174
79.9
19.0
1.1
70～74歳 N=165
83.0
13.3
3.6
75歳以上 N=131
76.3
19.1
4.6
知っている
知らない
無回答

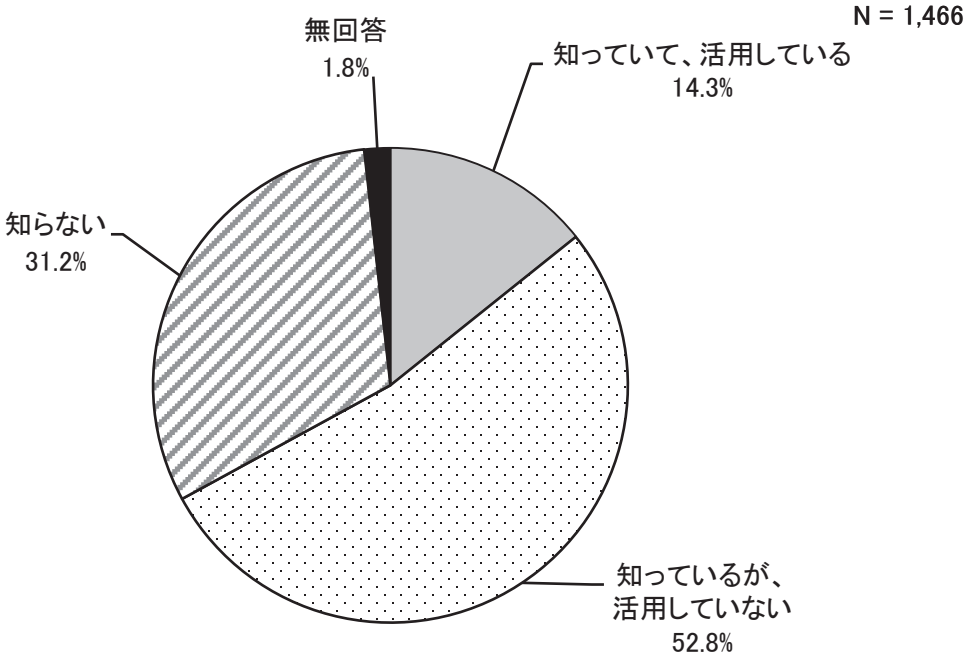
【行政区別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
中区 N=270
70.0
29.6
0.4
東区 N=204
78.9
19.1
2.0
西区 N=243
73.7
25.1
1.2
南区 N=201
77.1
22.4
0.5
北区 N=172
73.3
25.0
1.7
浜北区 N=187
67.4
31.6
1.1
天竜区 N=178
73.0
24.2
2.8
知っている
知らない
無回答

⑤　区版避難行動計画

※災害時にとるべき行動を、区ごとの災害特性をふまえてわかりやすくまとめ、防災マップや防災カードとともに全戸に配布しています。

「区版避難行動計画」の認知度は 67.1%



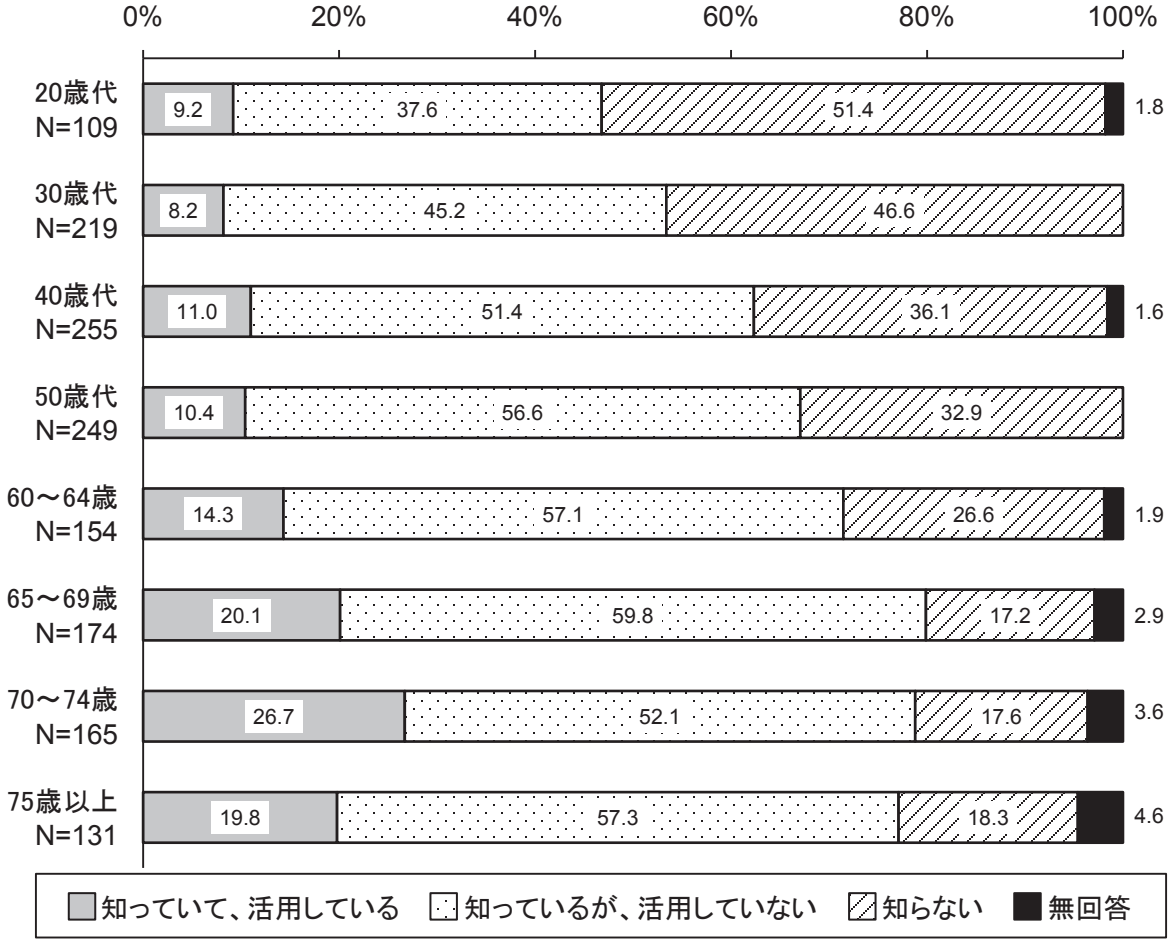
「知っていて、活用している」は 14.3%にとどまったが、「知っているが、活用していない」(52.8%)と合わせた『認知度』は 67.1%となった。

年齢別でみると、年齢が高まるに伴い『認知度』の回答割合も高くなる傾向がみられた。20 歳代の『認知度』は 46.8%と半数を割り込む一方、65 歳以上の『認知度』は約80%あった。

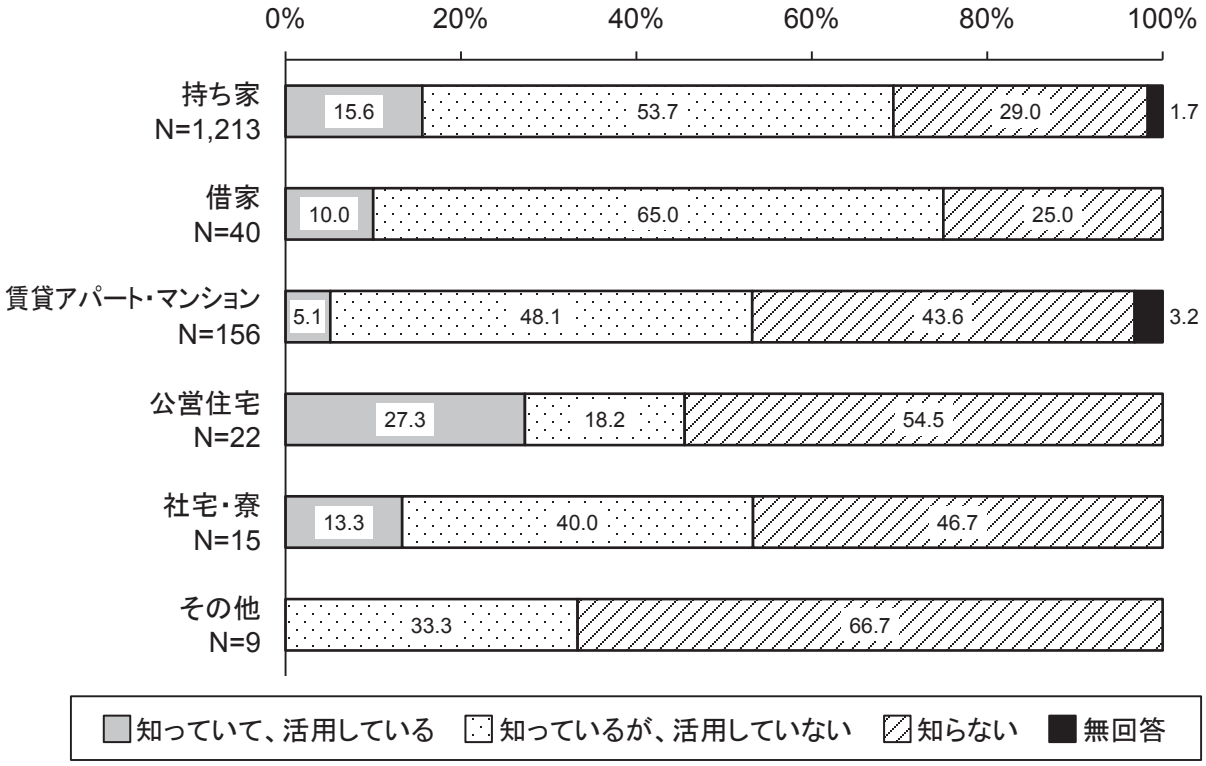
居住形態別でみると（その他除く)、『認知度』が最も低いのは公営住宅の 45.5%となり、次いで「賃貸アパート・マンション」(53.2%)、「社宅・寮」(53.3%) の順に低かった。

これまで自主防災隊や各種団体などへの出前講座等で周知はしているが、今後は若い世代や公営住宅など『認知度』の低い層にターゲットを絞った周知活動を行っていくことが必要といえる。

【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
9.2
37.6
51.4
1.8
30歳代 N=219
8.2
45.2
46.6
40歳代 N=255
11.0
51.4
36.1
1.6
50歳代 N=249
10.4
56.6
32.9
60～64歳 N=154
14.3
57.1
26.6
1.9
65～69歳 N=174
20.1
59.8
17.2
2.9
70～74歳 N=165
26.7
52.1
17.6
3.6
75歳以上 N=131
19.8
57.3
18.3
4.6
知っていて、活用している
知っているが、活用していない
知らない
無回答

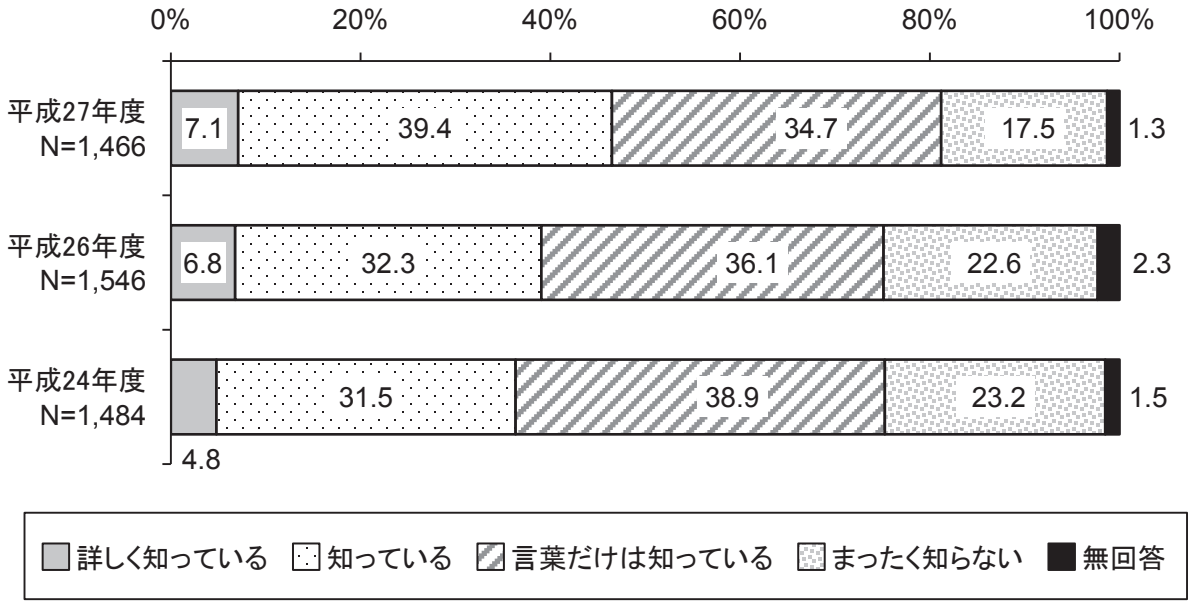
【居住形態別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
持ち家 N=1,213
15.6
53.7
29.0
1.7
借家 N=40
10.0
65.0
25.0
賃貸アパート・マンション N=156
5.1
48.1
43.6
3.2
公営住宅 N=22
27.3
18.2
54.5
社宅・寮 N=15
13.3
40.0
46.7
その他 N=9
33.3
66.7
知っていて、活用している
知っているが、活用していない
知らない
無回答

⑥　ユニバーサルデザイン

※ユニバーサルデザイン（UD）とは、年齢、性別、能力、国籍などに関係なく、誰もが安全で安心、快適な暮らしができるように「人づくり」や「環境づくり」を行っていこうとする考え方です。

「ユニバーサルデザイン」の認知度は 81.2%

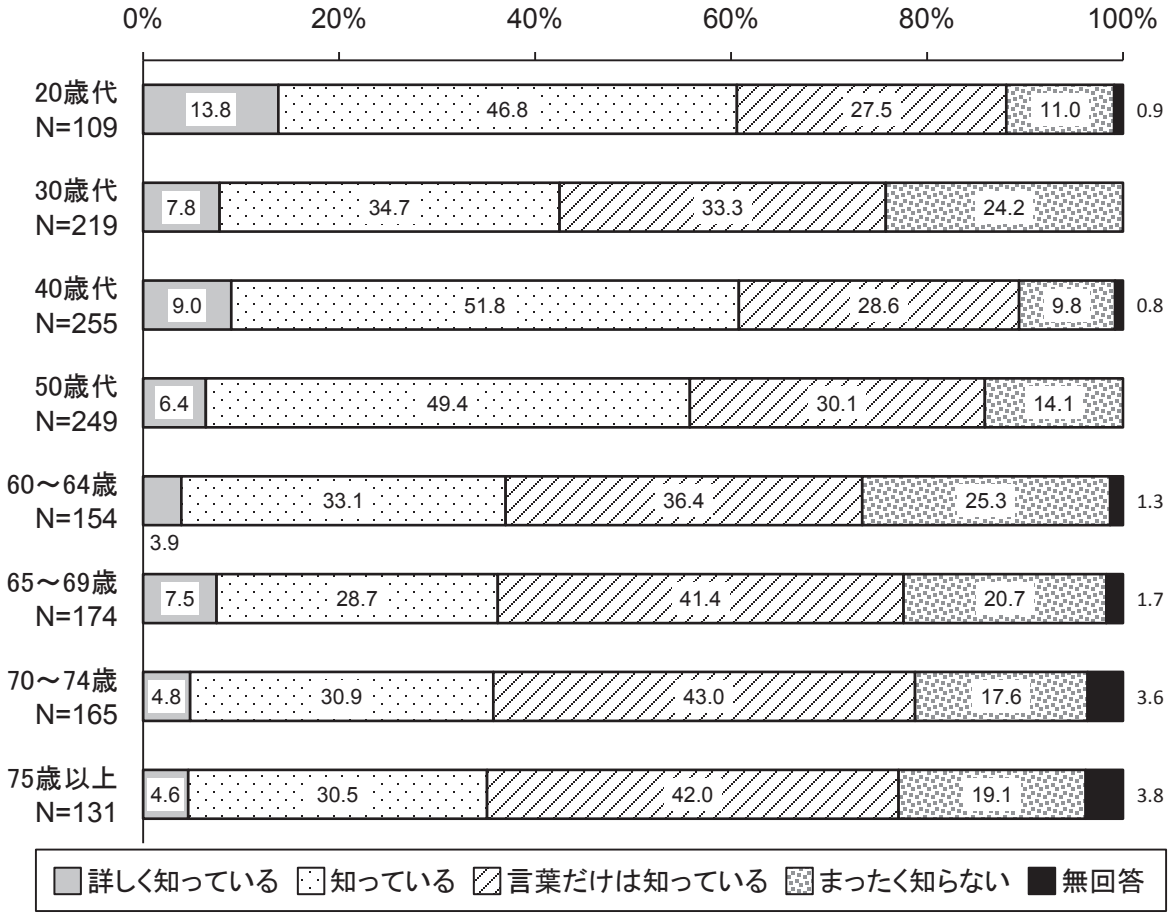


「詳しく知っている」（7.1%）、「知っている」（39.4%）を合わせた『理解度』は、46.5%で平成 26 年度比 7.4 ポイントの増、また「言葉だけは知っている」も含めた『認知度』は 81.2%で 6.0 ポイントの増となり、UD の定着・実践に向けた事業の成果が表れてきている。昨年から、パブリシティを活用した広報活動に重点を置いており、各事業やイベント等について新聞等で取り上げてもらえるよう積極的にＰＲしてきたことが数値の向上に繋がったと推測される。

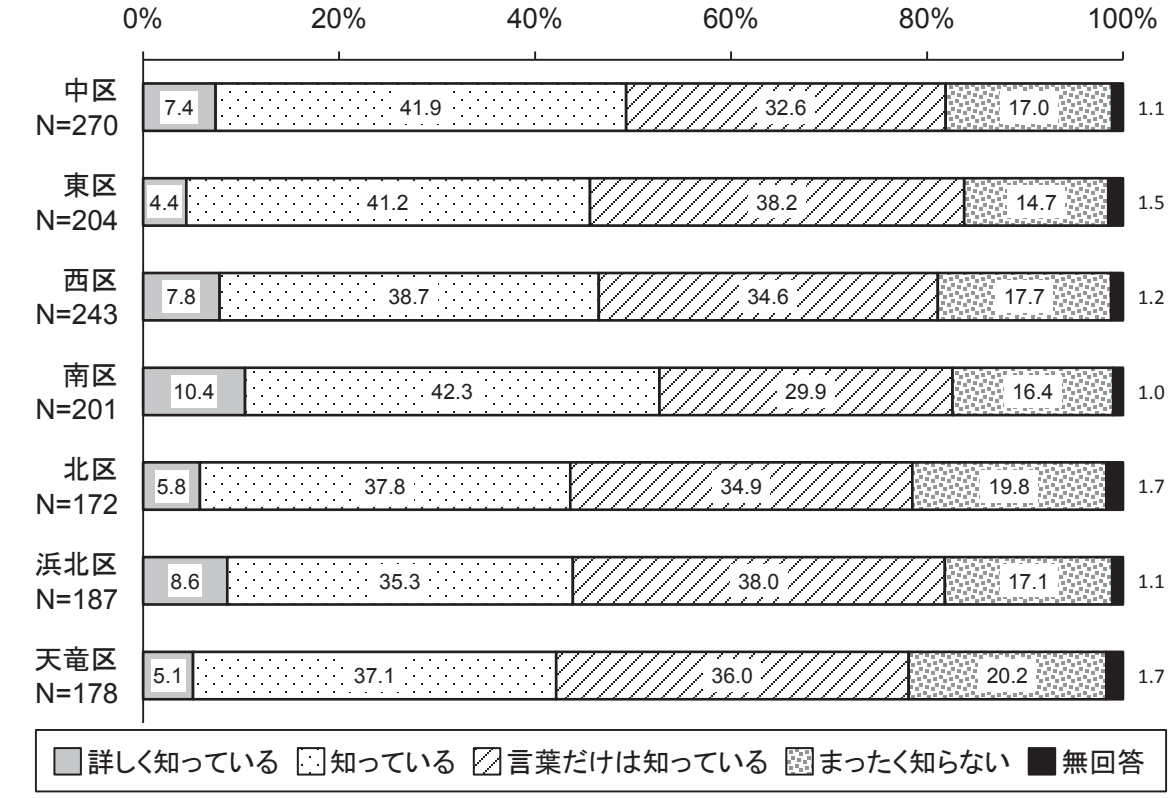
年齢別でみると、20 歳代と 40 歳代の『理解度』が高い。20 歳代の『理解度』が高いのは、平成 12 年度から小中学校で推進している UD 学習の効果であると推測される。

行政区別でみると、浜北区および天竜区で『認知度』が10ポイント以上増となった。また、『認知度』の数値が「一番高い区」と「一番低い区」の差が、平成 26 年度調査では 16.4 ポイントであったのに対し、5.6 ポイント差まで縮小した。市役所本課をはじめ、区役所での UD 啓発活動によって地域間の差が縮まり、全市的にUDが浸透してきたといえる。

【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
13.8
46.8
27.5
11.0
0.9
30歳代 N=219
7.8
34.7
33.3
24.2
40歳代 N=255
9.0
51.8
28.6
9.8
0.8
50歳代 N=249
6.4
49.4
30.1
14.1
60～64歳 N=154
3.9
33.1
36.4
25.3
1.3
65～69歳 N=174
7.5
28.7
41.4
20.7
1.7
70～74歳 N=165
4.8
30.9
43.0
17.6
3.6
75歳以上 N=131
4.6
30.5
42.0
19.1
3.8
詳しく知っている
知っている
言葉だけは知っている
まったく知らない
無回答

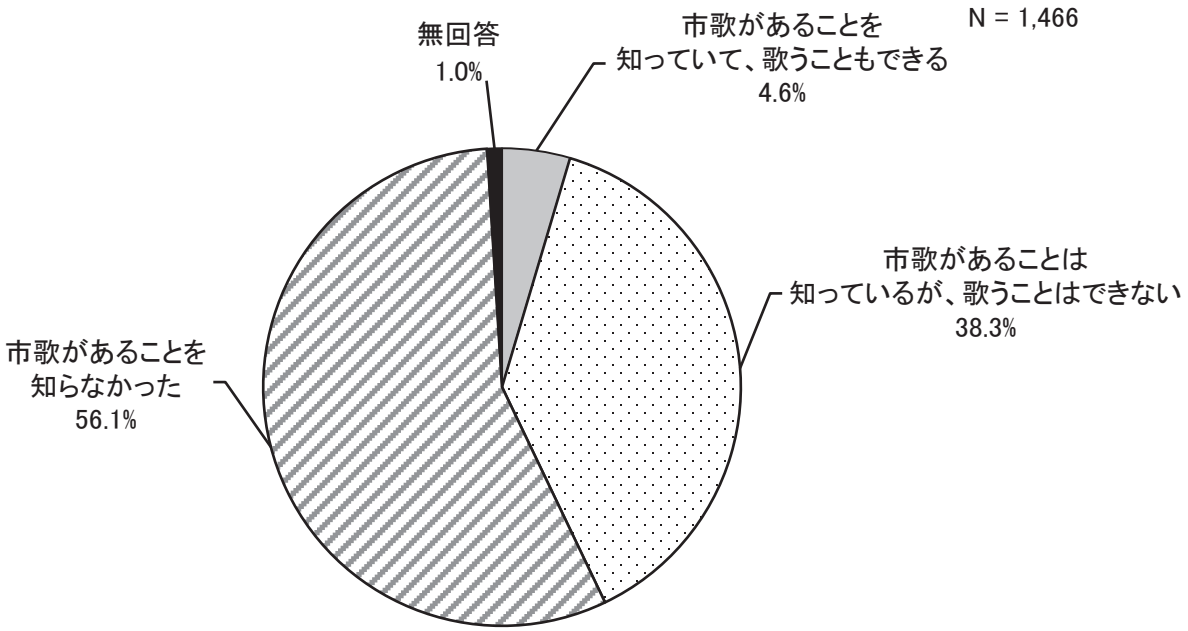
【行政区別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
中区 N=270
7.4
41.9
32.6
17.0
1.1
東区 N=204
4.4
41.2
38.2
14.7
1.5
西区 N=243
7.8
38.7
34.6
17.7
1.2
南区 N=201
10.4
42.3
29.9
16.4
1.0
北区 N=172
5.8
37.8
34.9
19.8
1.7
浜北区 N=187
8.6
35.3
38.0
17.1
1.1
天竜区 N=178
5.1
37.1
36.0
20.2
1.7
詳しく知っている
知っている
言葉だけは知っている
まったく知らない
無回答

２　浜松市歌について

問２　浜松市では、平成１９年、新たに浜松市歌を制定しました。あなたは市歌をご存じですか。また、歌うことができますか。（１つだけ〇を付けてください）

「浜松市歌」を『知っている』人は42.9%



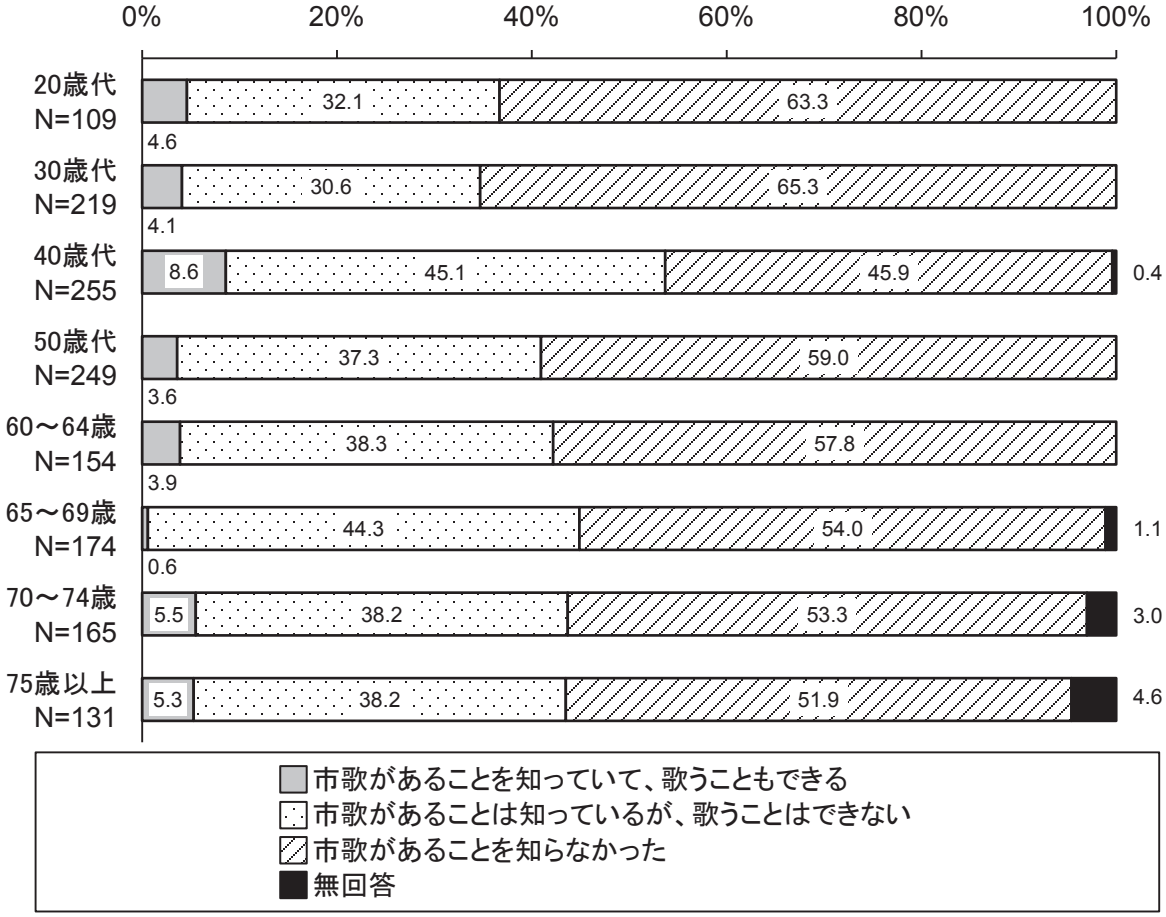
「知っていて、歌うこともできる」は4.6%にとどまったが、「知っているが、歌うことはできない」の38.3%を合わせると42.9%が『知っている』と回答した。「知らなかった」は56.1%と過半数を占め、『知っている』を13.2ポイント上回った。

年齢別でみると、『知っている』の割合は 40 歳代が 53.7%と最も高く、唯一「知らなかった」を上回ったことから、子供の学校行事等を通じて浜松市歌を知った人が多いと思われる。20～30歳代は他の年齢層と比較して「知らなかった」の割合が高かった。現時点では、若年層の認知度は低いが、今後、学校行事等で浜松市歌に慣れ親しんだ世代が増えることにより、若年層の認知度も高まってくるものと思われる。

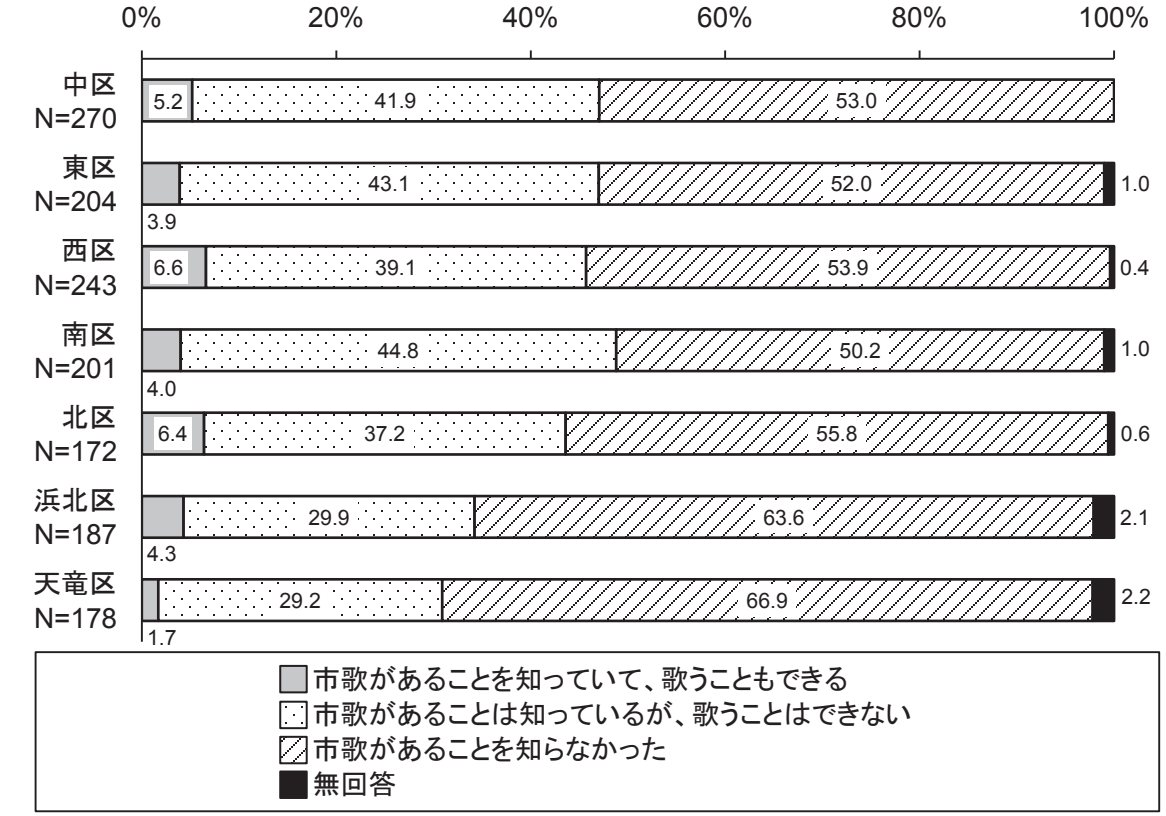
行政区別でみると、『知っている』の割合が最も低いのは天竜区の 30.9%となり、次いで浜北区（34.2%）が低く、旧浜松市外だけで構成されている区への浸透不足が目立った。

今年 6 月から開始したカラオケ配信の活用を含め、今後は、地域や世代等のターゲットを明確にした施策を検討する必要がある。

【年齢別】

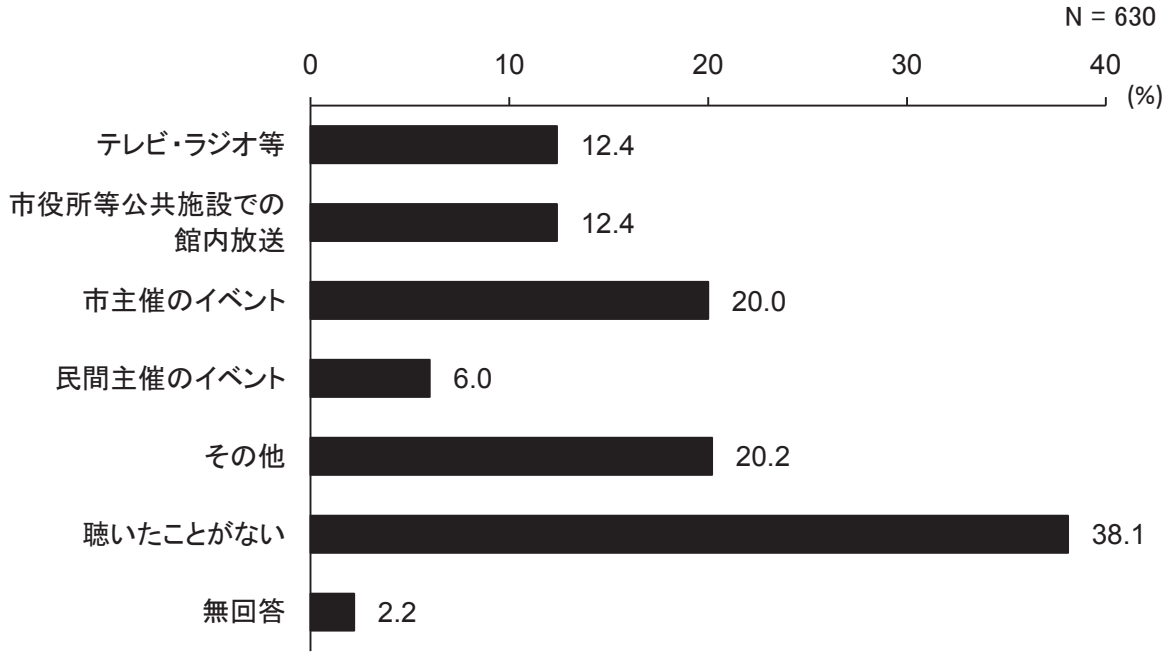

0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
32.1
63.3
4.6
30歳代 N=219
30.6
65.3
4.1
40歳代 N=255
8.6
45.1
45.9
0.4
50歳代 N=249
37.3
59.0
3.6
60～64歳 N=154
38.3
57.8
3.9
65～69歳 N=174
44.3
54.0
1.1
0.6
70～74歳 N=165
5.5
38.2
53.3
3.0
75歳以上 N=131
5.3
38.2
51.9
4.6
市歌があることを知っていて、歌うこともできる
市歌があることは知っているが、歌うことはできない
市歌があることを知らなかった
無回答

【行政区別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
中区 N=270
5.2
41.9
53.0
東区 N=204
43.1
52.0
1.0
3.9
西区 N=243
6.6
39.1
53.9
0.4
南区 N=201
44.8
50.2
1.0
4.0
北区 N=172
6.4
37.2
55.8
0.6
浜北区 N=187
29.9
63.6
2.1
4.3
天竜区 N=178
29.2
66.9
2.2
1.7
市歌があることを知っていて、歌うこともできる
市歌があることは知っているが、歌うことはできない
市歌があることを知らなかった
無回答

問３　問２で「１．市歌があることを知っていて、歌うこともできる」「２．市歌があることは知っているが、歌うことはできない」とお答えされた方に伺います。市歌をどこかで聴いたことがありますか。（あてはまるものすべてに○を付けてください）

浜松市歌を「聴いたことがない」が 38.1%で最も多い



「聴いたことがない」が 38.1%で最も多かった。「聴いたことがない」を除けば、「その他」と「市主催のイベント」がともに約 20%で多かった。

「その他」の記述欄をみると、20 歳代は「自分自身の学校での体験」、30～50 歳代は「子供の学校行事」「子供が歌っていた」、60 歳以上は「孫が歌っていた」「コーラスサークルで歌った」といったコメントが目立った。

性別でみると、「聴いたことがない」を除き、男性は「市主催のイベント」、女性は「その他」の割合が比較的高かった。

年齢別でみると、20～40 歳代は「その他」、50 歳以上は「市主催のイベント」の割合が比較的高かった。

市歌を知ってもらうためには、テレビ・ラジオや館内放送等で歌を流すことに加え、能動的に「聴く」「歌う」機会を増やすことが重要である。「その他」の記述欄でみたとおり、学校を通じて子供たちが市歌を覚える機会が多いことから、子供の世代から市歌を浸透させていくことが有効といえる。入学式・卒業式等の学校行事や市制記念日に合わせ、学校で市歌を歌うなどの機会を増やしていく必要がある。

【性別】

	テレビ・ラジオ等	市役所等公共施設での館内放送	市主催のイベント	民間主催のイベント	その他	聴いたことがない	無回答
男 N=226	13.3	16.8	19.5	4.9	11.5	42.5	1.8
女 N=354	12.7	9.0	19.5	6.8	25.1	36.4	2.5

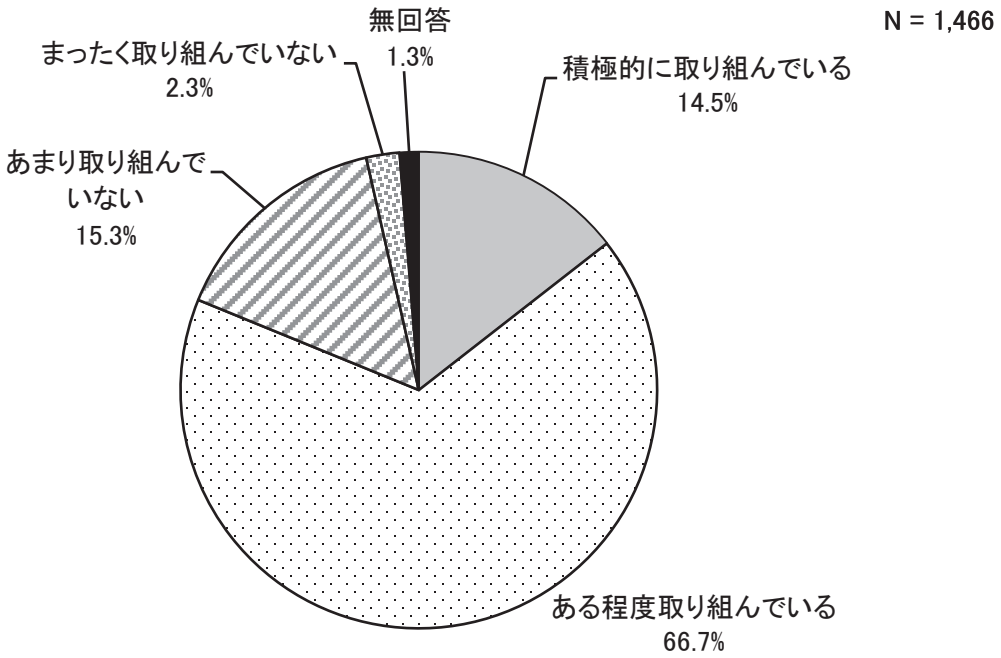
【年齢別】

	テレビ・ラジオ等	市役所等公共施設での館内放送	市主催のイベント	民間主催のイベント	その他	聴いたことがない	無回答
20 歳代 N=40	7.5	10.0	12.5	5.0	32.5	42.5	2.5
30 歳代 N=76	18.4	11.8	10.5	2.6	28.9	36.8	−
40 歳代 N=137	11.7	8.0	15.3	4.4	33.6	35.8	2.9
50 歳代 N=102	14.7	13.7	28.4	2.9	13.7	41.2	1.0
60～64 歳 N=65	7.7	10.8	18.5	9.2	18.5	35.4	1.5
65～69 歳 N=78	9.0	16.7	21.8	10.3	9.0	41.0	1.3
70～74 歳 N=72	15.3	12.5	26.4	8.3	12.5	37.5	4.2
75 歳以上 N=57	12.3	17.5	24.6	7.0	5.3	38.6	5.3

3　環境に配慮したライフスタイルの定着度について

問４　あなたは、日常生活においてごみ減量やリサイクル、環境に配慮した商品の購入、節電・節水などの省エネルギー、環境保全活動への参加など、環境に配慮した取り組みを行っていますか。（１つだけ〇を付けてください）

環境に配慮した取り組みを行っている人は 81.2%



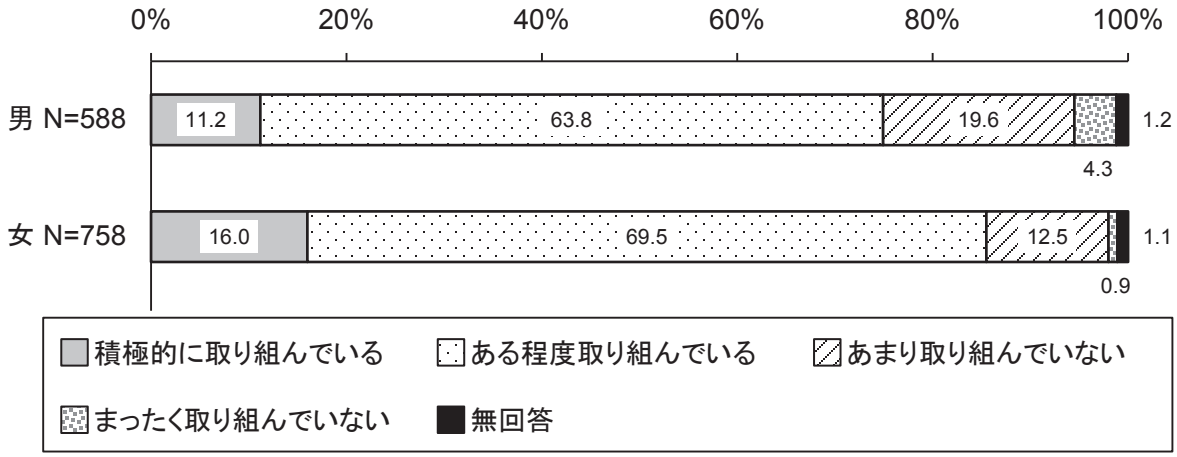
「積極的に取り組んでいる」（14.5%）と「ある程度取り組んでいる」（66.7%）を合わせた割合は 81.2%となり、「まったく取り組んでいない」の 2.3%を大幅に上回った。大半の市民が、環境に配慮した何らかの行動を実践しており、ライフスタイルとして定着しているといえる。

性別でみると、「積極的に取り組んでいる」は男性が 11.2%、女性が 16.0%と女性の方が 4.8 ポイント高くなっており、女性の方がやや積極的である。

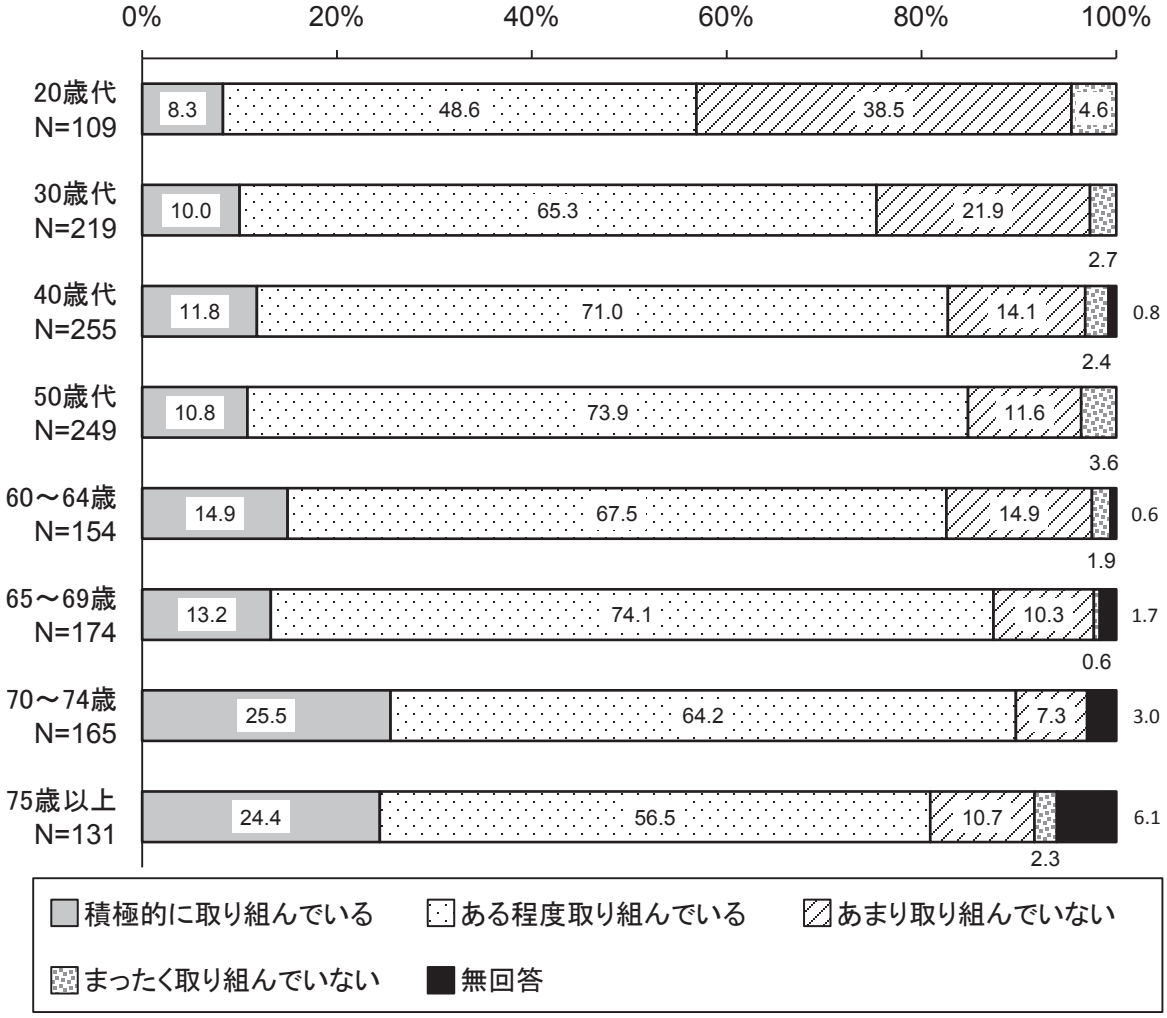
年齢別でみると、70 歳代以上の約 25%が「積極的に取り組んでいる」と回答している一方、20 歳代では 38.5%が「あまり取り組んでいない」と回答している。今後は若い世代の環境に対する意識の向上と行動の変革が望まれる。

持続可能な社会の実現に向けては、全ての市民が環境に配慮した行動や活動を実践することが理想であり、今後も引き続き啓発活動や環境教育を行っていく必要がある。

【性別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
男 N=588
11.2
63.8
19.6
4.3
1.2
女 N=758
16.0
69.5
12.5
0.9
1.1
積極的に取り組んでいる
ある程度取り組んでいる
あまり取り組んでいない
まったく取り組んでいない
無回答

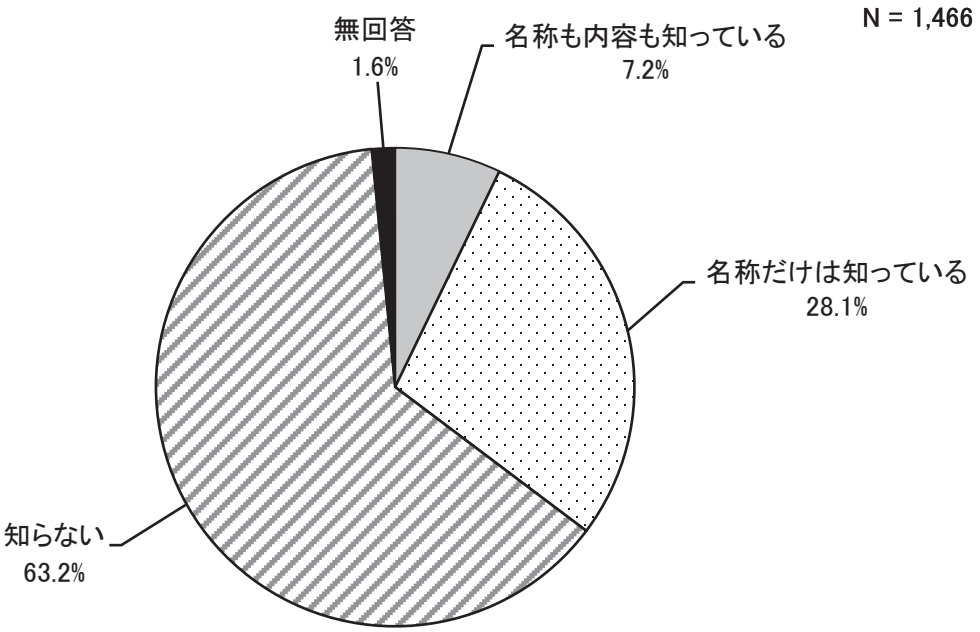
【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
8.3
48.6
38.5
4.6
30歳代 N=219
10.0
65.3
21.9
2.7
40歳代 N=255
11.8
71.0
14.1
2.4
0.8
50歳代 N=249
10.8
73.9
11.6
3.6
60～64歳 N=154
14.9
67.5
14.9
1.9
0.6
65～69歳 N=174
13.2
74.1
10.3
0.6
1.7
70～74歳 N=165
25.5
64.2
7.3
3.0
75歳以上 N=131
24.4
56.5
10.7
2.3
6.1
積極的に取り組んでいる
ある程度取り組んでいる
あまり取り組んでいない
まったく取り組んでいない
無回答

4　障害を理由とした生きづらさ・差別等の事例について

問５　平成２８年４月より、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）が施行されます。地方公共団体等の行政機関や民間事業者は障害を理由とする差別が禁止されることや、合理的配慮を行う義務（民間事業者は努力義務）があることを知っていますか。（１つだけ〇を付けてください）

「障害者差別解消法」の認知度は 35.3％



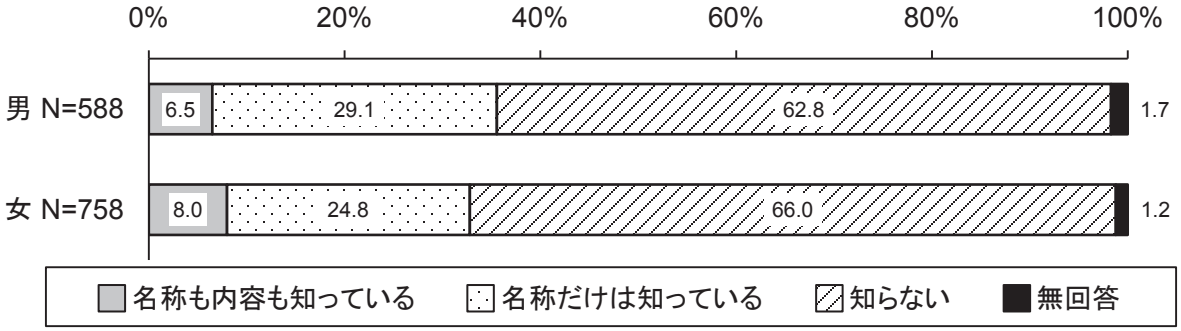
「名称も内容も知っている」（7.2%）と「名称だけは知っている」（28.1%）を合わせた『認知度』は 35.3%となった。

性別でみると、男性の『認知度』は 35.6%、女性の『認知度』は 32.8%と明確な差はみられなかった。

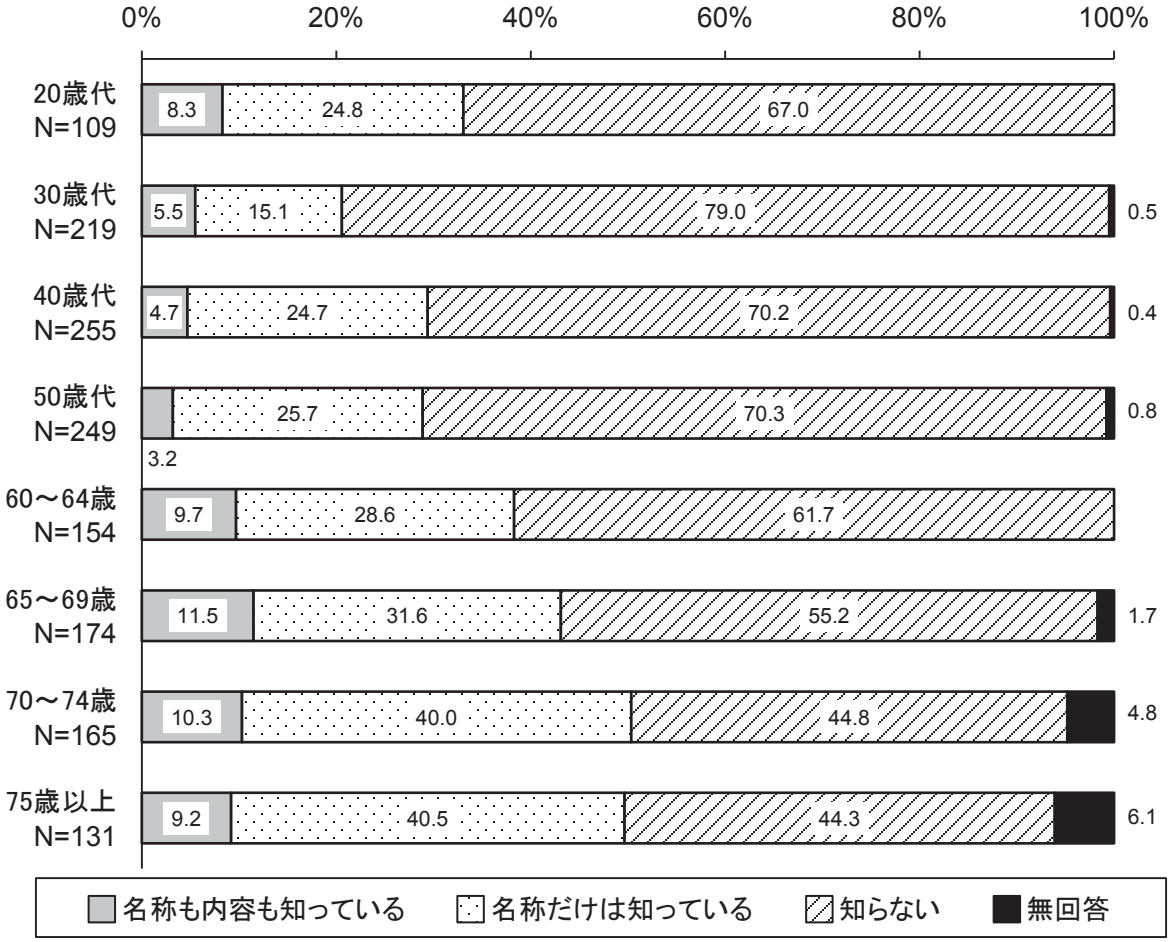
年齢別でみると、『認知度』が50%近い70歳以上であっても、「名称も内容も知っている」人は約1割にとどまっており、全ての年代において、法律の施行を前に周知が十分に行き届いていない状況がある。

今後は、国や県と連携して、民間事業者等への周知を行っていくとともに、広報はままつやホームページ等を活用して、市民に対しても広く啓発を行っていく必要がある。

【性別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
男 N=588
6.5
29.1
62.8
1.7
女 N=758
8.0
24.8
66.0
1.2
名称も内容も知っている
名称だけは知っている
知らない
無回答

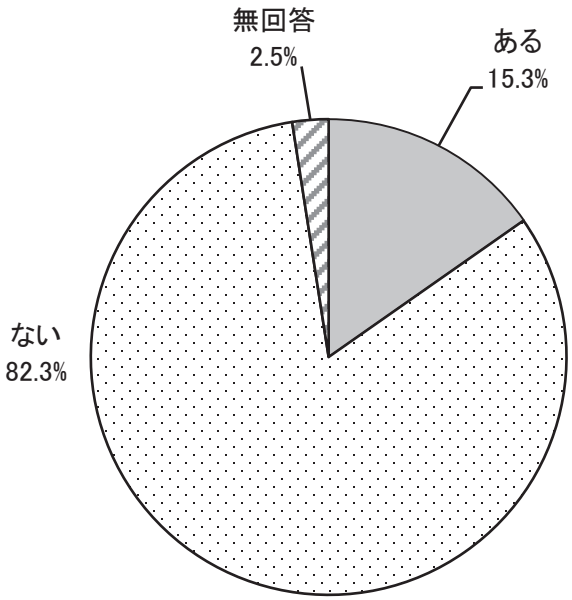
【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
8.3
24.8
67.0
30歳代 N=219
5.5
15.1
79.0
0.5
40歳代 N=255
4.7
24.7
70.2
0.4
50歳代 N=249
3.2
25.7
70.3
0.8
60～64歳 N=154
9.7
28.6
61.7
65～69歳 N=174
11.5
31.6
55.2
1.7
70～74歳 N=165
10.3
40.0
44.8
4.8
75歳以上 N=131
9.2
40.5
44.3
6.1
名称も内容も知っている
名称だけは知っている
知らない
無回答

問６　障害の有無にかかわらず、すべての方に伺います。あなたは、日常生活の中で、障害を理由として「差別を受けたと思った」「生活のなかでいやな思いをした」こと、「差別を受けている、いやな思いをしている場面を見た」ことがありますか。
（１つだけ〇を付けてください）

障害を理由とした差別の経験や、差別の場面を見たことがある人は 15.3%

N = 1,466



「ある」と回答した人は 15.3%となった。性別で見ると、男性が 16.2%、女性が 14.8%と明確な差がみられなかった。

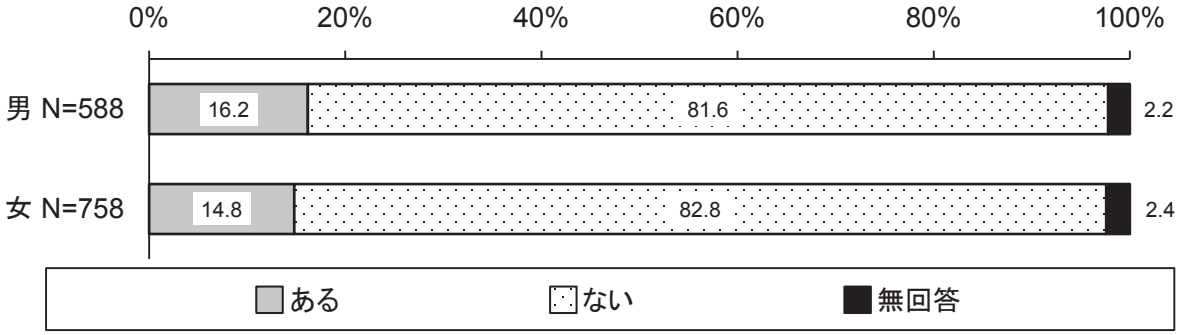
年齢別でみると、「ある」の回答割合が最も高かったのは 40 歳代の 22.0%。次いで 20 歳代（18.3%）、30 歳代（17.8%）の順に高く、20～40 歳代の子育て世代で「ある」の回答割合が高かった。これは、回答者自身が受けた（見た）差別だけではなく、回答者の子供や周囲の人が受けた（見た）差別も含めて「ある」と回答したことで、回答割合が高くなったものと思われる。「ある」の回答割合が最も低かったのは、75 歳以上の 5.3%だった。

記述された具体例をみると、差別をしていないつもりでも障がい者は差別と感じてしまう事例、歩道や階段などのハード面に関する件など多様な意見が寄せられた。

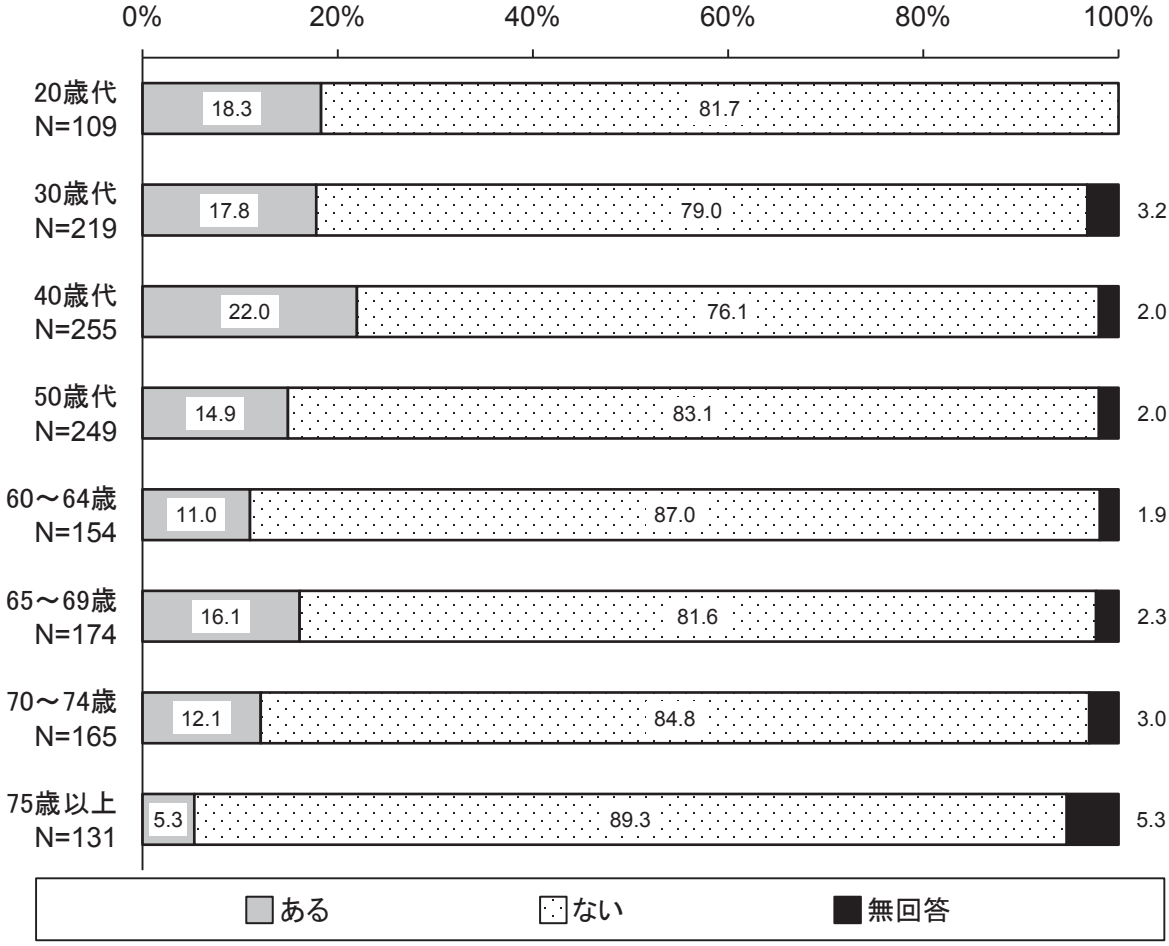
主な具体例

- 障がい者を避ける目線を感じる。
- 職場で耳の聞こえない人がいるが、その人が聞こえないことをいいことに悪口を言っている。
- 発達障害の息子の行動を理解してもらえず、学校でいじめを受けてしまったり、家族にも避けられたり孤立してしまい、嫌な思いをしている。

【性別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
男 N=588
16.2
81.6
2.2
女 N=758
14.8
82.8
2.4
ある
ない
無回答

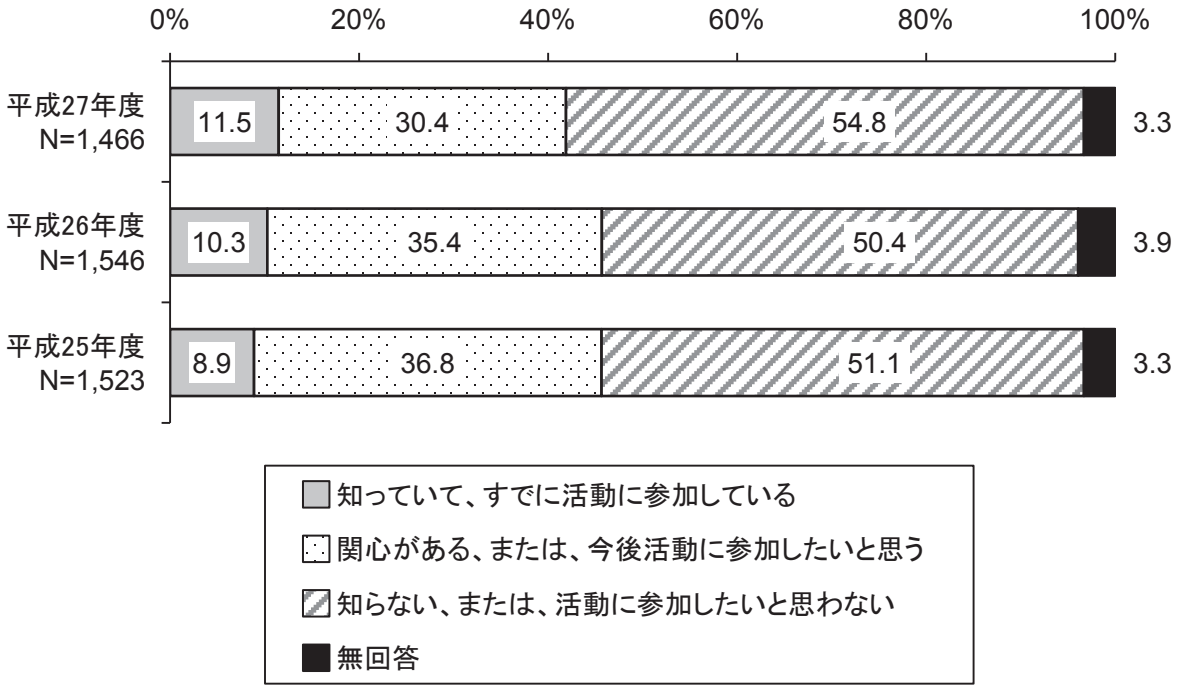
【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
18.3
81.7
30歳代 N=219
17.8
79.0
3.2
40歳代 N=255
22.0
76.1
2.0
50歳代 N=249
14.9
83.1
2.0
60～64歳 N=154
11.0
87.0
1.9
65～69歳 N=174
16.1
81.6
2.3
70～74歳 N=165
12.1
84.8
3.0
75歳以上 N=131
5.3
89.3
5.3
ある
ない
無回答

5　地区社会福祉協議会について

問７　あなたは「地区社会福祉協議会」をご存じですか。（１つだけ〇を付けてください）

「地区社会福祉協議会」の活動に参加している人は 11.5%



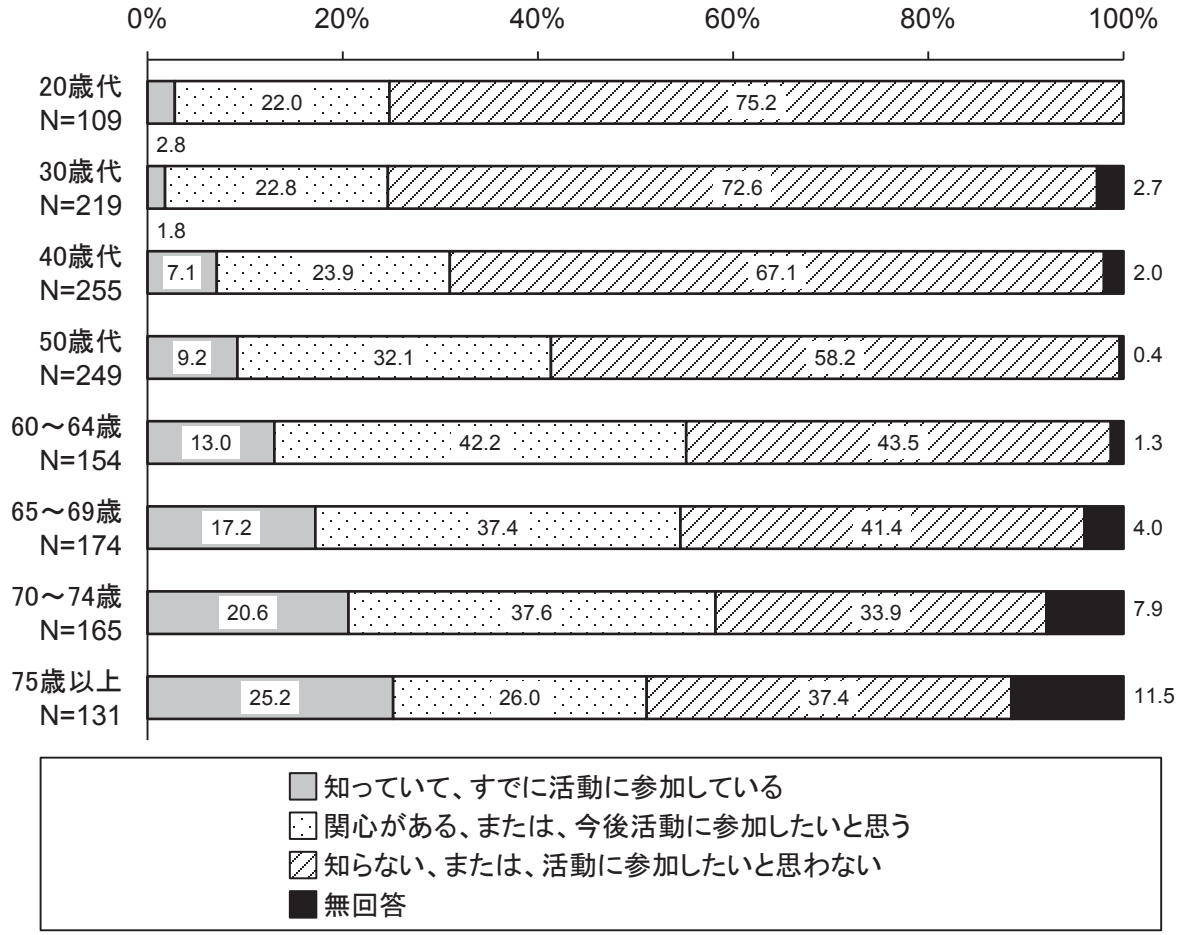
「知っていて、すでに活動に参加している」が 11.5%、「関心がある、または、今後活動に参加したいと思う」が 30.4%であった。「知っていて、すでに活動に参加している」と「関心がある、または、今後活動に参加したいと思う」を合わせた『関心度』は 41.9%となり、平成 26 年度調査から 3.8 ポイント低下した。地区社会福祉協議会活動の地域住民への周知が進んでいない状況がうかがえる。

年齢別でみると、20 歳代、30 歳代の『関心度』はいずれも約 25%と平成 26 年度調査より約 5 ポイント低くなり、50 歳代は 41.3%と 50 歳代未満の年齢層よりは高めであるが、平成 26 年度調査と比較すると約 10ポイント低くなっている。

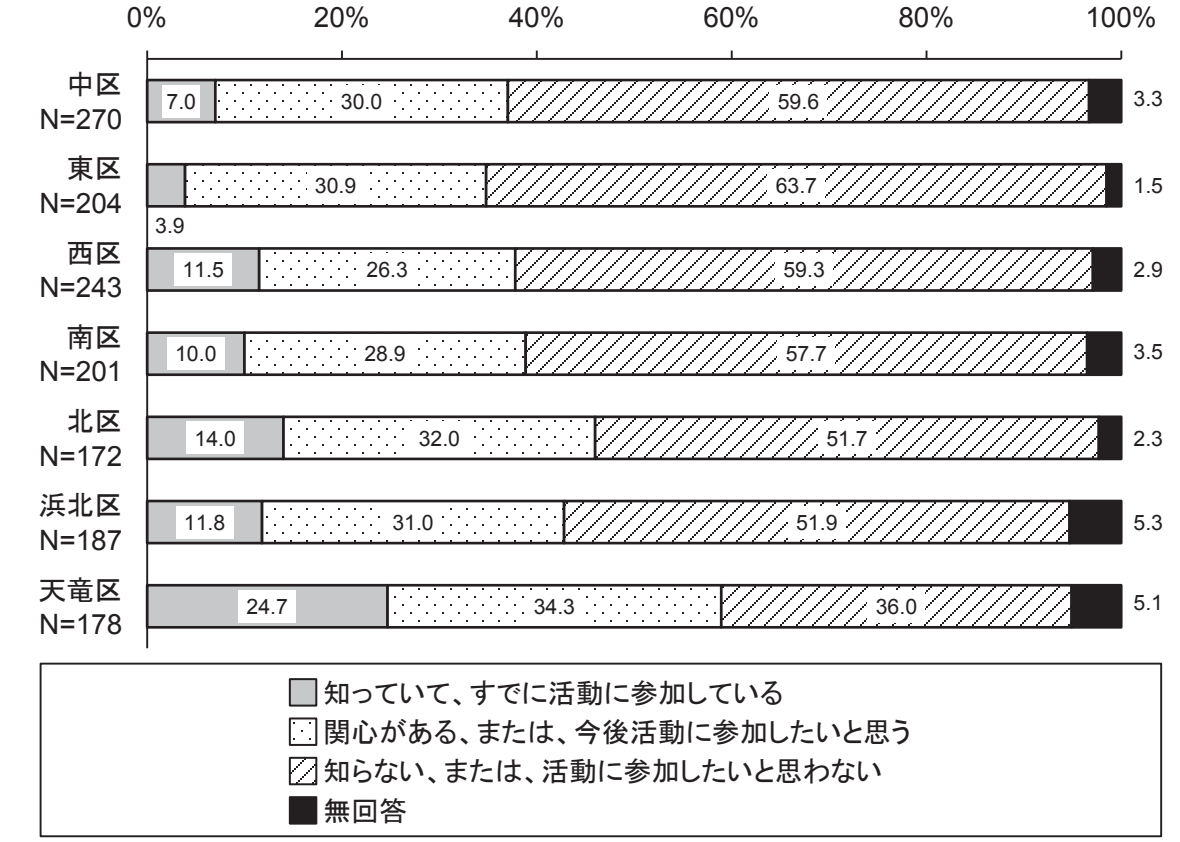
地区社会福祉協議会の活動を充実させることは、今後の地域福祉推進の大きな柱であることから、若い世代にも魅力を感じてもらえるような事業づくりを考えたり、若い世代のボランティアグループと地区社会福祉協議会とのネットワークづくりを進めるなど、地域の多くの人に地区社会福祉協議会の活動を知ってもらえるような取り組みを進める必要がある。

行政区別でみると、天竜区の『関心度』が 59.0%で最も高かった。最も低かったのは東区の 34.8%で、天竜区とは 24.2 ポイントの差があった。各区の地域ニーズにあった活動を行うことにより『関心度』を高めていくことも必要である。

【年齢別】

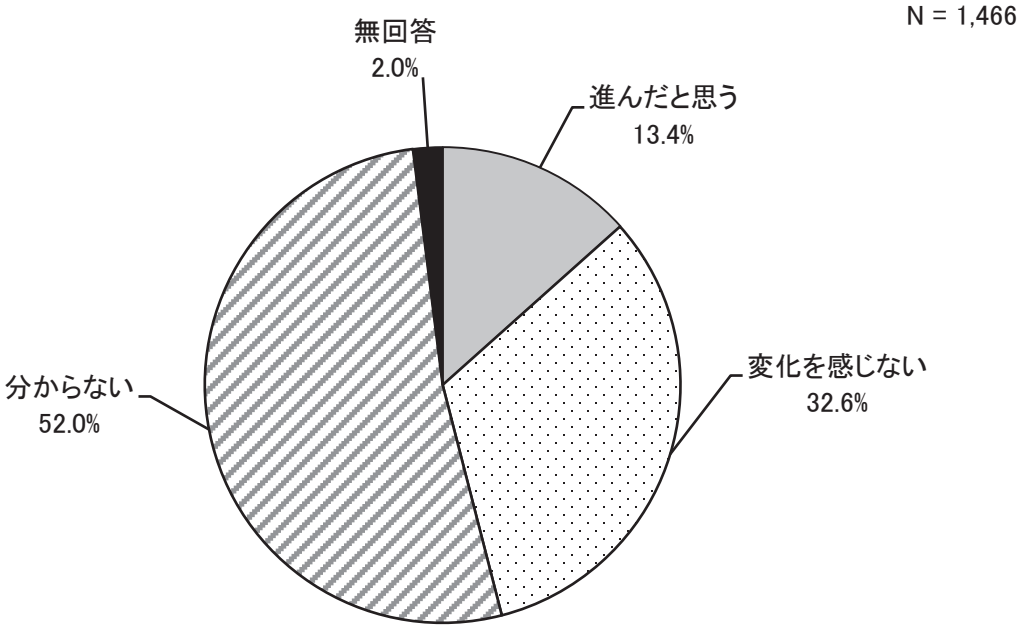

0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
22.0
75.2
2.8
30歳代 N=219
22.8
72.6
2.7
1.8
40歳代 N=255
7.1
23.9
67.1
2.0
50歳代 N=249
9.2
32.1
58.2
0.4
60～64歳 N=154
13.0
42.2
43.5
1.3
65～69歳 N=174
17.2
37.4
41.4
4.0
70～74歳 N=165
20.6
37.6
33.9
7.9
75歳以上 N=131
25.2
26.0
37.4
11.5
知っていて、すでに活動に参加している
関心がある、または、今後活動に参加したいと思う
知らない、または、活動に参加したいと思わない
無回答

【行政区別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
中区 N=270
7.0
30.0
59.6
3.3
東区 N=204
30.9
63.7
1.5
3.9
西区 N=243
11.5
26.3
59.3
2.9
南区 N=201
10.0
28.9
57.7
3.5
北区 N=172
14.0
32.0
51.7
2.3
浜北区 N=187
11.8
31.0
51.9
5.3
天竜区 N=178
24.7
34.3
36.0
5.1
知っていて、すでに活動に参加している
関心がある、または、今後活動に参加したいと思う
知らない、または、活動に参加したいと思わない
無回答

問８　地区社会福祉協議会の設立により、地域での支え合いが進んだと思いますか。
（１つだけ〇を付けてください）

地区社会福祉協議会の設立により、地域での支え合いが「進んだと思う」人は13.4%



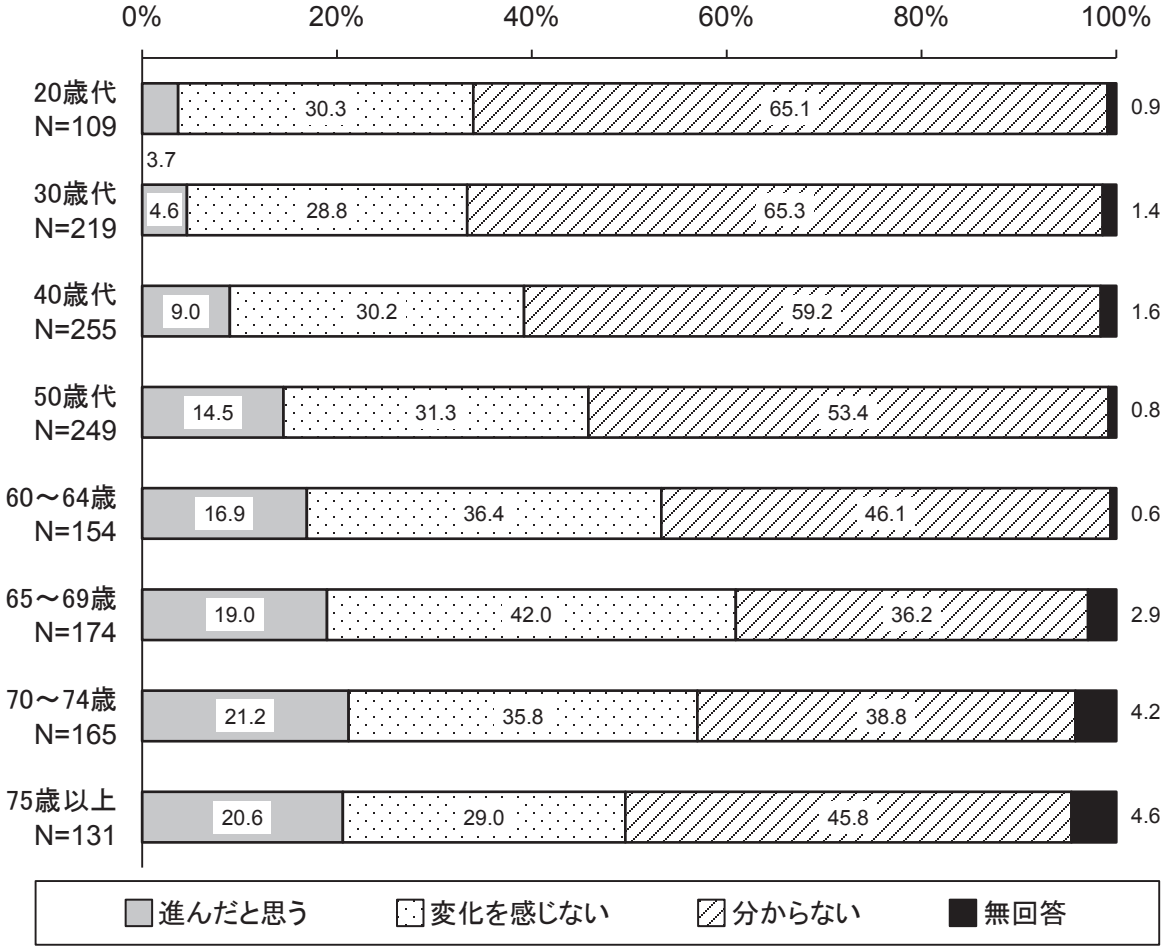
「進んだと思う」は 13.4%にとどまり、「変化を感じない」が 32.6%、「分からない」が 52.0%となった。

年齢別でみると、年齢が高まるに伴い「進んだと思う」の回答割合が高くなる傾向がみられたが、いずれの年齢層においても、「変化を感じない」が「進んだと思う」を上回っている。

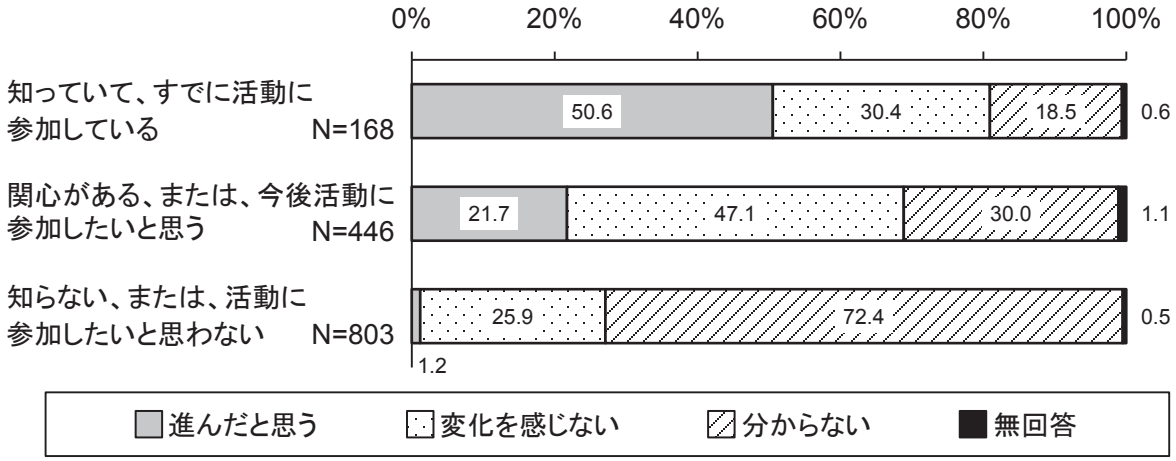
問７でたずねた地区社会福祉協議会の『関心度』別でみると、「知っていて、すでに活動に参加している」と回答した人は「進んだと思う」が 50.6%と過半数に達している一方、「知らない、または、活動に参加したいと思わない」と回答した人は「進んだと思う」がわずか 1.2%にとどまり、72.4%が「分からない」と回答している。

仮に、地区社会福祉協議会の設立により、地域での支え合いが進んでいたとしても、地区社会福祉協議会への関心や認知度が低ければ、地域での支え合いが進んでいることを実感することができないと思われることから、地区社会福祉協議会活動の周知を強化していく必要がある。

【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代
N=109
3.7
30.3
65.1
0.9
30歳代
N=219
4.6
28.8
65.3
1.4
40歳代
N=255
9.0
30.2
59.2
1.6
50歳代
N=249
14.5
31.3
53.4
0.8
60～64歳
N=154
16.9
36.4
46.1
0.6
65～69歳
N=174
19.0
42.0
36.2
2.9
70～74歳
N=165
21.2
35.8
38.8
4.2
75歳以上
N=131
20.6
29.0
45.8
4.6
進んだと思う
変化を感じない
分からない
無回答

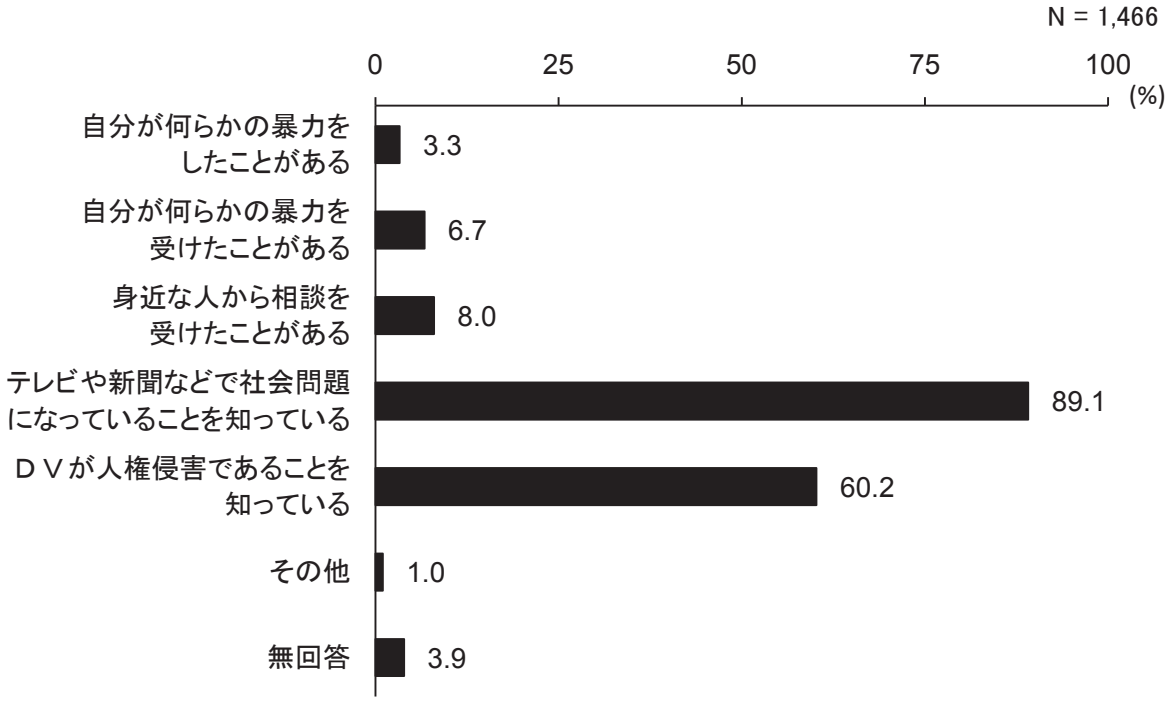
【関心度別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
知っていて、すでに活動に参加している N=168
50.6
30.4
18.5
0.6
関心がある、または、今後活動に参加したいと思う N=446
21.7
47.1
30.0
1.1
知らない、または、活動に参加したいと思わない N=803
1.2
25.9
72.4
0.5
進んだと思う
変化を感じない
分からない
無回答

6　ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）について

問９　配偶者（元配偶者、事実婚、生活の本拠を共にする交際相手も含む）や恋人等から行われるドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）について、あなたの経験や知識を伺います。（あてはまるものすべてに〇を付けてください）

「ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）」の認知度は89.1%

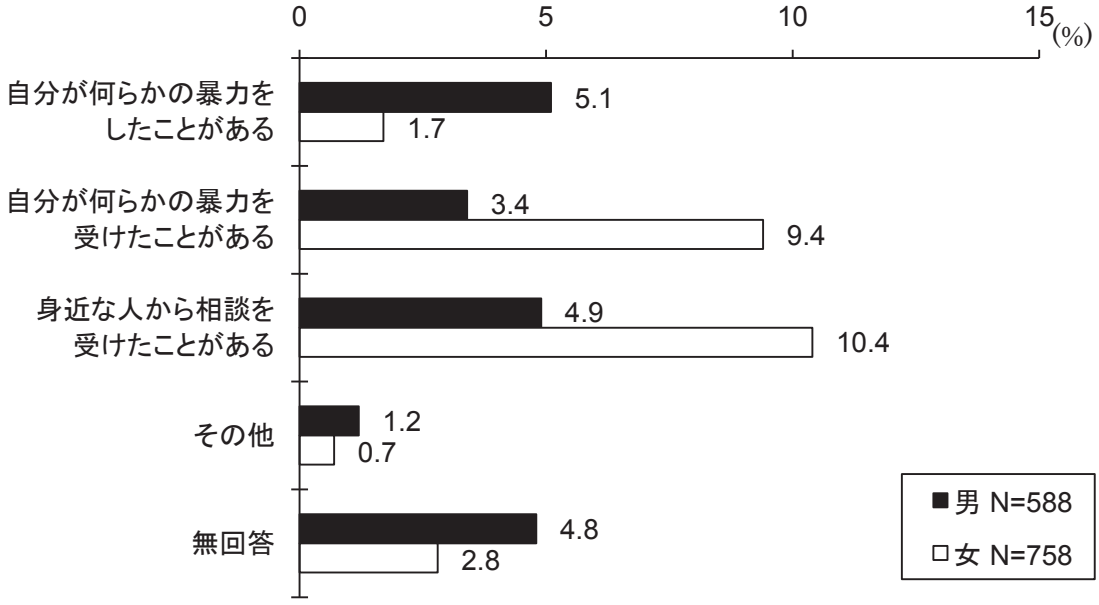


「自分が何らかの暴力をしたことがある」は 3.3%、「自分が何らかの暴力を受けたことがある」は 6.7%といずれも少数意見であったが、加害者の構成比に着目すると、男性が女性の 3 倍、被害者は女性が男性の約 3 倍と、性別による差がみられ、男性からの暴力が多いことが読み取れる。

「テレビや新聞などで社会問題になっていることを知っている」は89.1%であったのに対し、「DVが人権侵害であることを知っている」は60.2%にとどまり、認知と認識に乖離（かいり）がみられた。年齢別でみると、「テレビや新聞などで社会問題になっていることを知っている」は年齢による差がみられなかったが、「DV が人権侵害であることを知っている」は年齢により、ややバラつきがみられた。

以上から、防止啓発においてはDVが人権侵害であることを含め継続的に取り組む必要があるといえる。

【性別】

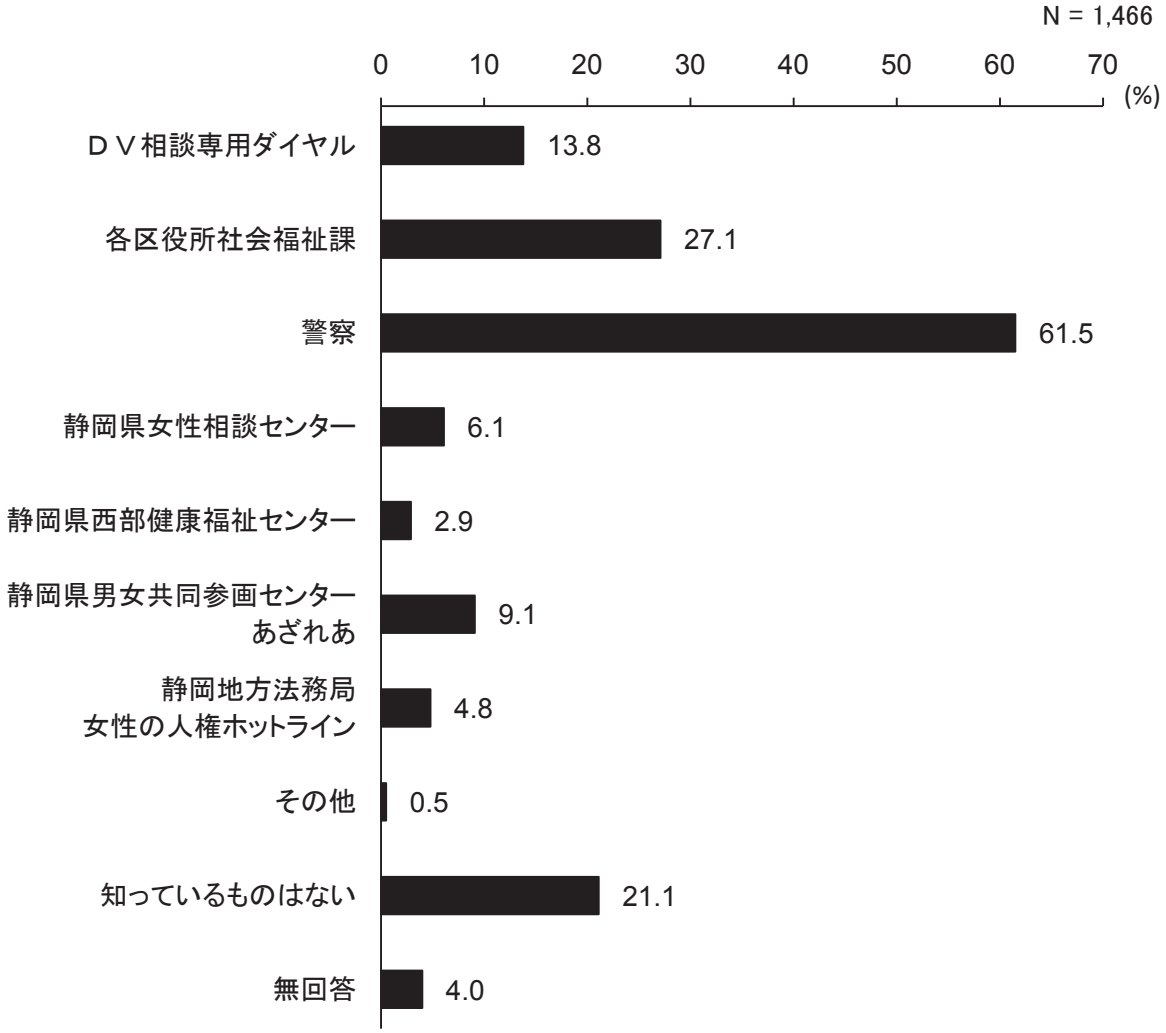


【年齢別】

	自分が何らかの暴力をしたことがある	自分が何らかの暴力を受けたことがある	身近な人から相談を受けたことがある	テレビや新聞などで社会問題になっていることを知っている	DVが人権侵害であることを知っている	その他	無回答
20 歳代 N=109	1.8	7.3	13.8	86.2	55.0	−	6.4
30 歳代 N=219	3.7	6.8	9.6	89.5	57.1	0.9	4.6
40 歳代 N=255	2.7	9.0	11.0	88.6	59.6	0.4	4.3
50 歳代 N=249	2.0	5.2	6.0	92.8	65.1	0.4	0.8
60～64 歳 N=154	5.8	5.8	5.2	89.6	65.6	1.3	1.3
65～69 歳 N=174	5.2	7.5	5.2	90.2	70.1	1.1	2.3
70～74 歳 N=165	2.4	6.7	6.7	86.7	55.2	3.0	4.8
75 歳以上 N=131	3.1	3.8	7.6	85.5	48.9	0.8	9.2

問 10　あなたは、ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）について相談できる窓口を知っていますか。（あてはまるものすべてに〇を付けてください）

ドメスティック･バイオレンスの相談窓口として知っているのは、「警察」が61.5%で最も多い



「警察」が61.5%で最も多かった。次いで「各区役所社会福祉課」が 27.1%で多く、「知っているものはない」も 21.1%あった。「DV 相談専用ダイヤル」は 13.8%にとどまっていることから、「DV 相談専用ダイヤル」を身近な初期相談窓口として定着させるため、一層の周知に努める必要がある。

問 9 で「自分が何らかの暴力を受けたことがある」と回答した人は、全体の回答割合と比較して「DV 相談専用ダイヤル」「各区役所社会福祉課」「警察」の回答割合が低く、「知っているものはない」の回答割合が高い。DV の被害を受け、相談が必要な人に相談窓口が周知されていない可能性があり、医療機関、公共施設等へのリーフレットの設置などにより、さらなる周知を行っていく必要がある。

【性別】

	ＤＶ相談専用ダイヤル	各区役所社会福祉課	警察	静岡県女性相談センター	静岡県西部健康福祉センター	あざれあ	女性の人権ホットライン	その他	知っているものはない	無回答
男 N=588	11.9	27.0	61.6	4.1	2.9	4.6	3.4	0.5	24.5	3.4
女 N=758	15.4	26.6	62.7	8.2	2.6	12.4	5.9	0.5	17.7	4.0

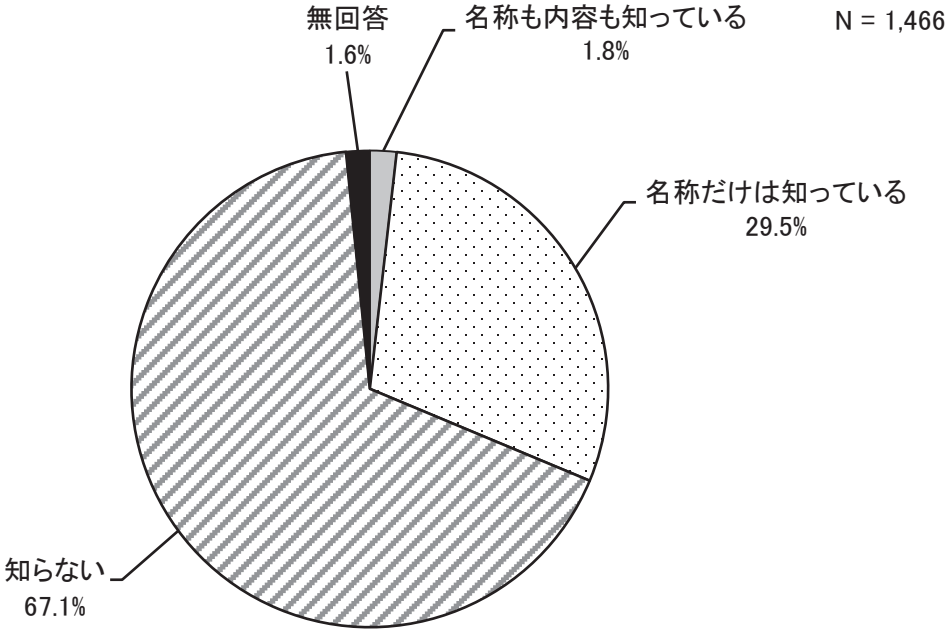
【DV の経験や知識別】

	ＤＶ相談専用ダイヤル	各区役所社会福祉課	警察	静岡県女性相談センター	静岡県西部健康福祉センター	あざれあ	女性の人権ホットライン	その他	知っているものはない	無回答
自分が何らかの暴力をしたことがある N=49	14.3	24.5	57.1	2.0	4.1	6.1	4.1	2.0	24.5	2.0
自分が何らかの暴力を受けたことがある N=98	12.2	19.4	53.1	7.1	4.1	10.2	4.1	1.0	28.6	4.1
身近な人から相談を受けたことがある N=117	20.5	27.4	57.3	10.3	4.3	18.8	8.5	1.7	13.7	4.3
社会問題になっていることを知っている N=1,306	14.5	28.7	64.5	6.1	3.0	9.6	5.1	0.5	20.3	1.8
DVが人権侵害であることを知っている N=883	15.6	32.8	69.8	7.2	3.5	12.5	5.3	0.8	16.3	1.0
その他 N=14	14.3	28.6	42.9	7.1	－	－	－	7.1	35.7	7.1

7　浜松市平和都市宣言について

問 11　あなたは「浜松市平和都市宣言」をご存じですか。（１つだけ○を付けてください）

「浜松市平和都市宣言」の認知度は 31.3%

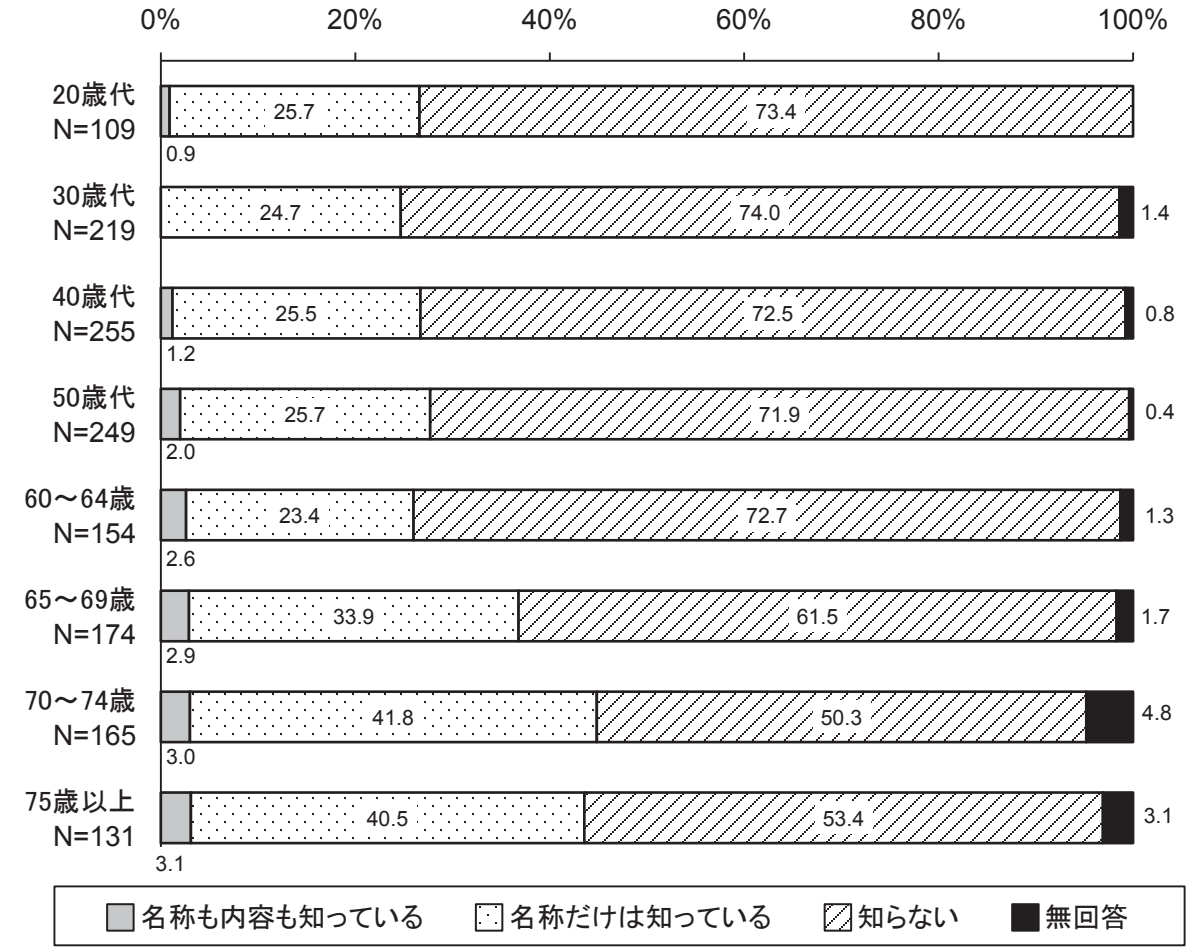


「名称も内容も知っている」は 1.8%にとどまり、現状では浜松市平和都市宣言の内容まで知っている人は極めて少ない。「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」（29.5%）を合わせた『認知度』は 31.3%となり、「知らない」の 67.1%を 35.8 ポイント下回った。

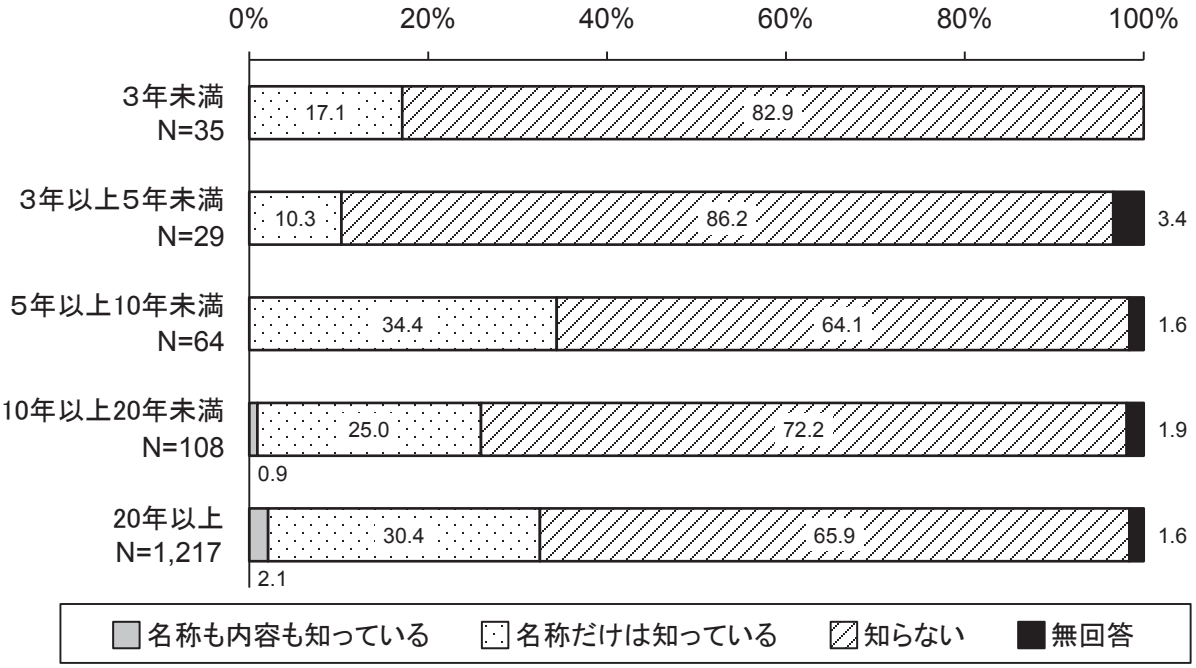
年齢別でみると、『認知度』が最も高いのは 70～74 歳の 44.8%。次いで、75 歳以上の 43.6%であった。ただし、『認知度』が比較的高い、70歳以上においても、「知らない」人が過半数を占めていることに加え、「名称も内容も知っている」人は約3%にとどまっており、名称の認知度向上はもちろん、内容まで踏まえた啓発活動が必要といえる。

居住年数別でみると、市内での居住年数が短い人ほど、『認知度』が低い傾向がみられた。

【年齢別】

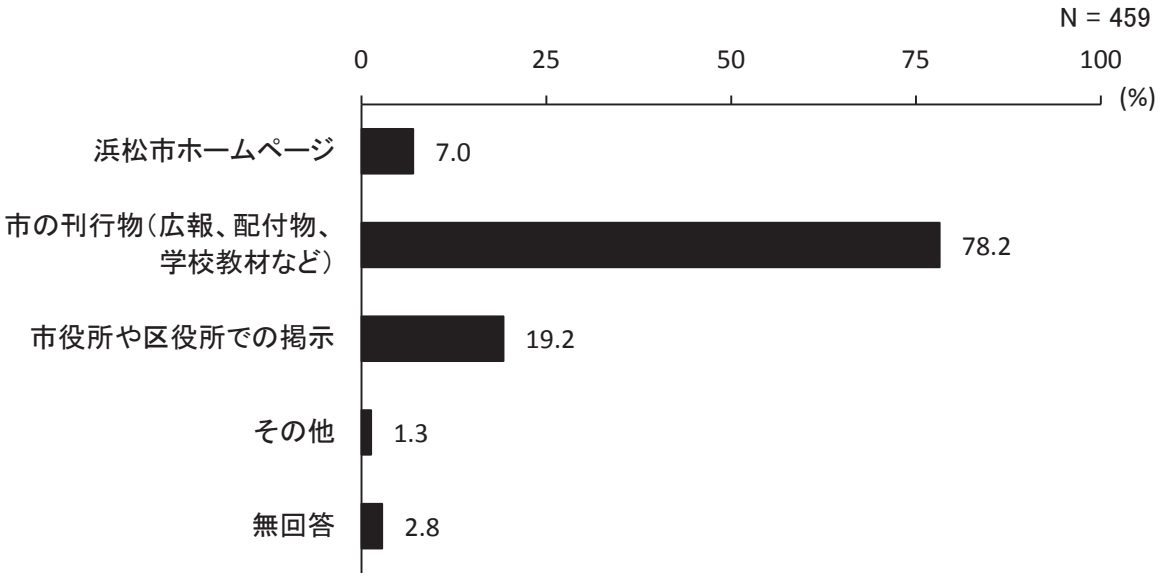

0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代
N=109
25.7
73.4
0.9
30歳代
N=219
24.7
74.0
1.4
40歳代
N=255
25.5
72.5
0.8
1.2
50歳代
N=249
25.7
71.9
0.4
2.0
60～64歳
N=154
23.4
72.7
1.3
2.6
65～69歳
N=174
33.9
61.5
1.7
2.9
70～74歳
N=165
41.8
50.3
4.8
3.0
75歳以上
N=131
40.5
53.4
3.1
3.1
名称も内容も知っている
名称だけは知っている
知らない
無回答

【居住年数別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
3年未満
N=35
17.1
82.9
3年以上5年未満
N=29
10.3
86.2
3.4
5年以上10年未満
N=64
34.4
64.1
1.6
10年以上20年未満
N=108
25.0
72.2
1.9
0.9
20年以上
N=1,217
30.4
65.9
1.6
2.1
名称も内容も知っている
名称だけは知っている
知らない
無回答

問 12　問 11 で「１．名称も内容も知っている」「２．名称だけは知っている」とお答えされた方に伺います。「浜松市平和都市宣言」を何で知りましたか。（あてはまるものすべてに〇を付けてください）

「浜松市平和都市宣言」を知ったきっかけは、「市の刊行物」が最も多い



「市の刊行物（広報、配付　物、学校教材など）」が 78.2%と圧倒的に多かった。

年齢別でみると、いずれの年齢においても「市の刊行物」が一番多いが、20 歳代は他の年代と比較して「浜松市ホームページ」の回答割合が高く、50 歳代は「市役所や区役所での掲示」の回答割合が高いなど、年齢により傾向が異なった。

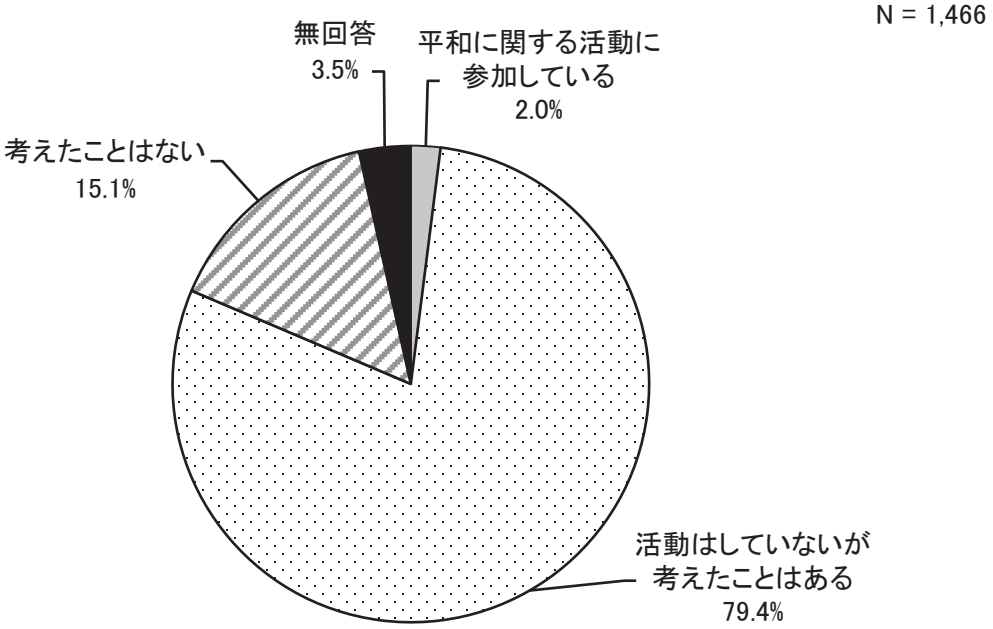
今後、啓発活動を行う際には、年齢ごとに効果的な媒体・方法を考えていく必要がある。

【年齢別】

	浜松市ホームページ	市の刊行物（広報、配付物、学校教材など）	市役所や区役所での掲示	その他	無回答
20 歳代 N=29	24.1	62.1	13.8	6.9	－
30 歳代 N=54	1.9	79.6	20.4	－	3.7
40 歳代 N=68	5.9	77.9	16.2	2.9	2.9
50 歳代 N=69	7.2	71.0	30.4	－	4.3
60～64 歳 N=40	5.0	80.0	20.0	－	2.5
65～69 歳 N=64	7.8	82.8	17.2	1.6	－
70～74 歳 N=74	6.8	83.8	16.2	1.4	2.7
75 歳以上 N=57	5.3	78.9	17.5	－	5.3

問 13　平和について活動したり、考えたことがありますか。（１つだけ〇を付けてください）

平和について考えている人は 81.4%



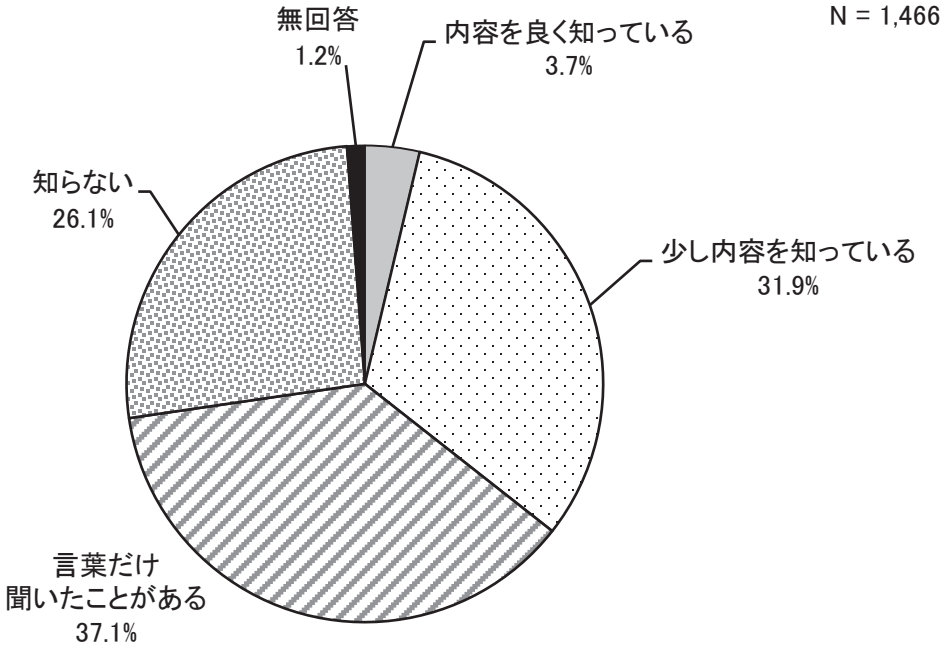
「活動はしていないが考えたことはある」が 79.4%で圧倒的に多かった。「考えたことはない」は 15.1%、「平和に関する活動に参加している」は 2.0%にとどまった。

「平和に関する活動に参加している」と「活動はしていないが考えたことはある」を合わせた『考えている』人の合計は 81.4%であった。

8　新電力の活用について

問 14　あなたは平成２８年度から、「電力の小売自由化」という、今までの電力会社以外（新電力）からも電力を購入することができるようになる制度が始まることを知っていますか。（１つだけ〇を付けてください）

平成 28 年度から始まる「電力の小売自由化」の理解度は35.6%



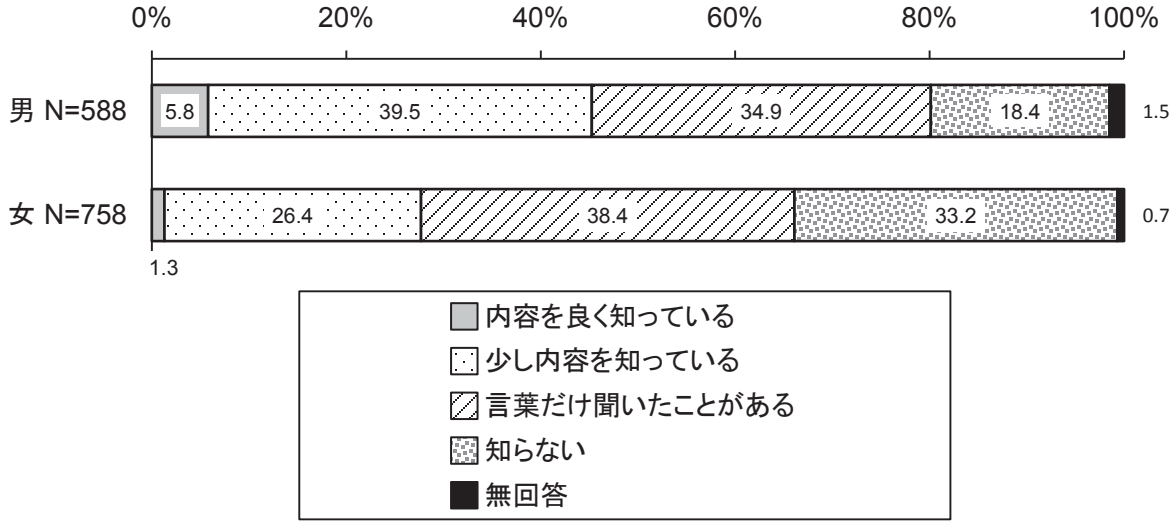
「内容を良く知っている」は 3.7%にとどまったが、「少し内容を知っている」（31.9%）と合わせた『理解度』は35.6%となった。また、「言葉だけ聞いたことがある」を含めた『認知度』は72.7%となった。

性別でみると、男性の『理解度』は 45.3%あったのに対し、女性は 27.7%と 17.6 ポイントの差があった。また、女性の 3 人に 1 人が「知らない」と回答している。

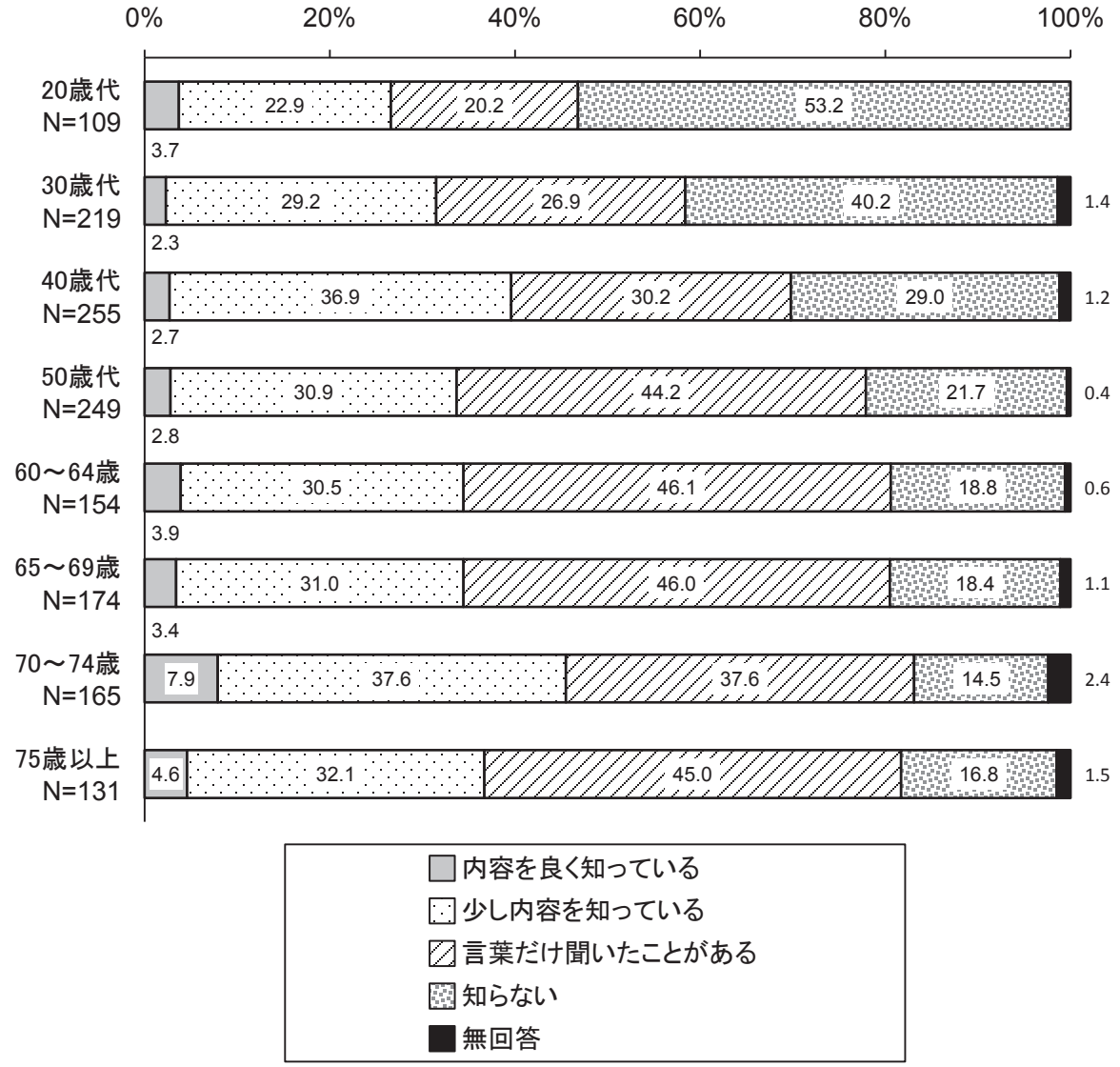
年齢別でみると、『理解度』が最も高かったのは70～74歳の45.5%。次いで40歳代の39.6%であった。また、『理解度』が最も低かったのは20歳代の26.6%となった。

電力の小売自由化が始まれば、メディア等で取り上げられる機会が増え『理解度』も向上すると思われるが、市としても『理解度』を底上げするため、より一層の広報強化をしていく必要がある。

【性別】

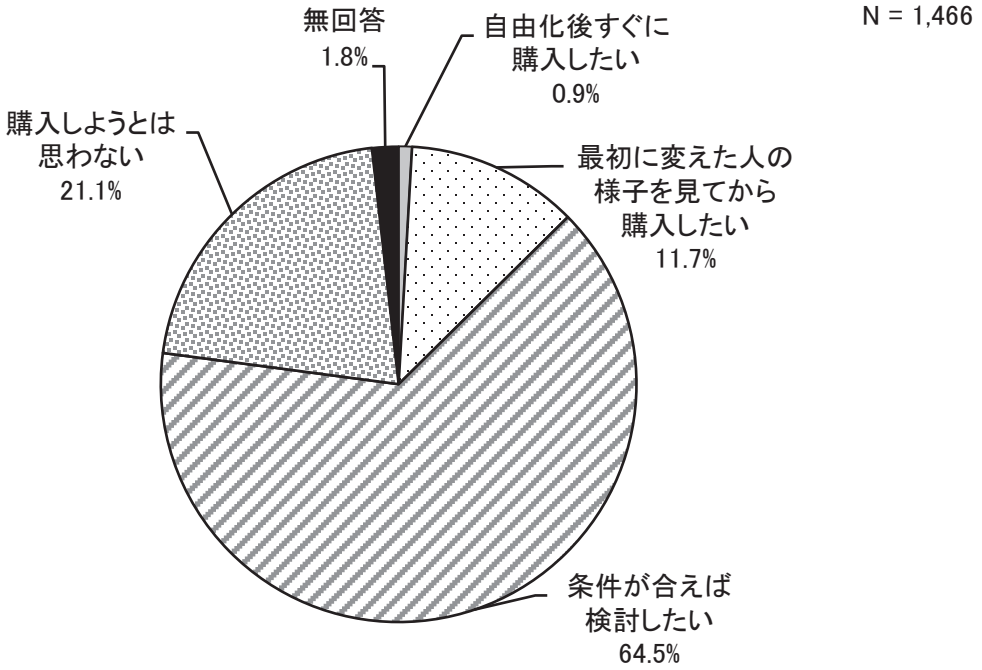

0%
20%
40%
60%
80%
100%
男 N=588
5.8
39.5
34.9
18.4
1.5
女 N=758
1.3
26.4
38.4
33.2
0.7
内容を良く知っている
少し内容を知っている
言葉だけ聞いたことがある
知らない
無回答

【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
3.7
22.9
20.2
53.2
30歳代 N=219
2.3
29.2
26.9
40.2
1.4
40歳代 N=255
2.7
36.9
30.2
29.0
1.2
50歳代 N=249
2.8
30.9
44.2
21.7
0.4
60～64歳 N=154
3.9
30.5
46.1
18.8
0.6
65～69歳 N=174
3.4
31.0
46.0
18.4
1.1
70～74歳 N=165
7.9
37.6
37.6
14.5
2.4
75歳以上 N=131
4.6
32.1
45.0
16.8
1.5
内容を良く知っている
少し内容を知っている
言葉だけ聞いたことがある
知らない
無回答

問 15　一般家庭の電力小売自由化が始まった場合、あなたはこの新電力から電力を購入しようと思いますか。（１つだけ〇を付けてください）

新電力からの電力購入は「条件が合えば検討したい」が 64.5%で最も多い

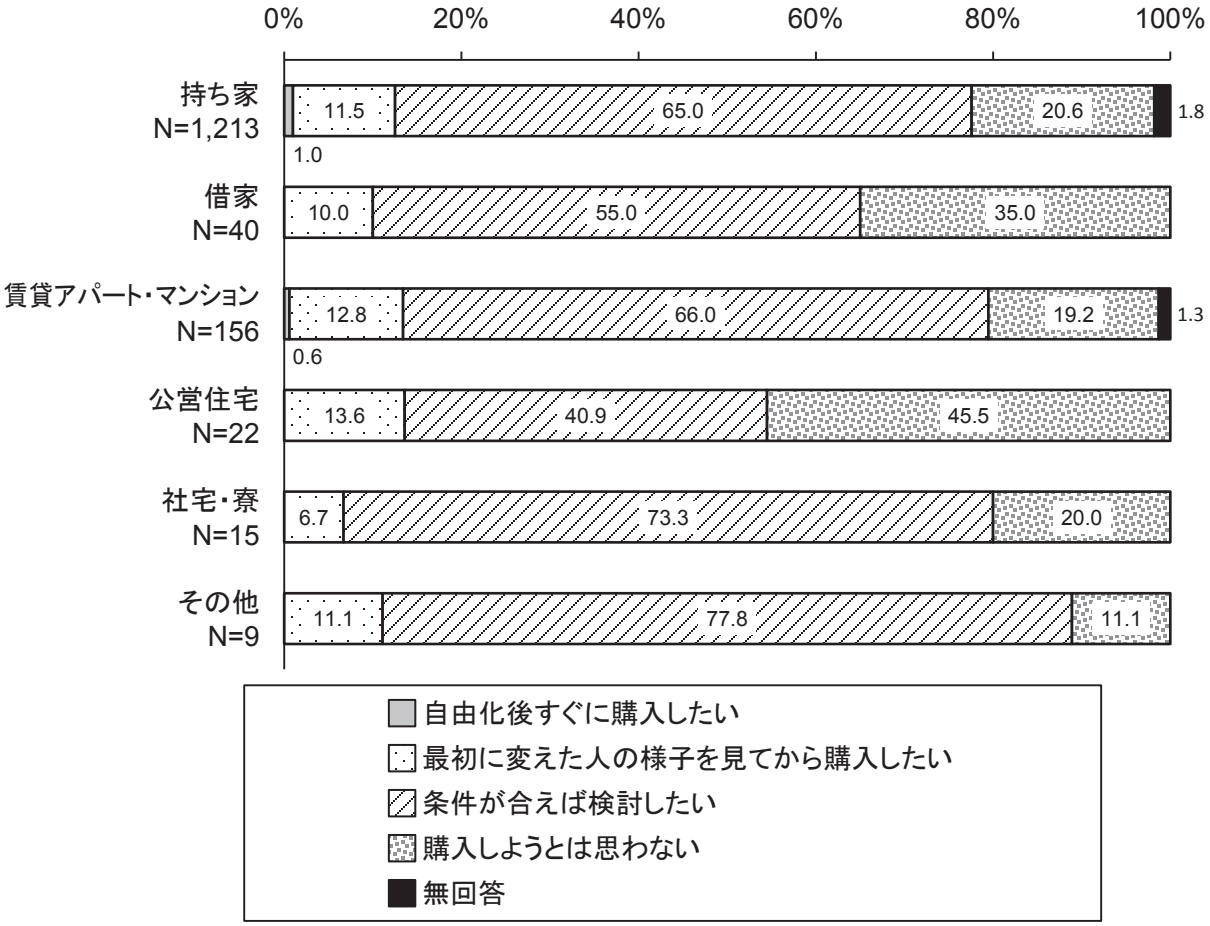


「条件が合えば検討したい」が 64.5%で最も多かった。「自由化後すぐに購入したい」（0.9%）と「最初に変えた人の様子を見てから購入したい」（11.7%）を合わせると 77.1%の人が購入したい、または購入を検討したいと回答している。

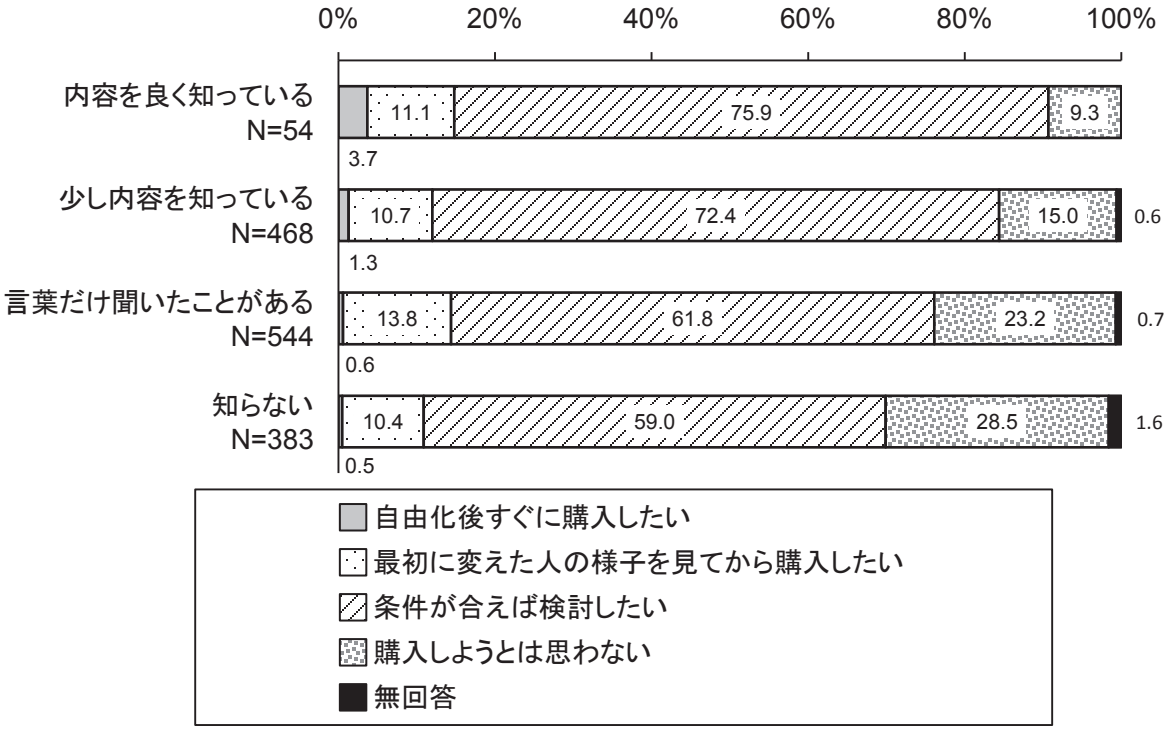
居住形態別でみると、持ち家や賃貸アパート・マンション、社宅・寮に住む人は購入意欲が比較的高く、逆に公営住宅に住む人の 45.5%は「購入しようとは思わない」と回答している。制度開始に際しては、まずは購入意欲の高い人たちから導入を勧めていく必要がある。

問 14 でたずねた「電力の小売自由化」の認知度別でみると、認知度が高いほど「購入しようと思わない」の回答割合が低い傾向がみられた。『認知度』の底上げが購入意欲の高まりにつながると思われ、購入意欲を高めることを意識した広報活動が必要といえる。

【居住形態別】

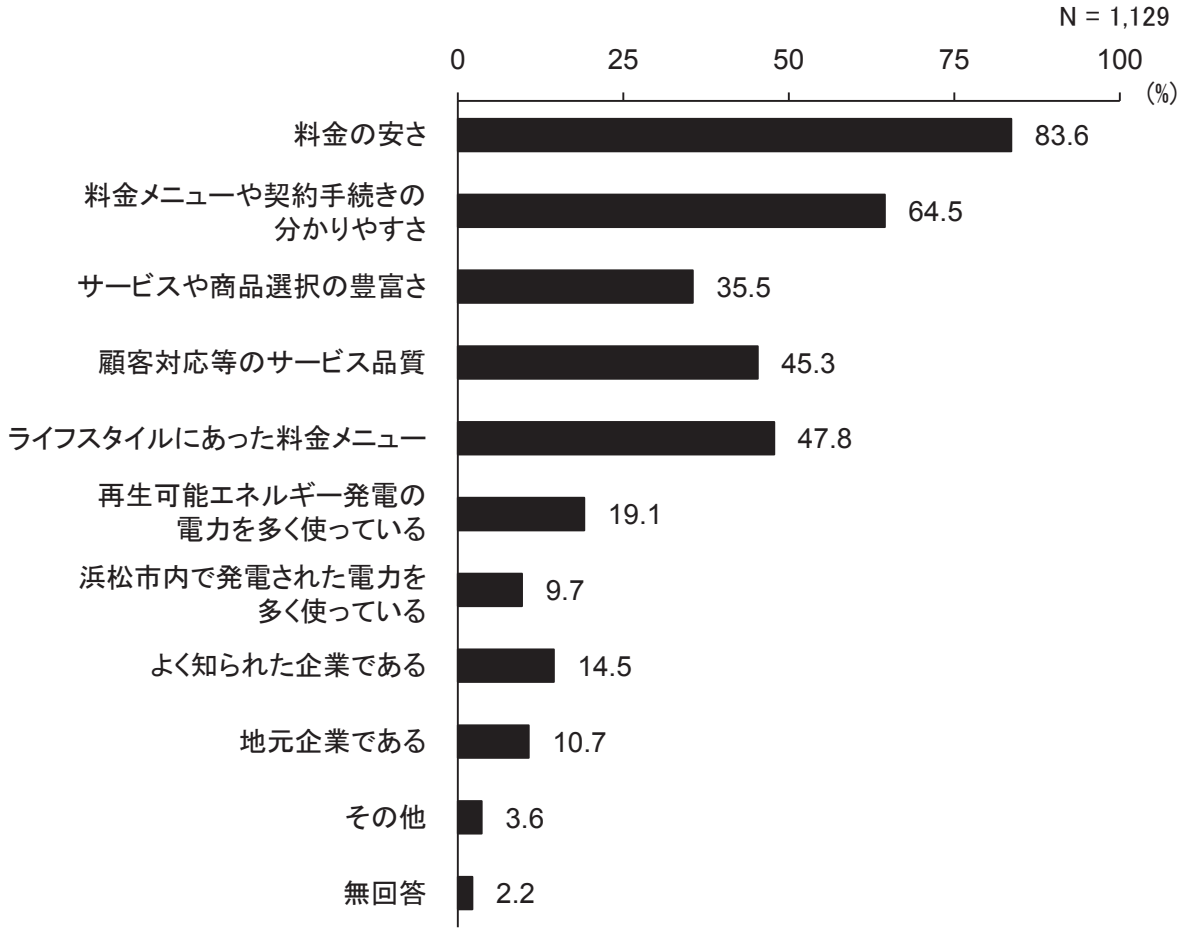

0%
20%
40%
60%
80%
100%
持ち家
N=1,213
11.5
65.0
20.6
1.8
1.0
借家
N=40
10.0
55.0
35.0
賃貸アパート・マンション
N=156
12.8
66.0
19.2
1.3
0.6
公営住宅
N=22
13.6
40.9
45.5
社宅・寮
N=15
6.7
73.3
20.0
その他
N=9
11.1
77.8
11.1
自由化後すぐに購入したい
最初に変えた人の様子を見てから購入したい
条件が合えば検討したい
購入しようとは思わない
無回答

【認知度別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
内容を良く知っている
N=54
11.1
75.9
9.3
3.7
少し内容を知っている
N=468
10.7
72.4
15.0
0.6
1.3
言葉だけ聞いたことがある
N=544
13.8
61.8
23.2
0.7
0.6
知らない
N=383
10.4
59.0
28.5
1.6
0.5
自由化後すぐに購入したい
最初に変えた人の様子を見てから購入したい
条件が合えば検討したい
購入しようとは思わない
無回答

問 16　問 15 で「１．自由化後すぐに購入したい」「２．最初に変えた人の様子を見てから購入したい」「３．条件が合えば検討したい」とお答えされた方に伺います。どのような条件が合えば、新電力からの電力を購入しますか。（あてはまるものすべてに〇を付けてください）

新電力からの購入条件は「料金の安さ」が 83.6%で圧倒的に多い



「料金の安さ」が 83.6%で圧倒的に多く、次いで「料金メニューや契約手続きの分かりやすさ」（64.5%）、「ライフスタイル（生活パターン）にあった料金メニュー」（47.8%）の順に多く、料金に関する項目が上位を占め、市民の多くが料金を重視していることがうかがえた。

一方、「再生可能エネルギー発電の電力を多く使っている」（19.1%）、「浜松市内で発電された電力を多く使っている」（9.7%）を条件に挙げる人は少数で、電力の地産地消に対する意識の向上が課題となっている。

問 15 でたずねた「新電力の購入意欲度別」でみると、「自由化後すぐに購入したい」と回答した人は他の回答者と比較して、「再生可能エネルギー発電の電力を多く使っている」、「浜松市内で発電された電力を多く使っている」を挙げる割合が高かった。

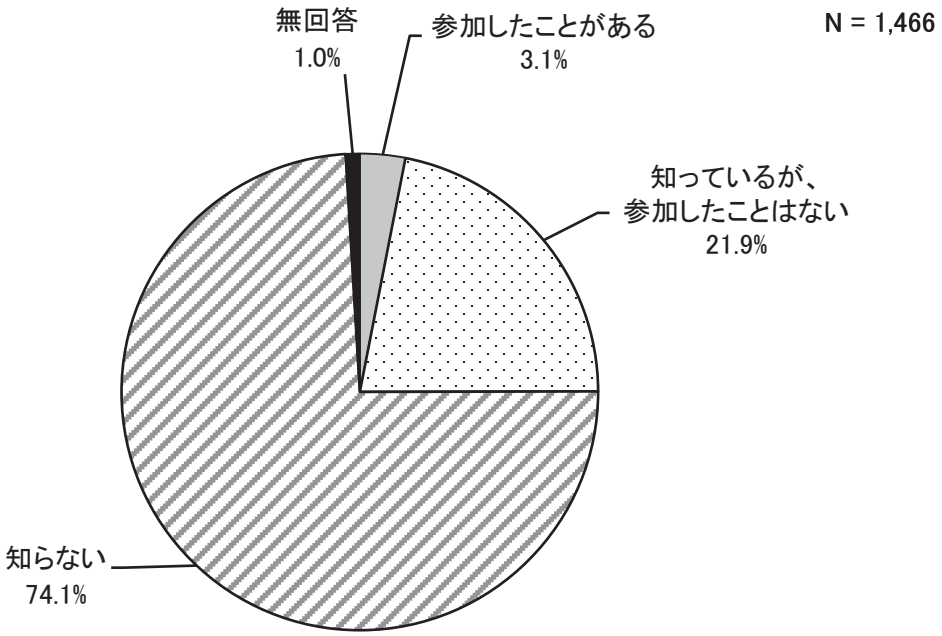
【購入意欲度別】

	料金の安さ	料金メニューや契約手続きの分かりやすさ	サービスや商品選択の豊富さ	顧客対応等のサービス品質	ライフスタイルにあった料金メニュー	再生可能エネルギー発電の電力を多く使っている	浜松市内で発電された電力を多く使っている	よく知られた企業である	地元企業である	その他	無回答
自由化後すぐに購入したい N=13	76.9	38.5	23.1	23.1	15.4	53.8	30.8	−	15.4	−	7.7
最初に変えた人の様子を見てから購入したい N=171	78.4	66.1	34.5	39.2	42.7	19.3	8.2	16.4	8.2	2.3	2.3
条件が合えば検討したい N=945	84.0	64.6	35.9	46.8	49.2	18.6	9.6	14.4	11.1	3.9	2.4

9　健康づくりについて

問 17　浜松市では、うごく＆スマイル（貯めよう！健康ポイント）の健康づくり事業を実施しています。あなたはご存じですか。（１つだけ〇を付けてください）

「うごく＆スマイル」の健康づくり事業を知らない人は 74. 1%

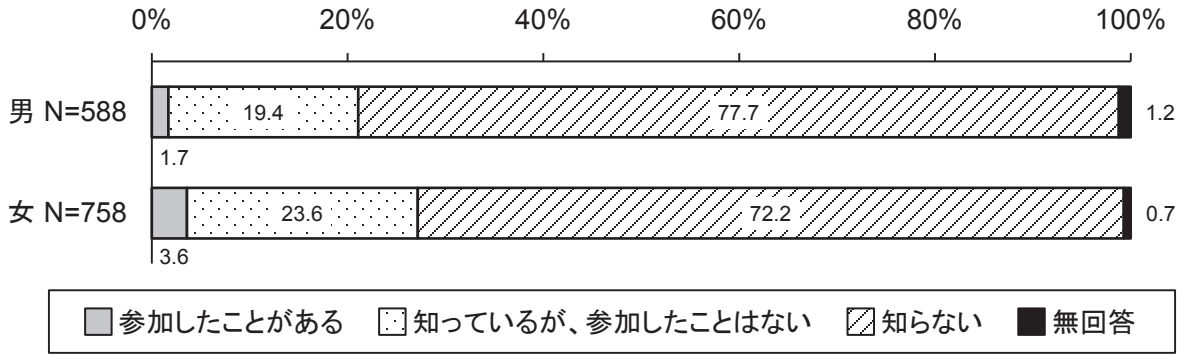


うごく＆スマイル事業の認知度については、「知らない」と回答した人が 74.1%であり、「知っているが、参加したことはない」と回答した人が21.9%、「参加したことがある」が3.1%であった。うごく＆スマイル事業の認知度を高めるための対策が必要である。また、「知っているが、参加したことはない」と回答した人の健康づくりの取り組み状況を把握しつつ、周知の仕方や事業内容などの検討も必要といえる。

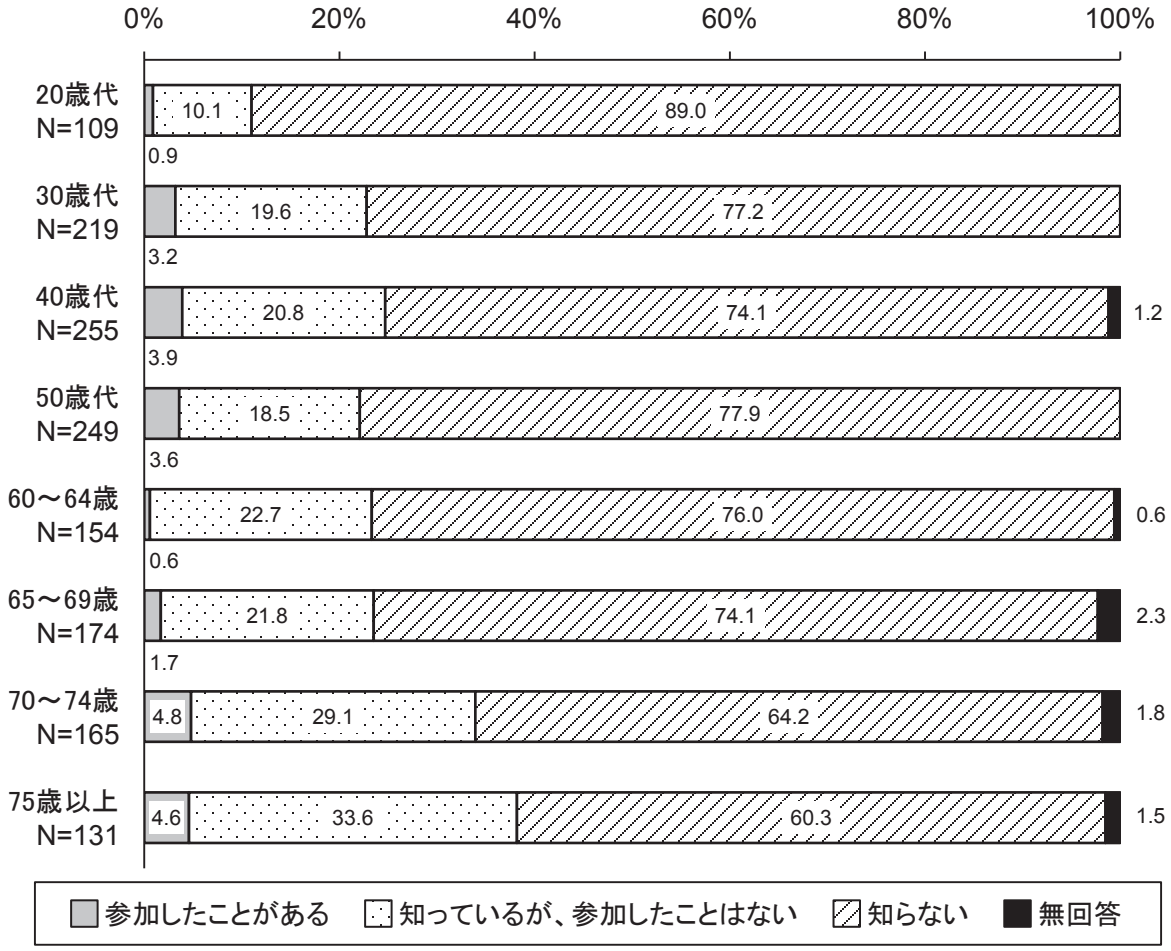
性別でみると、「参加したことがある」と「知っているが、参加したことはない」のいずれも女性の方が回答割合は高い。

年齢別でみると、「参加したことがある」は 70～74 歳が最も高く、次いで 75 歳以上の順となった。また、「知っているが、参加したことはない」では 75 歳以上が最も高く、次いで 70～74歳となっており、いずれの項目も70 歳代が高かった。

【性別】

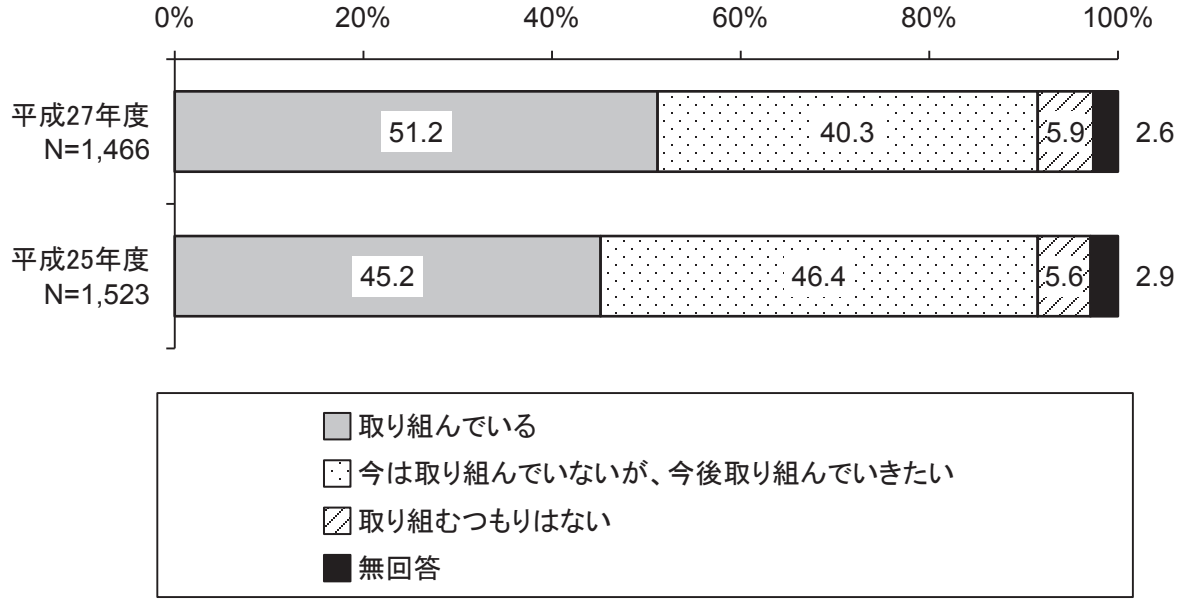

0%
20%
40%
60%
80%
100%
男 N=588
19.4
77.7
1.2
1.7
女 N=758
23.6
72.2
0.7
3.6
参加したことがある
知っているが、参加したことはない
知らない
無回答

【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
10.1
89.0
0.9
30歳代 N=219
19.6
77.2
3.2
40歳代 N=255
20.8
74.1
1.2
3.9
50歳代 N=249
18.5
77.9
3.6
60～64歳 N=154
22.7
76.0
0.6
0.6
65～69歳 N=174
21.8
74.1
2.3
1.7
70～74歳 N=165
4.8
29.1
64.2
1.8
75歳以上 N=131
4.6
33.6
60.3
1.5
参加したことがある
知っているが、参加したことはない
知らない
無回答

問 18　日ごろ、あなたは健康のために何か取り組んでいることはありますか。
（１つだけ〇をつけてください）

健康づくりに取り組んでいる人は 51.2%、前回調査比 6.0 ポイントの上昇

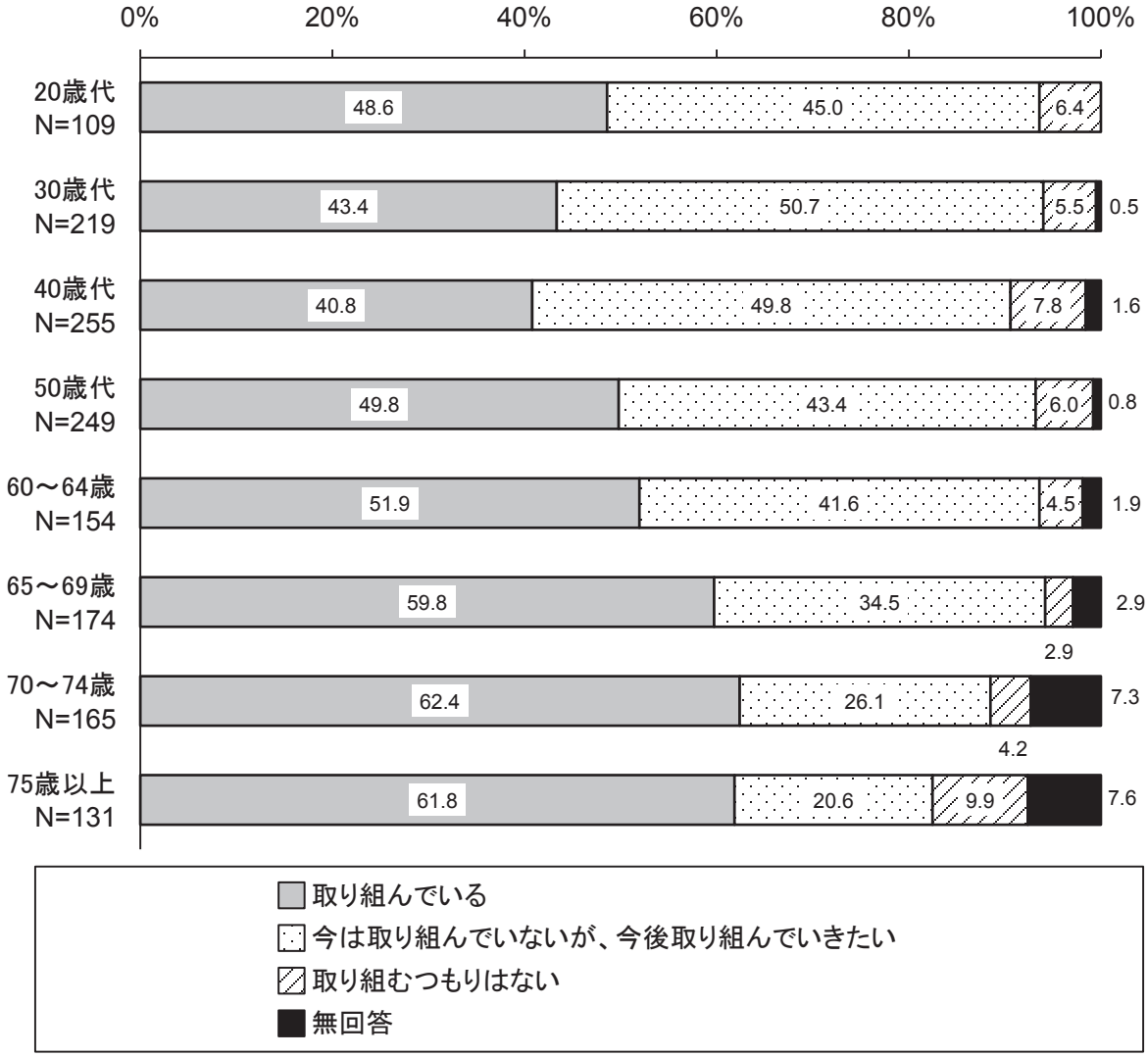


健康づくりの取り組みについては、「取り組んでいる」が 51.2%、「今は取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい」が40.3%となった。平成25年度調査と比較すると、「取り組んでいる」割合は、45.2%から 6.0 ポイント上昇しており、健康についての取り組みをしている割合は増えてきている。

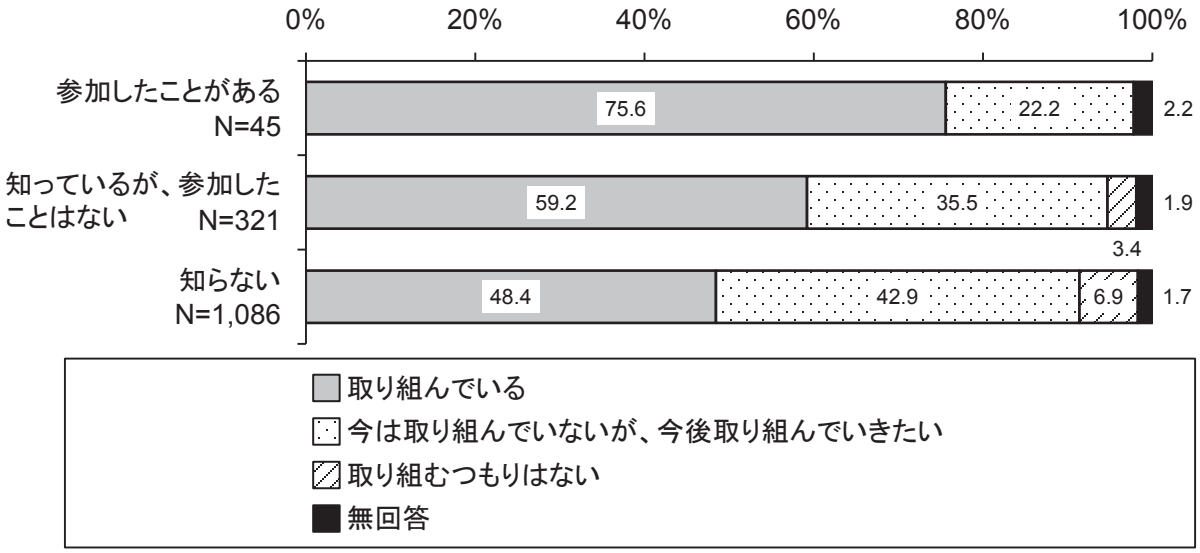
年齢別でみると、「取り組んでいる」の回答割合は 70～74 歳が最も高く、次いで 75 歳以上が高い。40 歳代が最も低く、40 歳代を底として年齢が高まるに伴い「取り組んでいる」の回答割合は高くなる傾向がみられる。

また、問 17 でうごく＆スマイル事業に「参加したことがある」と回答した人は、本設問の健康づくりに「取り組んでいる」と回答した割合が 75.6%と他の回答をした人と比べて高くなっており、うごく＆スマイル事業に参加した人の健康づくりの取り組み度は高いといえる。

【年齢別】

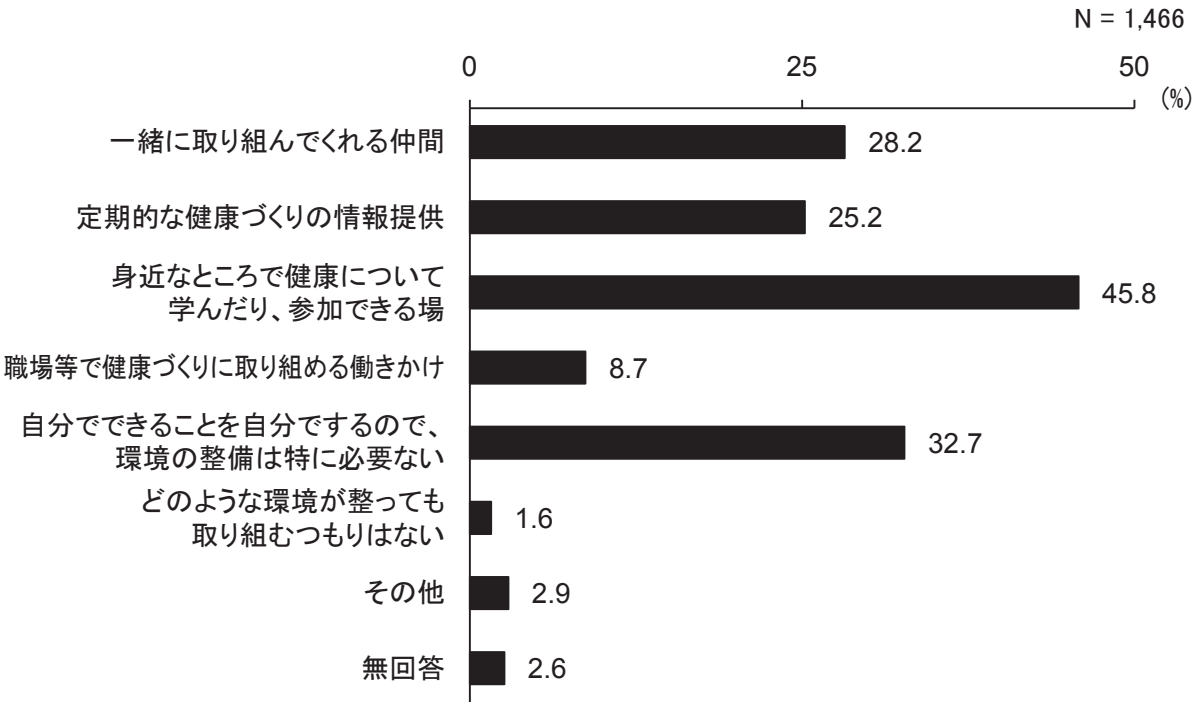


【うごく＆スマイル事業参加・認知度別】



問 19　あなたは、どのような環境が整えば健康づくりに取り組もうと思いますか。（２つまで○をつけてください）

「身近なところで健康について学んだり、参加できる場」を求める声が 45.8%と最多



健康づくりに取り組むための環境整備としては、「身近なところで健康について学んだり、参加できる場」が 45.8%と高かった。一方で 32.7%が「自分でできることを自分でするので、環境の整備は特に必要ない」と回答している。健康づくりに取り組んでいる人と取り組んでいない人のそれぞれの傾向を把握し、健康を守り支えるために必要な環境整備等の検討が必要である。

年齢別でみると、20 歳代と70～74歳を除く年齢層で「身近なところで健康について学んだり、参加できる場」が最も多い。20歳代では「一緒に取り組んでくれる仲間」を求める回答割合が最も高く、30歳代でも仲間を求める回答割合が高い。他の年齢層と比べて60歳代では「定期的な健康づくりの情報提供」を求める回答割合が高くなっている。

また、問 18 で健康づくりに「取り組んでいる」と回答した人は「定期的な健康づくりの情報提供」を求める割合が全体と比べて高くなっている。「今は取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい」と回答した人では、「身近なところで健康について学んだり、参加できる場」を求める割合が全体と比べて高い。既に健康づくりに取り組んでいる人にはさらなる情報提供を、これから健康づくりに励みたいと考えている人には参加を促す場所を提供していくことが必要であるといえる。

【年齢別】

	一緒に取り組んでくれる仲間	定期的な健康づくりの情報提供	身近なところで健康について学んだり、参加できる場	職場等で健康づくりに取り組める働きかけ	自分でできることを自分でするので、環境の整備は特に必要ない	どのような環境が整っても取り組むつもりはない	その他	無回答
20 歳代 N=109	48.6	16.5	29.4	18.3	33.0	0.9	1.8	−
30 歳代 N=219	38.8	24.2	45.2	15.1	28.8	0.9	4.1	0.5
40 歳代 N=255	24.7	23.1	40.4	14.1	31.8	2.4	5.9	1.6
50 歳代 N=249	27.7	27.3	50.2	10.0	27.7	2.0	2.0	0.8
60～64 歳 N=154	26.0	36.4	61.0	3.2	26.0	0.6	1.9	0.6
65～69 歳 N=174	23.6	29.9	51.7	2.3	36.8	0.6	2.3	3.4
70～74 歳 N=165	19.4	21.8	40.6	2.4	41.8	1.2	1.8	7.3
75 歳以上 N=131	20.6	19.8	42.7	0.8	41.2	3.8	1.5	8.4

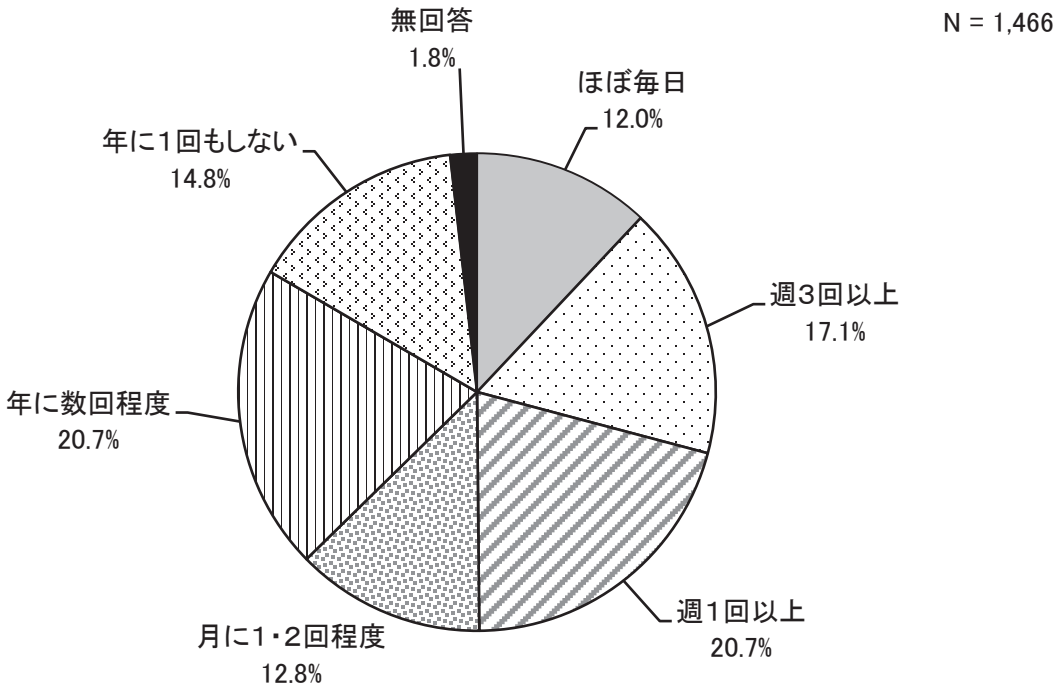
【健康づくりの取り組み別】

	一緒に取り組んでくれる仲間	定期的な健康づくりの情報提供	身近なところで健康について学んだり、参加できる場	職場等で健康づくりに取り組める働きかけ	自分でできることを自分でするので、環境の整備は特に必要ない	どのような環境が整っても取り組むつもりはない	その他	無回答
取り組んでいる N=751	29.0	29.6	46.3	8.3	33.2	0.4	2.7	1.9
今は取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい N=591	30.5	23.0	51.4	9.0	30.6	−	2.9	0.7
取り組むつもりはない N=86	15.1	8.1	12.8	12.8	50.0	22.1	3.5	3.5

１０　浜松市のスポーツ推進について

問 20　過去１年間で、あなたはスポーツ（運動）をどの程度行いましたか。ウォーキングから本格的な競技スポーツまで、あらゆる運動を含みます。（1つだけ〇を付けてください）

約半分の人が『週１回以上』スポーツを行っている



「ほぼ毎日」（12.0%）、「週 3 回以上」（17.1%）を合わせた『週 3 回以上』が 29.1%、『週 3 回以上』と「週 1 回以上」（20.7%）を合わせた『週 1 回以上』は 49.8%、「年に 1 回もしない」は 14.8%となった。平成 26 年度調査と選択肢が異なるため、単純比較はできないが、『週 1 回以上』、『週3回以上』はほぼ横ばい、「年に 1 回もしない」は大幅に改善（回答割合が低下）した。

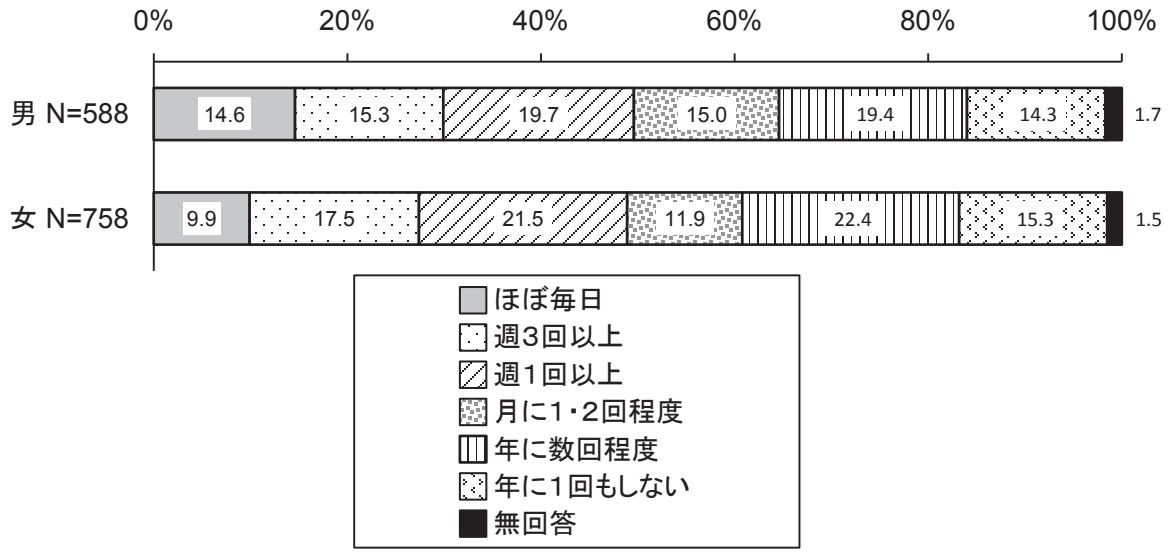
浜松市スポーツ推進計画では、週 1 回以上のスポーツ実施率 65%以上、週 3 回以上のスポーツ実施率 30%以上を数値目標としているが、週 1 回以上は 15.2 ポイント、週 3 回以上は 0.9 ポイント目標を下回った。特に、週 1 回以上の目標値との差が大きかったことから、推進計画のスローガンでもある「1・1・1 運動～1 週間に 1 回以上、1 スポーツをしよう！」の広報活動を積極的に行っていく必要がある。

「年に 1 回もしない」は大幅に改善されたとはいえ、推進計画ではスポーツ未実施者をゼロに近づけることを目標にしている。手軽に実施できる軽スポーツ、レクリエーションスポーツを中心にした生涯スポーツの普及・啓発に加え、スポーツをしない人のスポーツへの関心を高めるために、どこで、どんなスポーツ活動を行っているかなどの広報活動を工夫していく必要がある。

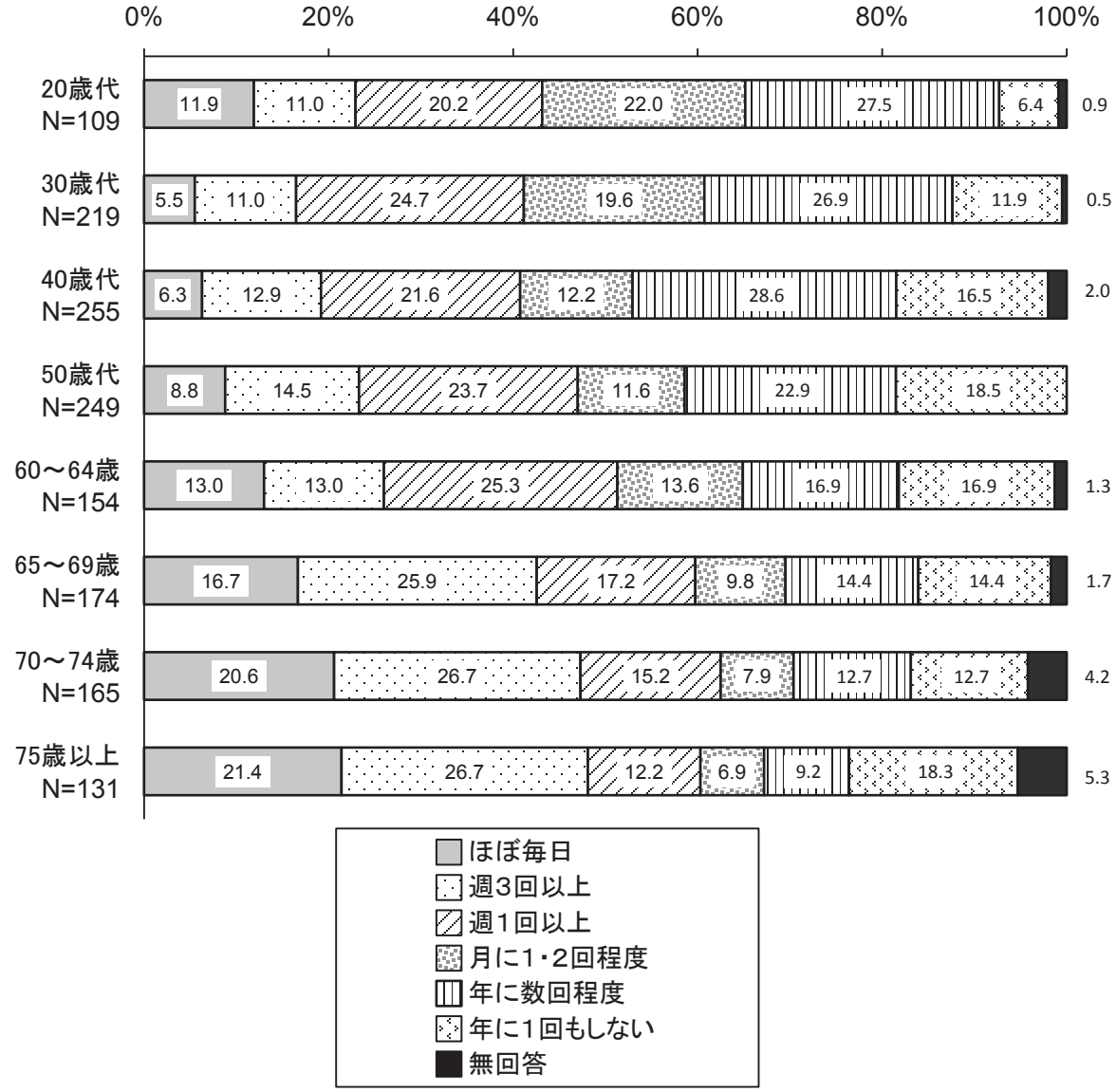
性別でみると、「ほぼ毎日」は男性が女性を上回っているが、『週 1 回以上』は差がなかった。

『週 1 回以上』を年齢別でみると、30 歳代、40 歳代の実施率は 40%程度であるが、70 歳以上の年齢層になると、60%を超え、推進計画の目標値に近い数値となっている。

【性別】

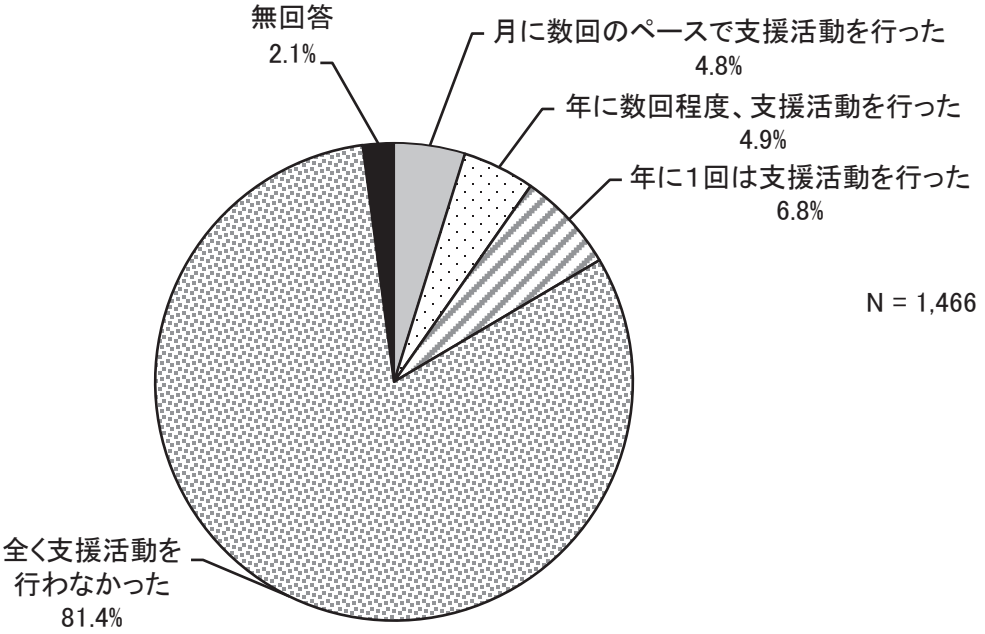

0%
20%
40%
60%
80%
100%
男 N=588
14.6
15.3
19.7
15.0
19.4
14.3
1.7
女 N=758
9.9
17.5
21.5
11.9
22.4
15.3
1.5
ほぼ毎日
週3回以上
週1回以上
月に1・2回程度
年に数回程度
年に1回もしない
無回答

【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
11.9
11.0
20.2
22.0
27.5
6.4
0.9
30歳代 N=219
5.5
11.0
24.7
19.6
26.9
11.9
0.5
40歳代 N=255
6.3
12.9
21.6
12.2
28.6
16.5
2.0
50歳代 N=249
8.8
14.5
23.7
11.6
22.9
18.5
60～64歳 N=154
13.0
13.0
25.3
13.6
16.9
16.9
1.3
65～69歳 N=174
16.7
25.9
17.2
9.8
14.4
14.4
1.7
70～74歳 N=165
20.6
26.7
15.2
7.9
12.7
12.7
4.2
75歳以上 N=131
21.4
26.7
12.2
6.9
9.2
18.3
5.3
ほぼ毎日
週3回以上
週1回以上
月に1・2回程度
年に数回程度
年に1回もしない
無回答

問 21　過去１年間に、あなたはスポーツ支援をどの程度行いましたか。スポーツイベントや各種競技の大会ボランティア活動のほか、スポーツ少年団や小中高大学の運動部活動、総合型地域スポーツクラブ、地域のスポーツ活動などのお手伝いや運営、指導など、あらゆるスポーツ活動の支援を含みます。（１つだけ〇を付けてください）

『年に１回以上』スポーツ支援をした人は 16.5％



浜松市スポーツ推進計画では、年１回以上のスポーツ支援実施率 35％以上を目標としているが、「月に数回のペースで支援活動を行った」（4.8％）、「年に数回程度、支援活動を行った」（4.9％）、「年に１回は支援活動を行った」（6.8％）を合わせた『年１回以上』は 16.5％となり、推進計画の目標を 18.5 ポイント下回った。「全く支援活動を行わなかった」が 81.4％で圧倒的に多かった。

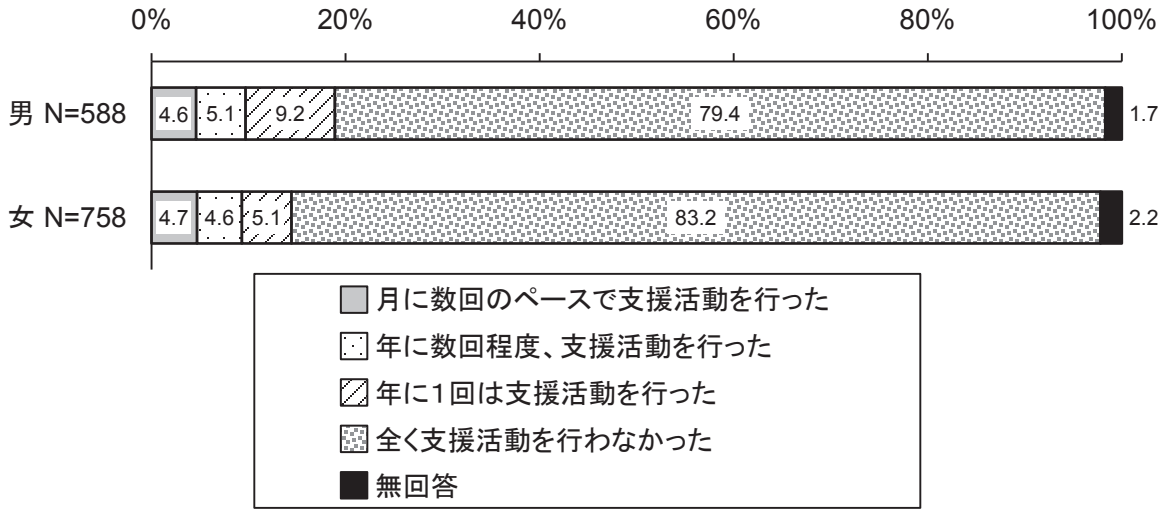
前回の平成 25 年度調査とは選択肢が異なるため単純比較はできないが、『年１回以上』の回答割合はほぼ横ばいとなっており、「支える（育てる）スポーツ」の普及が進んでいない。

性別でみると、男女差はあまりみられなかった。年齢別でみると、問 20 でみた運動実施率が高かった高齢者層においても、『年１回以上』は少数にとどまっている。

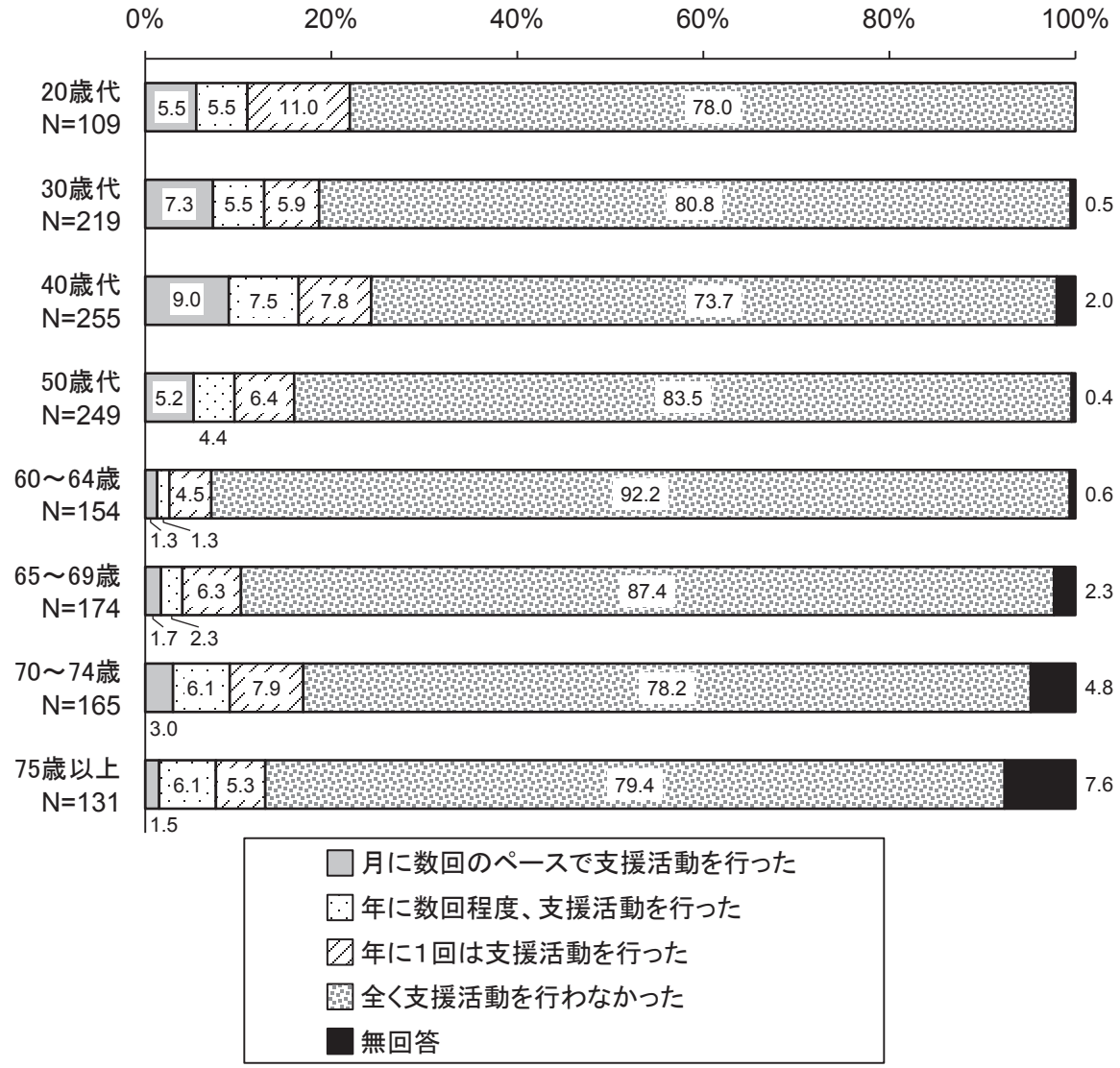
スポーツイベントや各種競技の大会ボランティア活動では、浜松シティマラソンでの市民ボランティアが主なボランティア機会となっているため、今後も積極的に呼びかけていく必要がある。スポーツ少年団や地域のスポーツ活動などの支援についても積極的な広報活動を通して支援者を確保していく必要がある。

また、今年度より「スポーツボランティアバンク事業」をスタートさせた。スポーツボランティア活動の機会や人材の確保に努めながら、市民が気軽にボランティア活動に参加できる環境の整備が必要といえる。

【性別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
男 N=588
4.6
5.1
9.2
79.4
1.7
女 N=758
4.7
4.6
5.1
83.2
2.2
月に数回のペースで支援活動を行った
年に数回程度、支援活動を行った
年に1回は支援活動を行った
全く支援活動を行わなかった
無回答

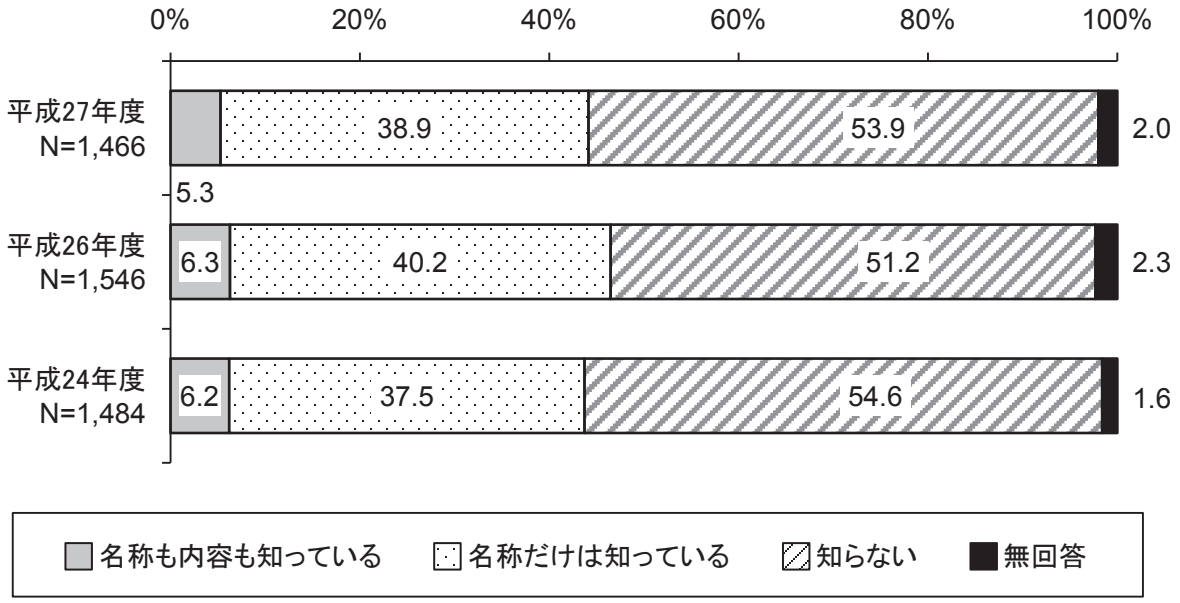
【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
5.5
5.5
11.0
78.0
30歳代 N=219
7.3
5.5
5.9
80.8
0.5
40歳代 N=255
9.0
7.5
7.8
73.7
2.0
50歳代 N=249
5.2
4.4
6.4
83.5
0.4
60～64歳 N=154
4.5
1.3
1.3
92.2
0.6
65～69歳 N=174
6.3
1.7
2.3
87.4
2.3
70～74歳 N=165
6.1
7.9
3.0
78.2
4.8
75歳以上 N=131
6.1
5.3
1.5
79.4
7.6
月に数回のペースで支援活動を行った
年に数回程度、支援活動を行った
年に1回は支援活動を行った
全く支援活動を行わなかった
無回答

１１　子育て支援について

問 22　あなたは、社会全体で子どもを健全に育成し支えていくための基本理念や、それぞれの役割などを定めた「浜松市子ども育成条例」をご存じですか。（１つだけ〇を付けてください）

「浜松市子ども育成条例」の認知度は 44.2％



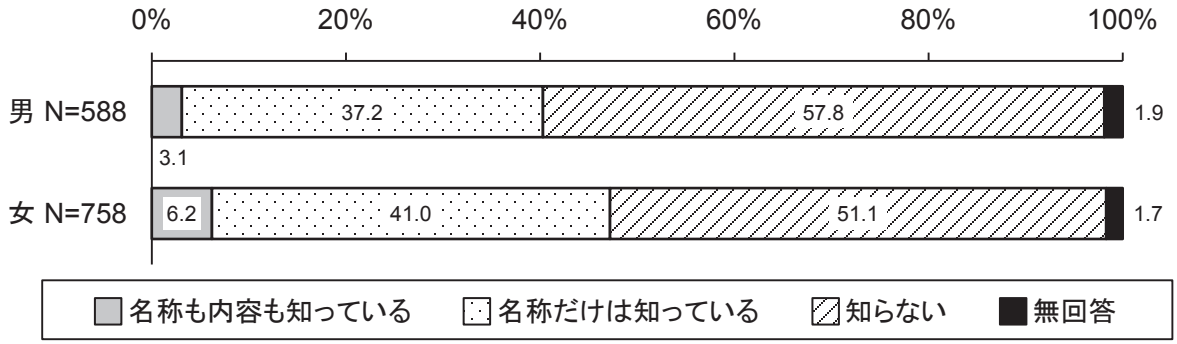
「名称も内容も知っている」（5.3%）と、「名称だけは知っている」（38.9%）を合わせた『認知度』は 44.2%となった。平成 26 年度調査と比較すると、「名称も内容も知っている」、「名称だけは知っている」ともわずかに回答割合が低下した。

性別でみると、『認知度』は男性が 40.3%、女性が 47.2%となっており、女性の方が 6.9 ポイント高かった。

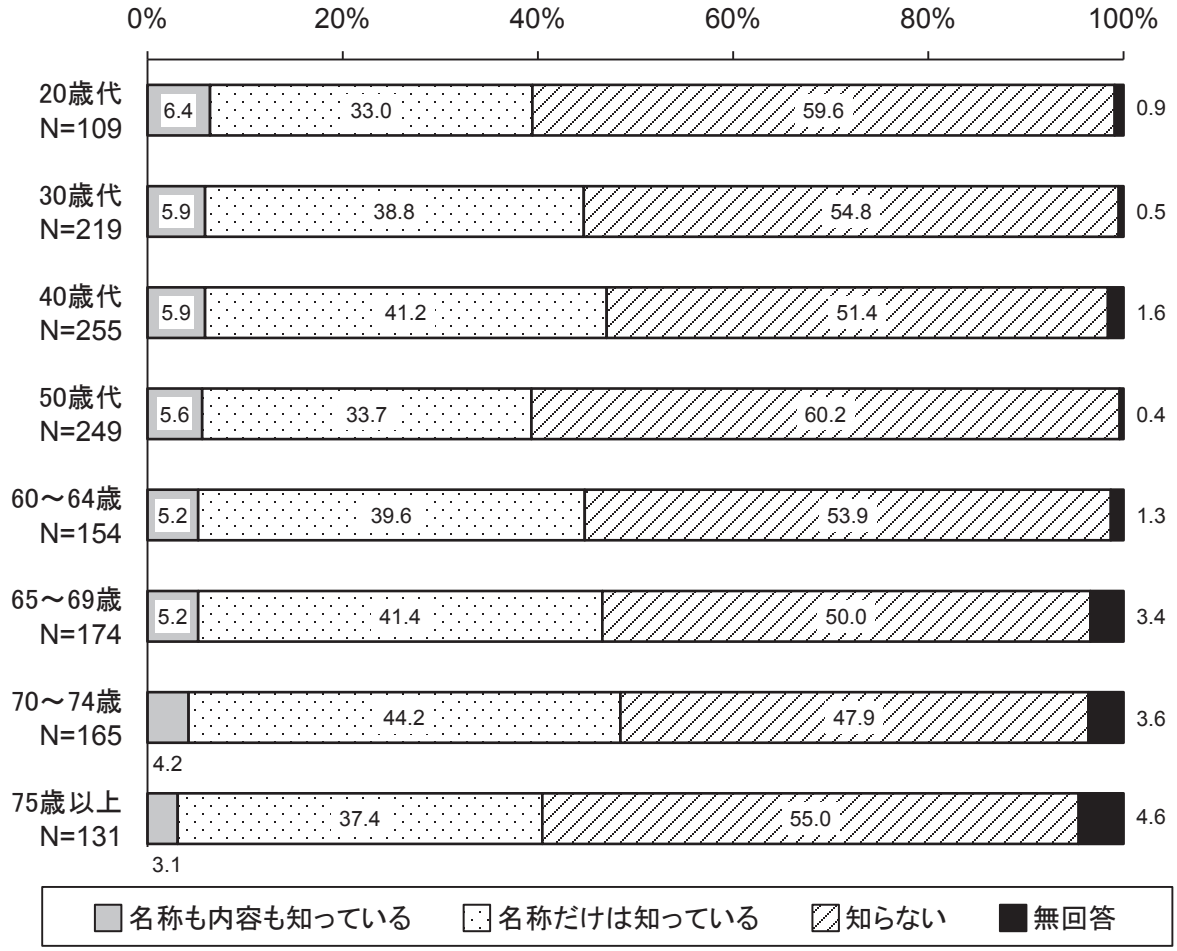
年齢別で『認知度』をみると、70～74 歳が 48.4%で最も高かった。最も低かったのは 50 歳代の 39.3%となった。20 歳代は 39.4%と 50 歳代に次いで低いが、平成 26 年度調査と比較すると 11.9 ポイント増加した。

平成26年度と比較して『認知度』がわずかに低下しており、また、全年齢層で『認知度』が50%に達していないため、積極的な周知が必要と考える。

【性別】

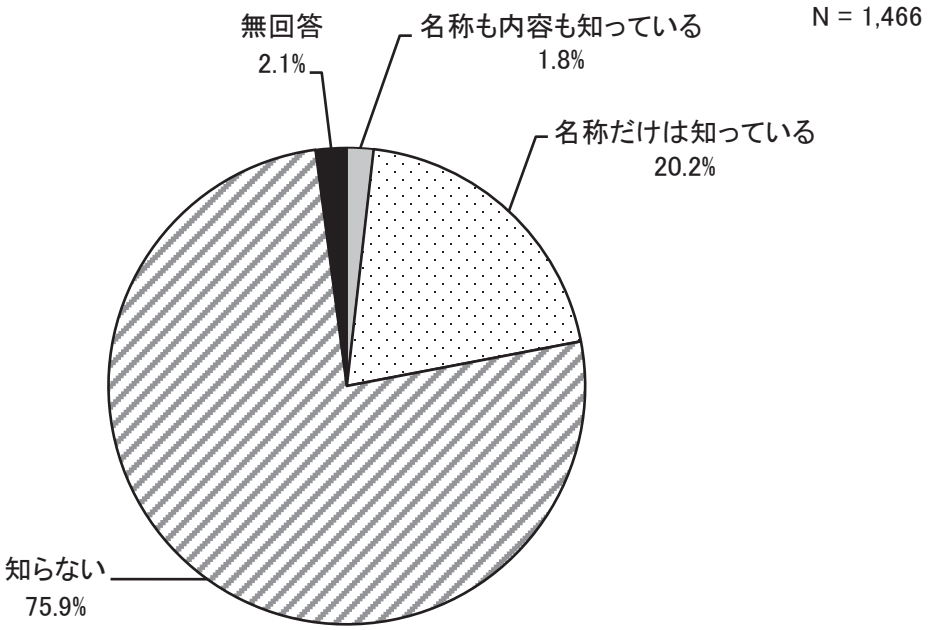

0%
20%
40%
60%
80%
100%
男 N=588
3.1
37.2
57.8
1.9
女 N=758
6.2
41.0
51.1
1.7
名称も内容も知っている
名称だけは知っている
知らない
無回答

【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
6.4
33.0
59.6
0.9
30歳代 N=219
5.9
38.8
54.8
0.5
40歳代 N=255
5.9
41.2
51.4
1.6
50歳代 N=249
5.6
33.7
60.2
0.4
60～64歳 N=154
5.2
39.6
53.9
1.3
65～69歳 N=174
5.2
41.4
50.0
3.4
70～74歳 N=165
4.2
44.2
47.9
3.6
75歳以上 N=131
3.1
37.4
55.0
4.6
名称も内容も知っている
名称だけは知っている
知らない
無回答

問 23　あなたは、子どもや子育ての支援、社会生活を円滑に営む上で困難を有する若者の支援を目的に策定した「浜松市子ども・若者支援プラン」をご存じですか。（１つだけ○を付けてください）

「浜松市子ども・若者支援プラン」の認知度は 22.0%

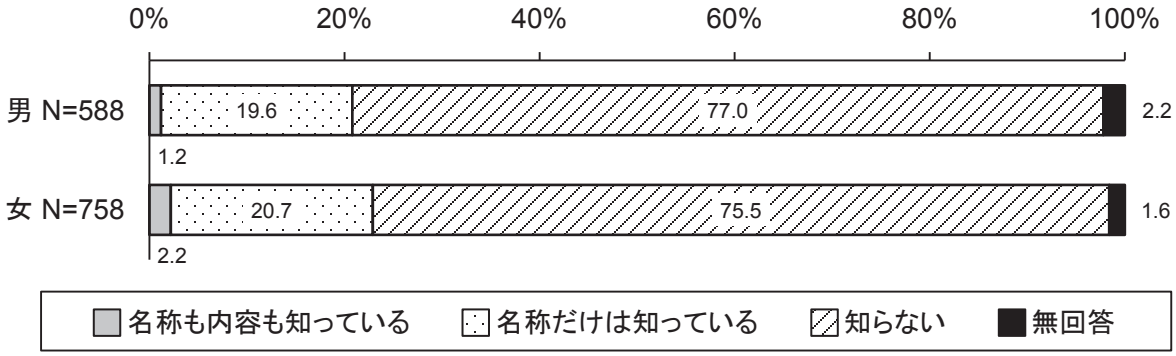


「名称も内容も知っている」（1.8%）と、「名称だけは知っている」（20.2%）を合わせた『認知度』は 22.0%となった。問 22 でたずねた「浜松市子ども育成条例」と比較すると『認知度』は 22.2 ポイント低い。「浜松市子ども・若者支援プラン」は平成 26 年度末に策定され、施行後間もないことから、低い『認知度』になっていると思われる。今後、子ども・子育て支援新制度は徐々に認知されていくと考えるが、積極的な周知活動が必要といえる。

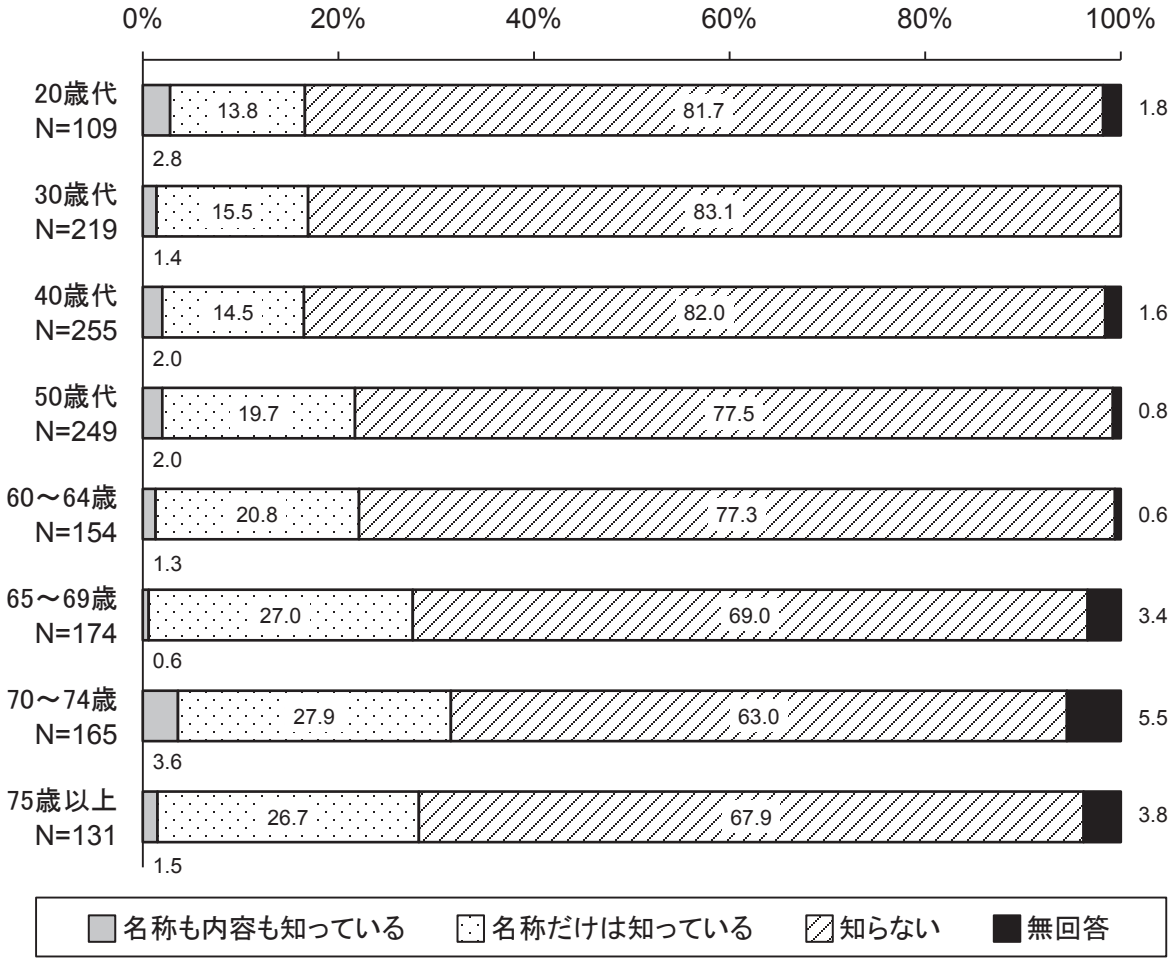
性別でみると、『認知度』は女性の方が高いが、明確な差はみられなかった。

年齢別でみると、年齢が高まるに伴い『認知度』も高くなる傾向がみられた。20～40 歳代の子育て世代の『認知度』が約 16%と低いため、特にこれらの年代層への周知活動を強化していく必要がある。

【性別】

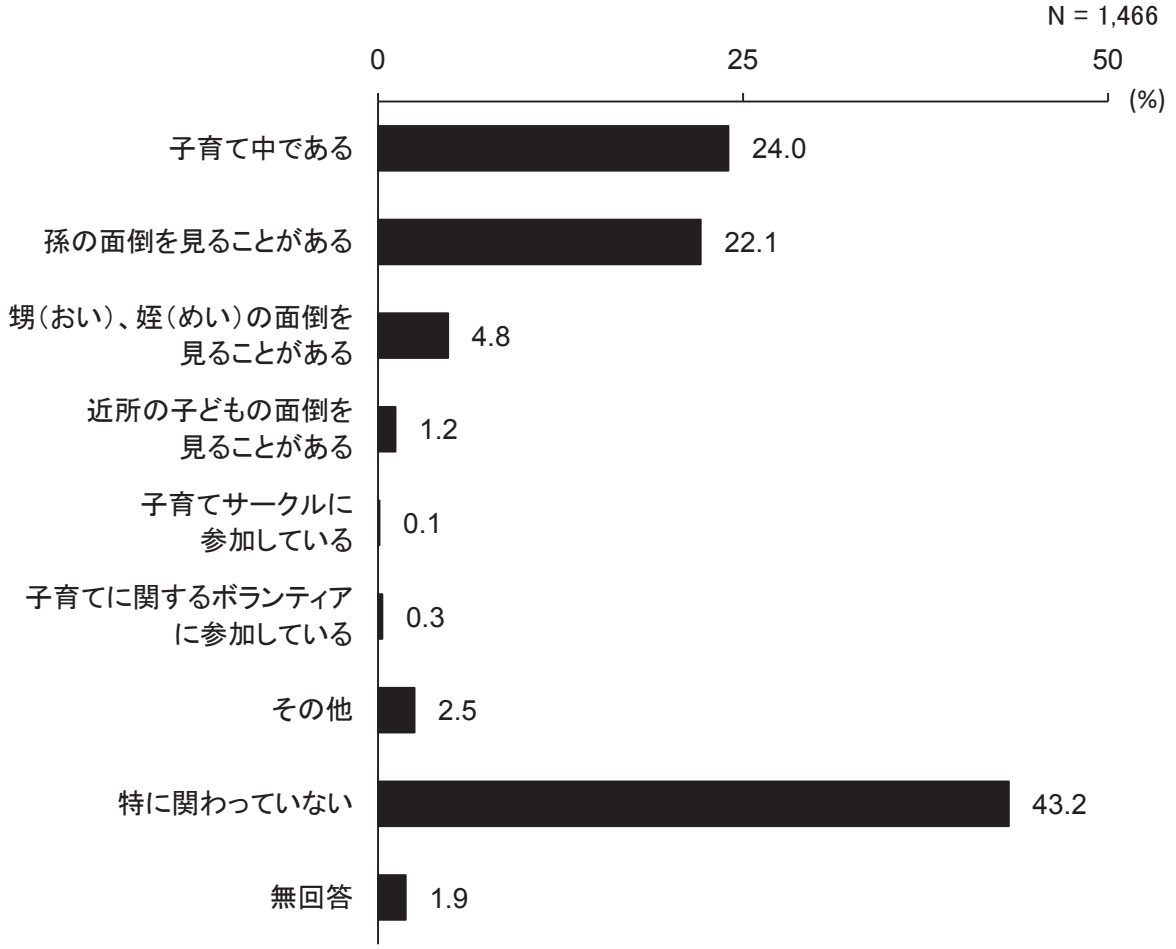

0%
20%
40%
60%
80%
100%
男 N=588
19.6
77.0
2.2
1.2
女 N=758
20.7
75.5
1.6
2.2
名称も内容も知っている
名称だけは知っている
知らない
無回答

【年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代 N=109
13.8
81.7
1.8
2.8
30歳代 N=219
15.5
83.1
1.4
40歳代 N=255
14.5
82.0
1.6
2.0
50歳代 N=249
19.7
77.5
0.8
2.0
60～64歳 N=154
20.8
77.3
0.6
1.3
65～69歳 N=174
27.0
69.0
3.4
0.6
70～74歳 N=165
27.9
63.0
5.5
3.6
75歳以上 N=131
26.7
67.9
3.8
1.5
名称も内容も知っている
名称だけは知っている
知らない
無回答

問 24　あなたは、現在、「子育て」に対して、どのような関わり方をしていますか。（１つだけ〇を付けてください）

社会全体で子どもを育てる気運は低い



「特に関わっていない」が 43.2%で最も多く、次いで「子育て中である」（24.0%）、「孫の面倒を見ることがある」（22.1%）の順となっている。また、身内以外の子どもと関わる、「近所の子どもの面倒を見ることがある」が 1.2%、「子育てに関するボランティアに参加している」が 0.3%といずれも低い数値となっており、社会全体で子どもを育てる気運は低いといえる。三世代交流や地域の子どもと接する機会を増やし、社会全体で子どもを育てる気運を醸成していく必要がある。

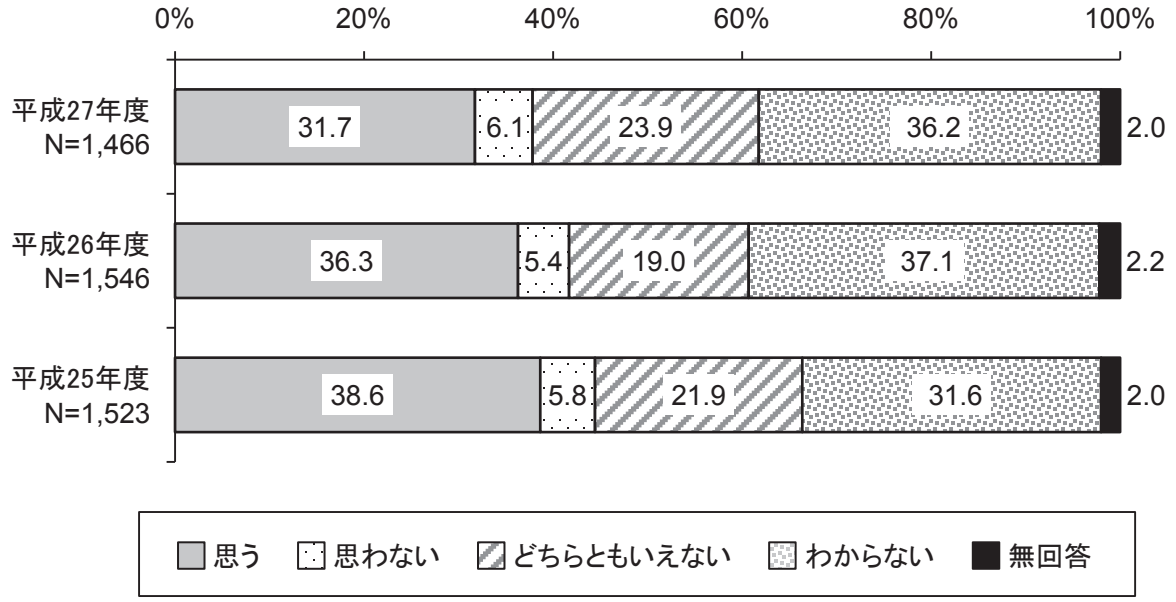
年齢別でみると、「子育て中である」は 30 歳代が 59.8%、40 歳代が 63.5%となっている。50 歳代は「子育て中である」と「孫の面倒を見ることがある」が同率の 15.3%となっている。

【年齢別】

	子育て中である	孫の面倒を見ることがある	甥、姪の面倒を見ることがある	近所の子どもの面倒を見ることがある	子育てサークルに参加している	子育てに関するボランティアに参加している	その他	特に関わっていない	無回答
20 歳代 N=109	15.6	−	11.9	2.8	−	−	7.3	61.5	0.9
30 歳代 N=219	59.8	−	11.9	0.5	0.5	0.5	2.7	24.2	−
40 歳代 N=255	63.5	1.2	7.5	0.4	−	0.4	0.8	25.1	1.2
50 歳代 N=249	15.3	15.3	3.2	1.2	−	0.4	4.0	60.2	0.4
60～64 歳 N=154	1.9	44.2	1.3	−	−	0.6	1.3	50.0	0.6
65～69 歳 N=174	−	50.6	−	1.1	−	−	0.6	44.8	2.9
70～74 歳 N=165	−	44.8	0.6	1.8	−	0.6	3.0	43.6	5.5
75 歳以上 N=131	0.8	36.6	0.8	3.1	−	−	1.5	52.7	4.6

問 25　浜松市では、保育所整備、子育て支援ひろば、子どもの医療費助成など子育てに関する支援を行っています。あなたは、このような支援によって、子育てがしやすくなっていると思いますか。（１つだけ○を付けてください）

市の支援により子育てがしやすくなっていると思う人は 31.7%

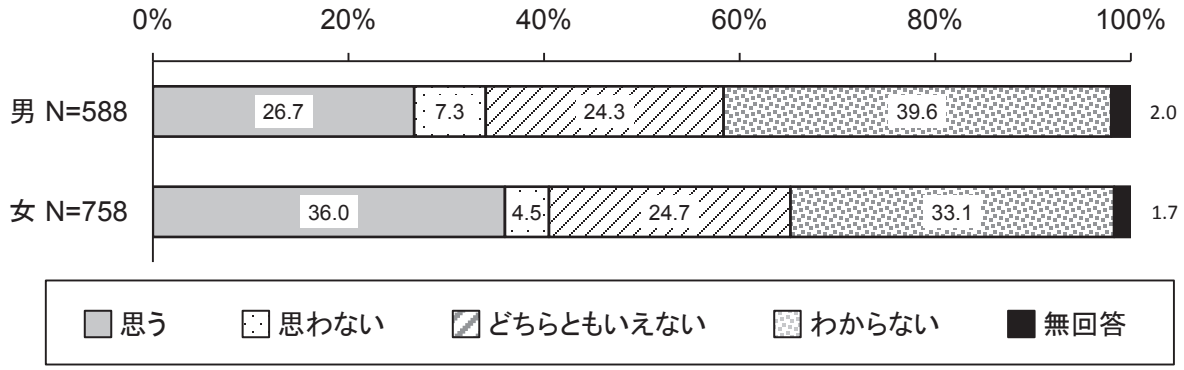


「思う」が 31.7%となり、「思わない」の 6.1%を 25.6 ポイント上回った。平成 26 年度調査と比較すると、「思う」は 4.6 ポイント減少した。「思わない」は 0.7 ポイントの微増、「どちらともいえない」は 4.9 ポイント増加した。「思う」が減少し、「どちらともいえない」が増加した要因として、平成 27 年度から施行された「子ども・子育て支援新制度」により、保育認定の緩和や放課後児童会の対象拡大による待機児童の増加や保育料の変更等が施設関係者および子どもの保護者に不安を与えた影響が考えられる。新制度の周知活動により「思う」の回答割合を増やしていく必要がある。

性別でみると、「思う」の回答割合は男性が 26.7%、女性が 36.0%と 9.3 ポイントの差がついた。

問 24 で「子育て中である」と回答した人は、「思う」の回答割合が 43.2%と全体の結果よりも高かった。ただし、平成 26 年度調査と比較すると、「思う」は 6.9 ポイント減少している。新制度施行に伴う戸惑いがあると思われ、わかりやすい周知活動が必要といえる。

【性別】

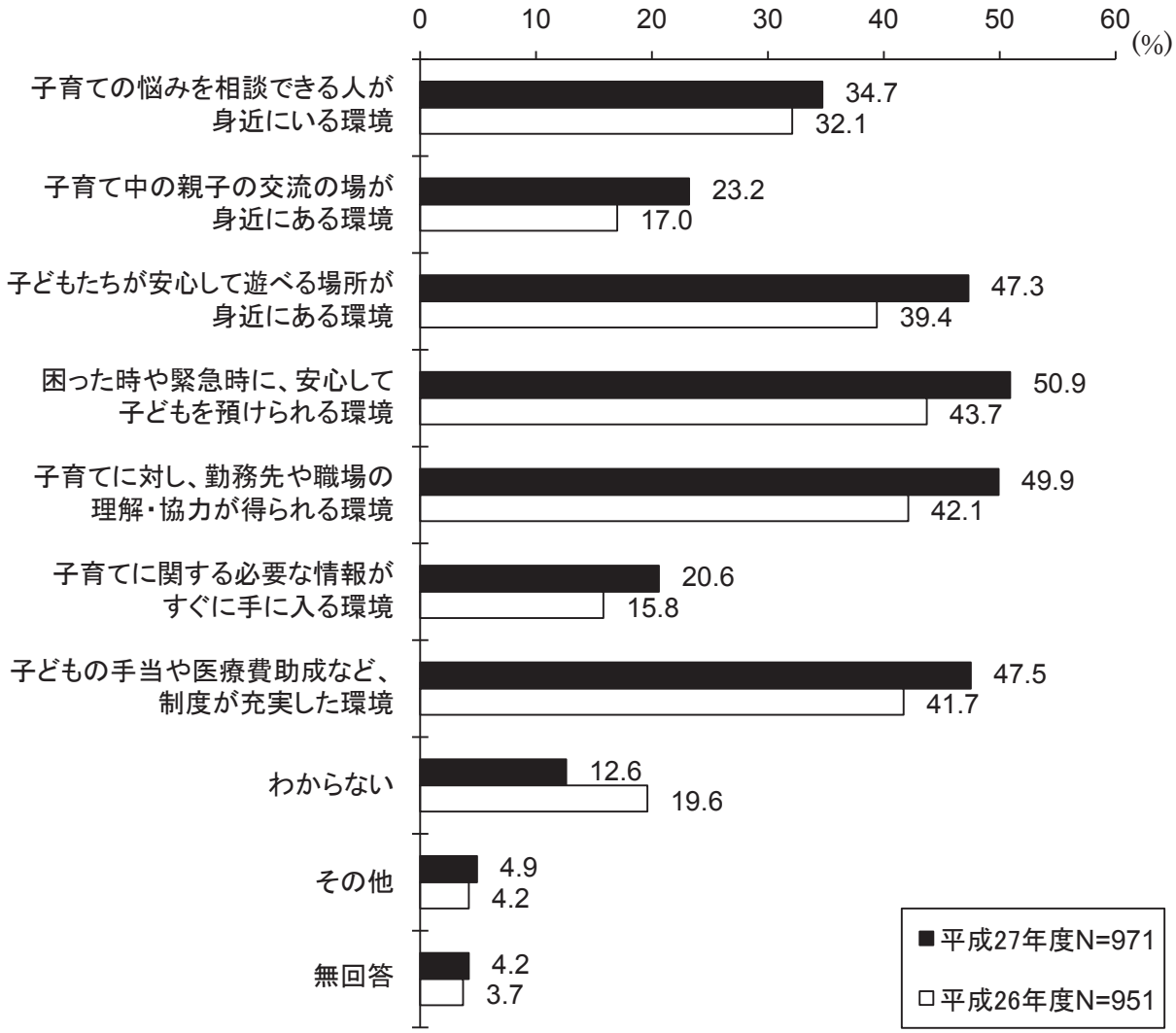


【子育ての関わり方別】

	思う	思わない	どちらともいえない	わからない	無回答
子育て中である N=352	43.2	9.4	35.5	11.1	0.9
孫の面倒を見ることがある N=324	40.7	4.9	22.2	31.2	0.9
甥、姪の面倒を見ることがある N=70	20.0	14.3	25.7	40.0	−
近所の子どもの面倒を見ることがある N=17	52.9	−	23.5	23.5	−
子育てサークルに参加している N=1	−	−	100.0	−	−
子育てに関するボランティアに参加している N=5	80.0	20.0	−	−	−
その他 N=36	58.3	2.8	8.3	30.6	−
特に関わっていない N=633	20.5	4.4	19.7	54.5	0.8

問 26　問 25 で「２．思わない」「３.どちらともいえない」「４．わからない」とお答えされた方に伺います。どのような環境が整えば子育てがしやすくなったと感じると思いますか。（あてはまるものすべてに〇を付けてください）

「困った時や緊急時に、安心して子どもを預けられる環境」を求める声が最も多い

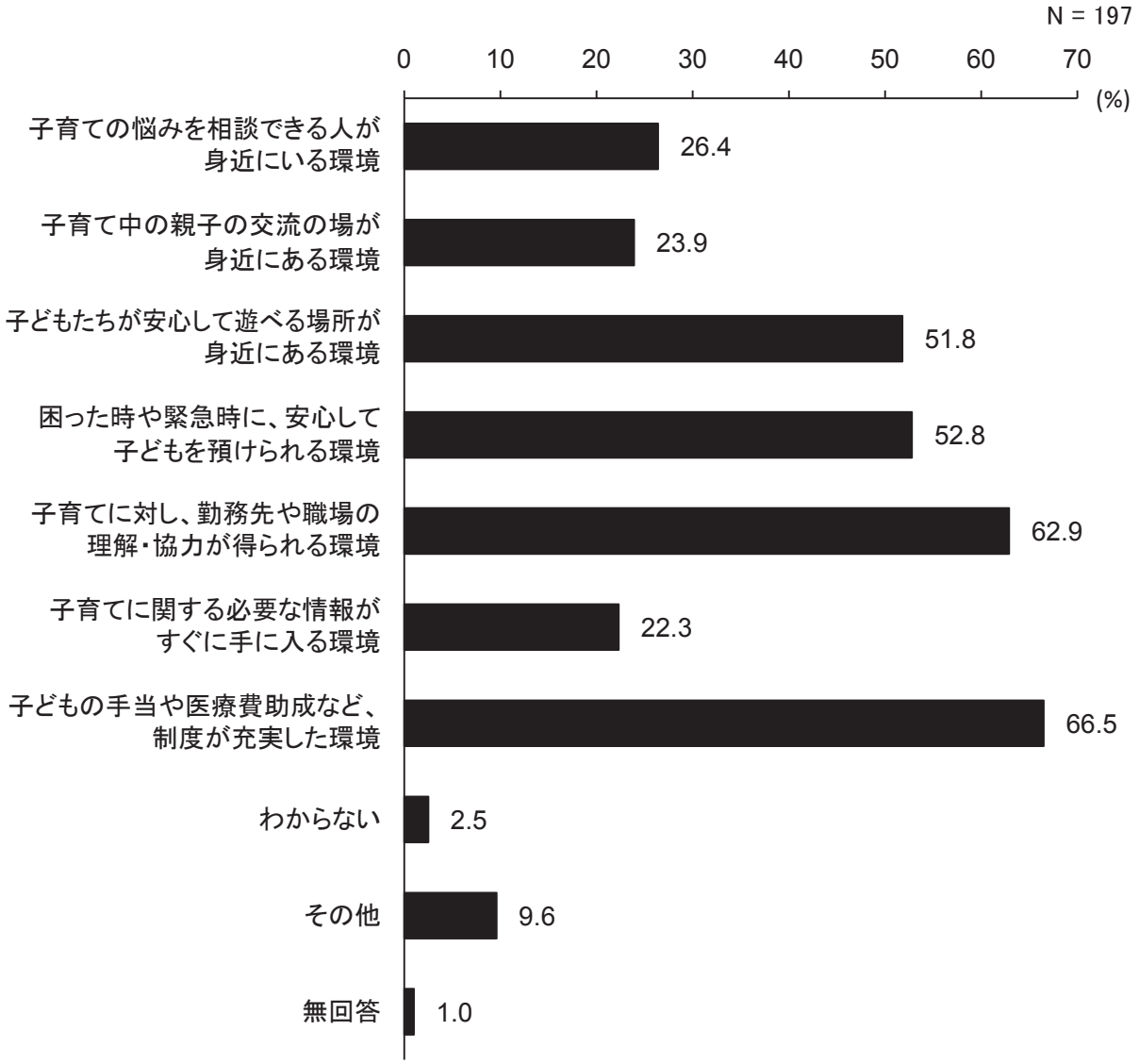


「困った時や緊急時に、安心して子どもを預けられる環境」が 50.9%で最も多かった。「子どもたちが安心して遊べる場所が身近にある環境」、「子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境」、「子どもの手当や医療費助成など、制度が充実した環境」も回答割合が 5 割近くあった。

回答割合が高かった上位 4 項目を平成 26 年度調査と比較してみると、いずれの項目も回答割合が高まっているが、「子どもたちが安心して遊べる場所が身近にある環境」の増加幅が7.9 ポイント（39.4%→47.3%）と最も大きかった。子どもたちが遊べる場所について今後も情報提供し、さらに充実させていく必要があると考える。

問 24 で「子育て中である」と回答した人に限ってみると、「子どもの手当や医療費助成など、制度が充実した環境」が66.5%で最も多く、次いで「子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境」(62.9%)、「困った時や緊急時に、安心して子どもを預けられる環境」(52.8%)の順に多かった。全体の回答結果と比較すると、「子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境」、「子どもの手当や医療費助成など、制度が充実した環境」は、「子育て中」と回答した人の方が10ポイント以上高かった。

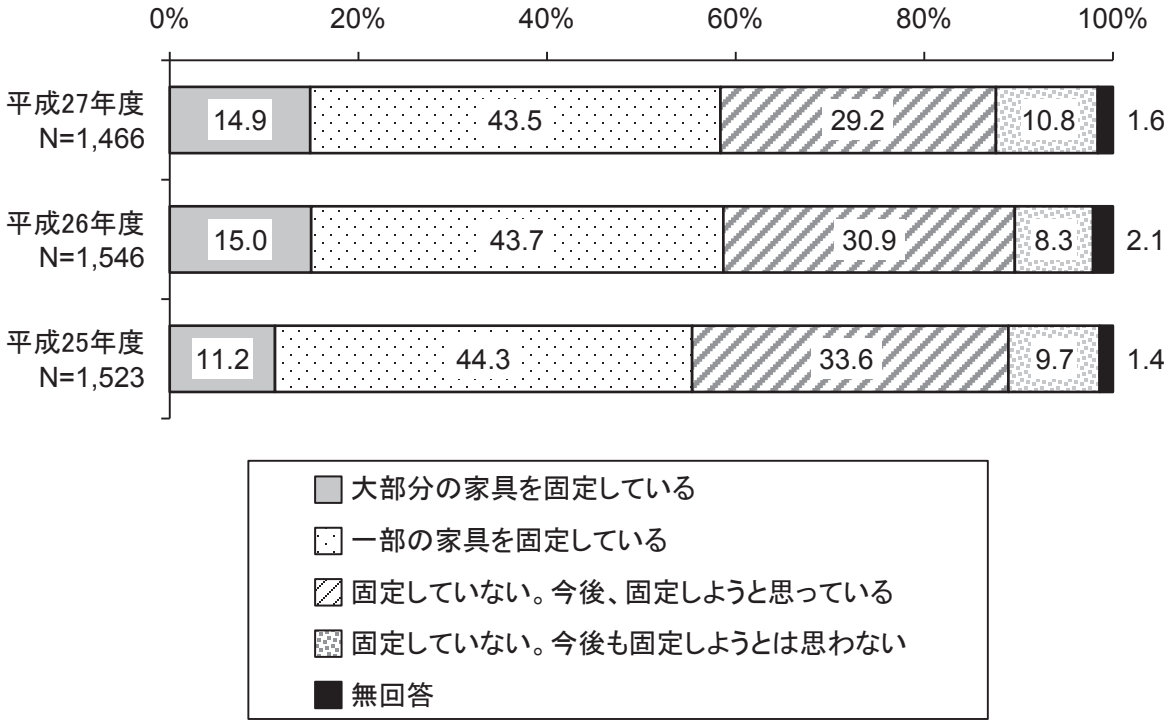
【子育て中の人の回答】



１２　市民の地震への備えについて

問 27　あなたのご家庭では、家具が転倒しないように固定していますか。（１つだけ〇を付けてください）

「大部分の家具を固定している」人は14.9%

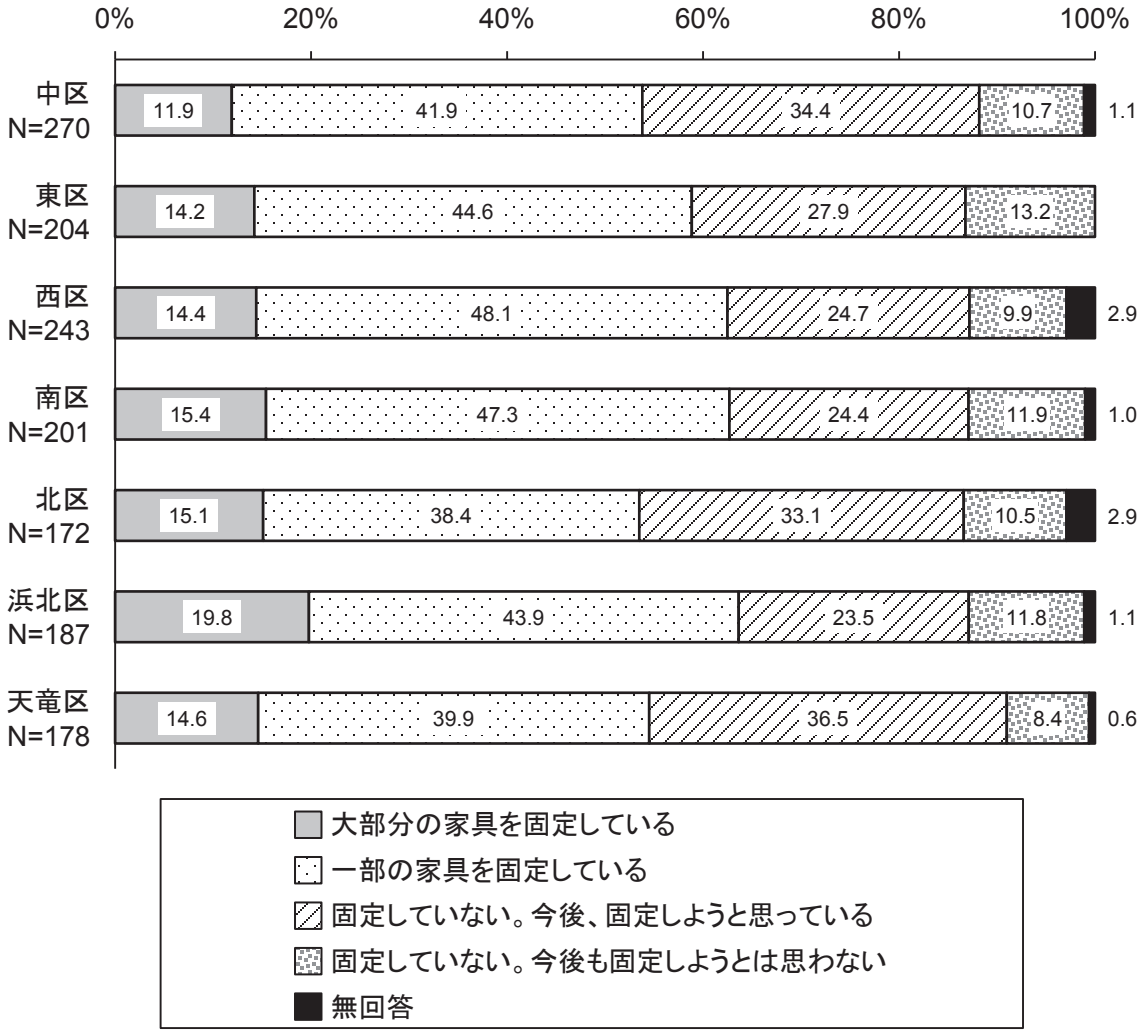


「一部の家具を固定している」が 43.5%で最も多く、次いで「固定していない。今後、固定しようと思っている」の 29.2%となった。「大部分の家具を固定している」（14.9%）と「一部の家具を固定している」を合わせた『固定している』は 58.4%と過半数を上回った。

過去の調査と比較すると、平成 25 年度調査から平成 26 年度調査にかけては、「大部分の家具を固定している」『固定している』とも約 3 ポイント増加し、家具固定の意識が高まってきているといえる。しかし、平成 26 年度調査から今年度調査にかけては、「大部分の家具を固定している」『固定している』ともほぼ横ばいで推移している。今後は、「固定していない。今後、固定しようと思っている」（29.2%）、「固定していない。今後も固定しようとは思わない」（10.8%）と回答した人をいかに啓発していくかが課題となってくる。

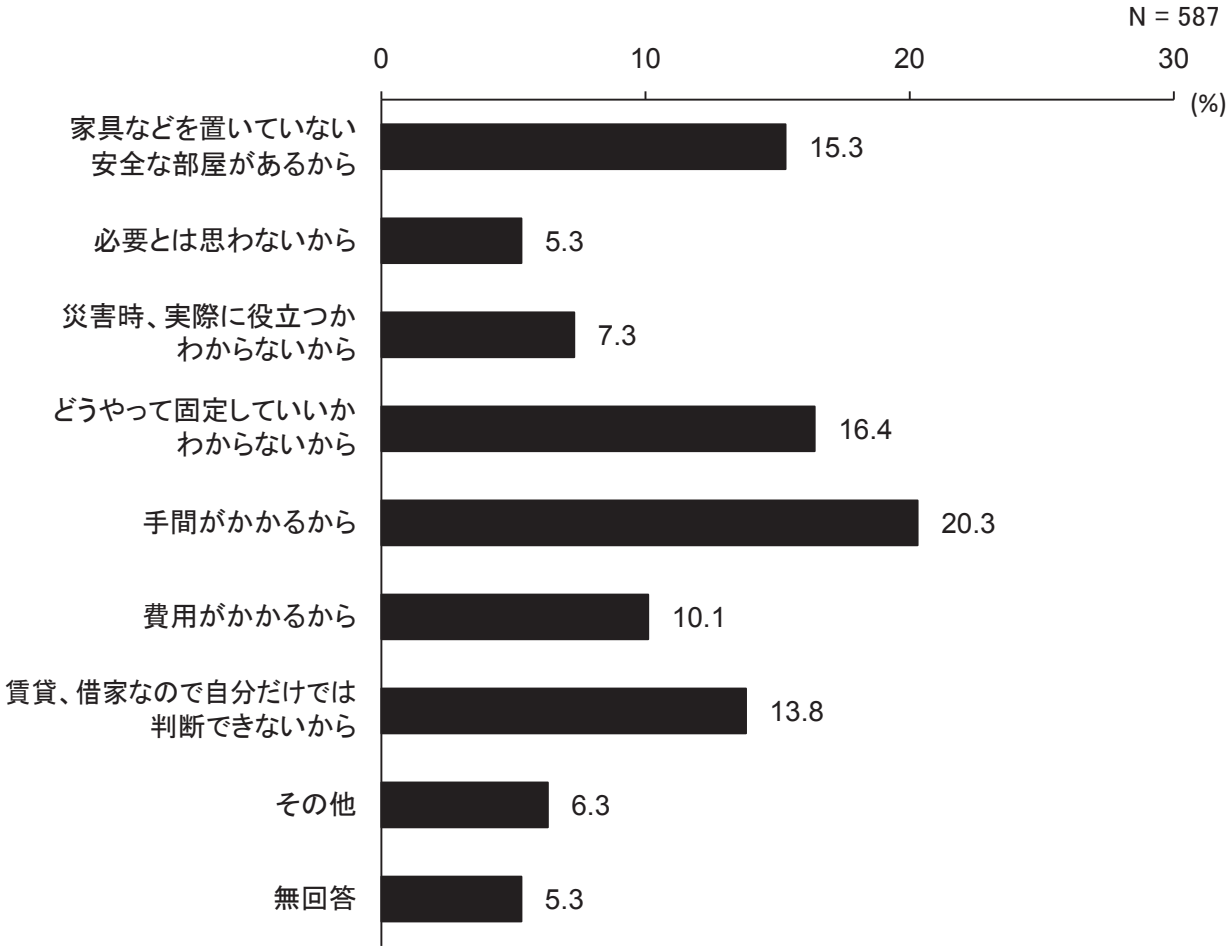
行政区別でみると、『固定している』の回答割合が最も高かったのは浜北区の 63.7%、最も低かったのは北区の53.5%であった。

【行政区別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
中区
N=270
11.9
41.9
34.4
10.7
1.1
東区
N=204
14.2
44.6
27.9
13.2
西区
N=243
14.4
48.1
24.7
9.9
2.9
南区
N=201
15.4
47.3
24.4
11.9
1.0
北区
N=172
15.1
38.4
33.1
10.5
2.9
浜北区
N=187
19.8
43.9
23.5
11.8
1.1
天竜区
N=178
14.6
39.9
36.5
8.4
0.6
大部分の家具を固定している
一部の家具を固定している
固定していない。今後、固定しようと思っている
固定していない。今後も固定しようとは思わない
無回答

問 28　問 27 で「３．固定していない。今後、固定しようと思っている」「４．固定していない。今後も固定しようとは思わない」とお答えされた方に伺います。固定していない理由は何ですか。（１つだけ〇を付けてください）

家具の固定対策をしていない理由は「手間がかかるから」が最も多い



「手間がかかるから」が 20.3%で最も多く、次いで「どうやって固定していいかわからないから」（16.4%）、「家具などを置いていない安全な部屋があるから」（15.3%）、「賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから」（13.8%）の順となり、家具転倒防止事業のさらなる周知により固定対策につながることが期待できる項目が上位を占めた。

「必要とは思わないから」（5.3%）、「災害時、実際に役立つかわからないから」（7.3%）といった減災効果の周知不足が起因する項目は少数にとどまった。

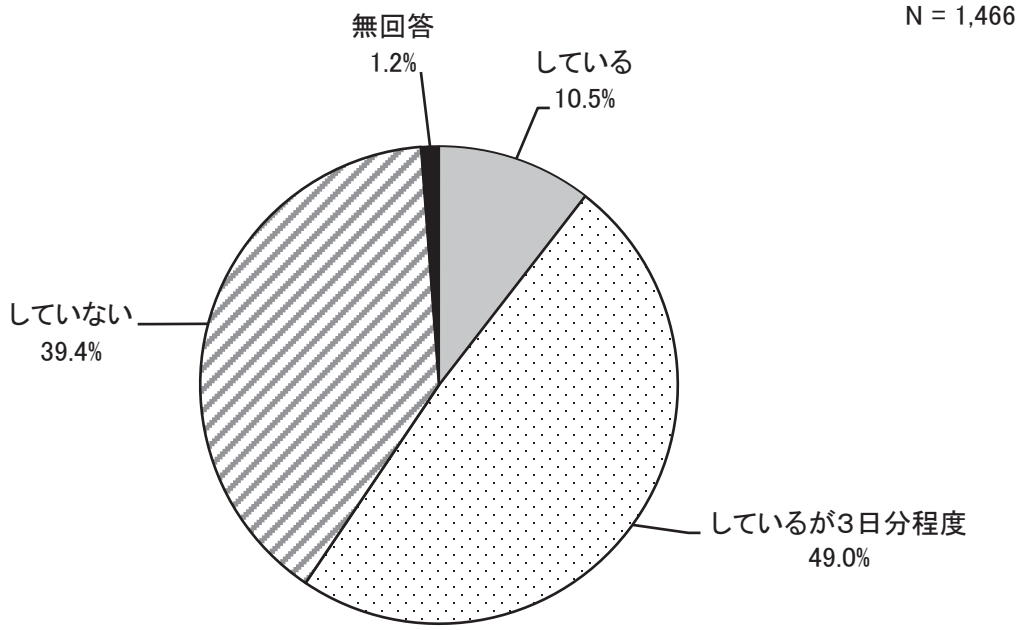
居住形態別でみると、持ち家は「手間がかかるから」が最も多く、持ち家以外は「賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから」が最も多かった。物件所有者や不動産協会に対し協力を求めるなど新たな対策が必要といえる。

【居住形態別】

	家具などを置いていない安全な部屋があるから	必要とは思わないから	災害時、実際に役立つかわからないから	どうやって固定していいかわからないから	手間がかかるから	費用がかかるから	賃貸、借家なので自分だけでは判断できないから	その他	無回答
持ち家 N=431	18.6	6.5	9.3	16.9	24.1	11.1	0.2	7.4	5.8
借家 N=25	8.0	−	8.0	8.0	8.0	16.0	44.0	8.0	−
賃貸アパート・マンション N=98	5.1	2.0	−	13.3	9.2	5.1	59.2	2.0	4.1
公営住宅 N=18	5.6	5.6	−	16.7	11.1	11.1	38.9	5.6	5.6
社宅・寮 N=8	−	−	12.5	37.5	−	−	50.0	−	−
その他 N=4	25.0	−	−	25.0	25.0	−	−	−	25.0

問 29　あなたのご家庭では、災害の発生に備え７日分以上の水や食糧を備蓄していますか。
（１つだけ〇を付けてください）

７日分以上の水や食糧を備蓄している人は 10.5％



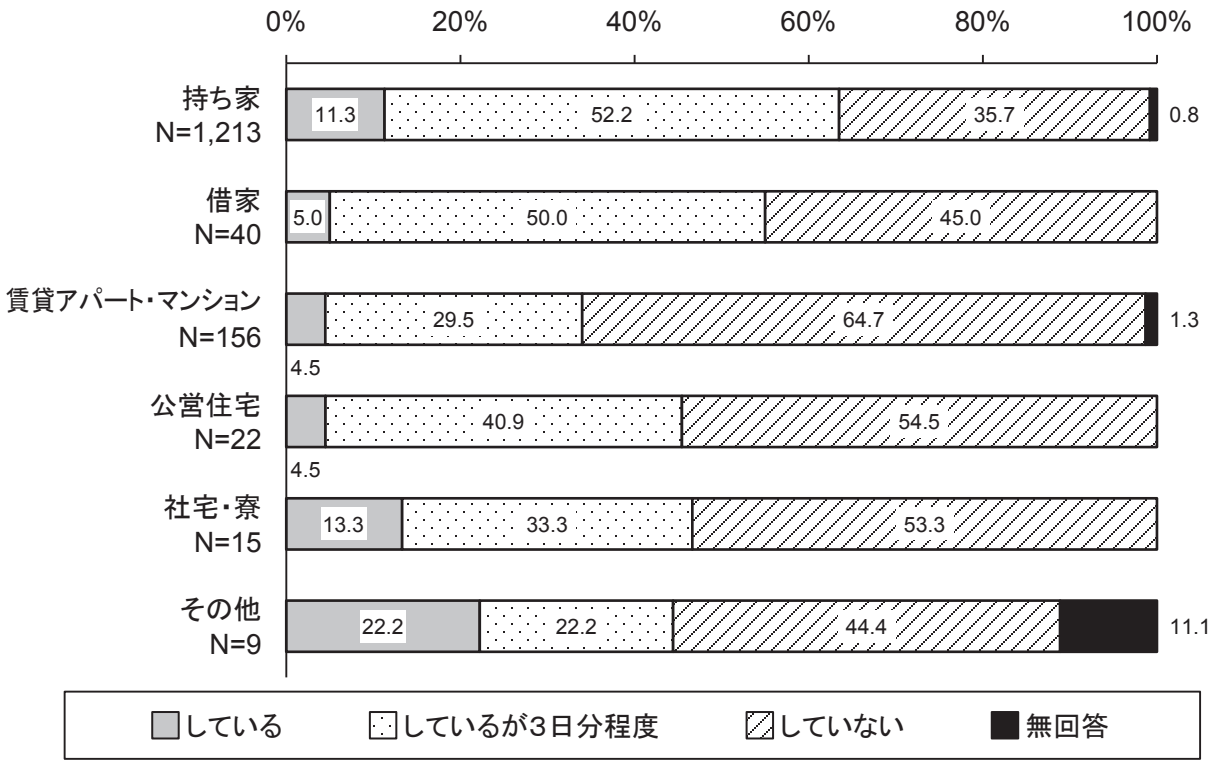
7 日分以上の水や食糧の備蓄をしている人は全体の 10.5％となった。「しているが 3 日分程度」（49.0％）と合わせた『している』は 59.5％となった。

平成 26 年度調査と選択肢が異なるため単純比較はできないが、「していない」の回答割合が 33.4％から 39.4％と 6.0 ポイント増加した。

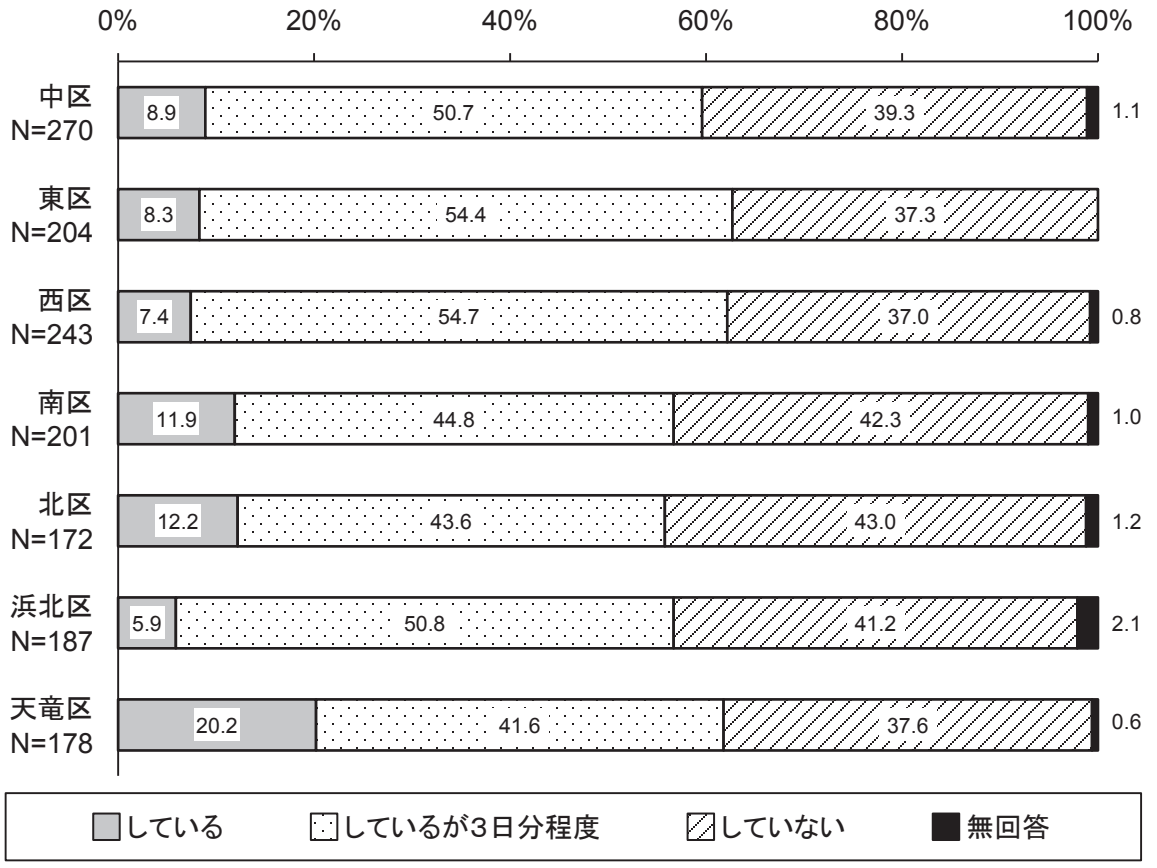
居住形態別でみると、「していない」の回答割合が最も高かったのは「賃貸アパート・マンション」の 64.7％。次いで「公営住宅」（54.5％）、「社宅・寮」（53.3％）の順に高かった。

行政区別でみると、「していない」の回答割合が最も高かったのは北区の 43.0％であったが、最も低かった西区（37.0％）との差は 6.0 ポイントにとどまっている。

【居住形態別】

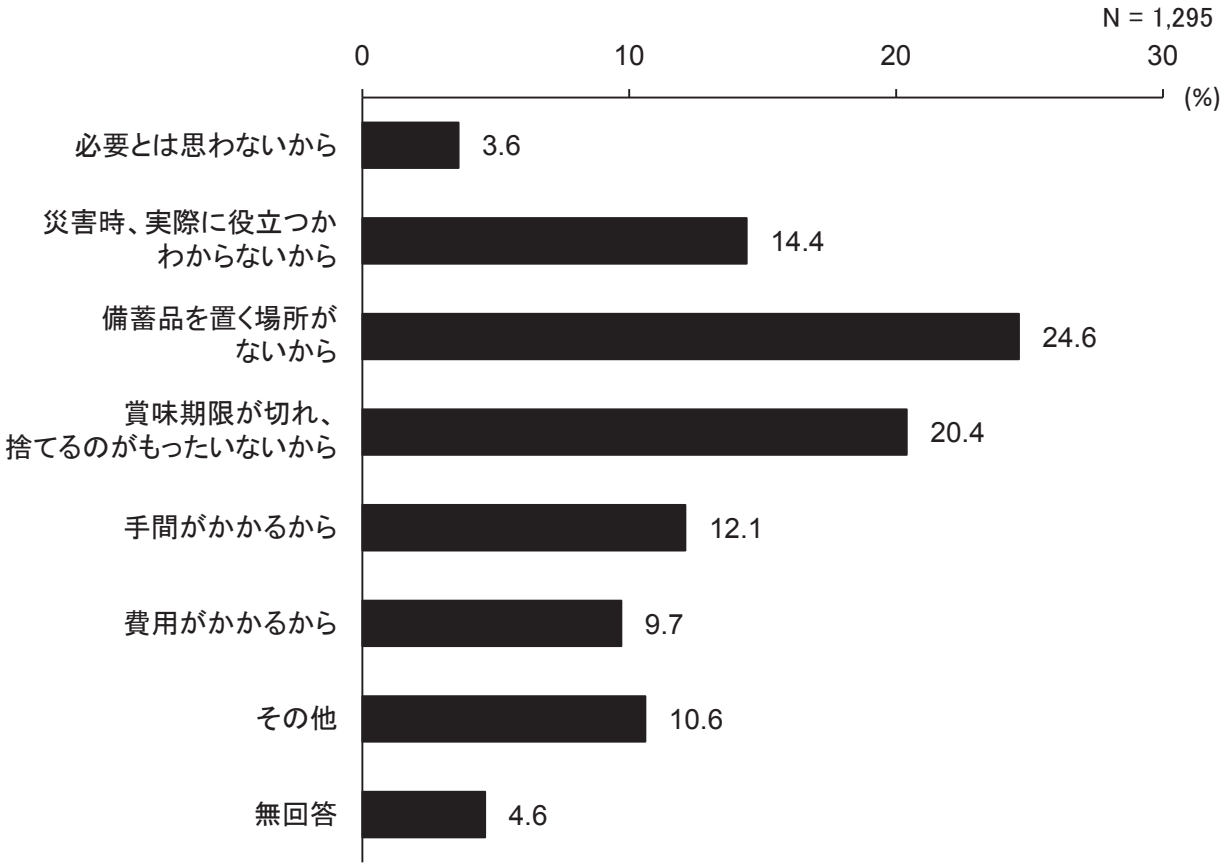

0%
20%
40%
60%
80%
100%
持ち家
N=1,213
11.3
52.2
35.7
0.8
借家
N=40
5.0
50.0
45.0
賃貸アパート・マンション
N=156
4.5
29.5
64.7
1.3
公営住宅
N=22
4.5
40.9
54.5
社宅・寮
N=15
13.3
33.3
53.3
その他
N=9
22.2
22.2
44.4
11.1
している
しているが3日分程度
していない
無回答

【行政区別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
中区
N=270
8.9
50.7
39.3
1.1
東区
N=204
8.3
54.4
37.3
西区
N=243
7.4
54.7
37.0
0.8
南区
N=201
11.9
44.8
42.3
1.0
北区
N=172
12.2
43.6
43.0
1.2
浜北区
N=187
5.9
50.8
41.2
2.1
天竜区
N=178
20.2
41.6
37.6
0.6
している
しているが3日分程度
していない
無回答

問 30　問 29 で「２．しているが３日分程度」「３．していない」とお答えされた方に伺います。７日分以上の備蓄をしない理由は何ですか。（１つだけ〇を付けてください）

７日分以上の備蓄をしない理由は「備蓄品を置く場所がないから」が最も多い

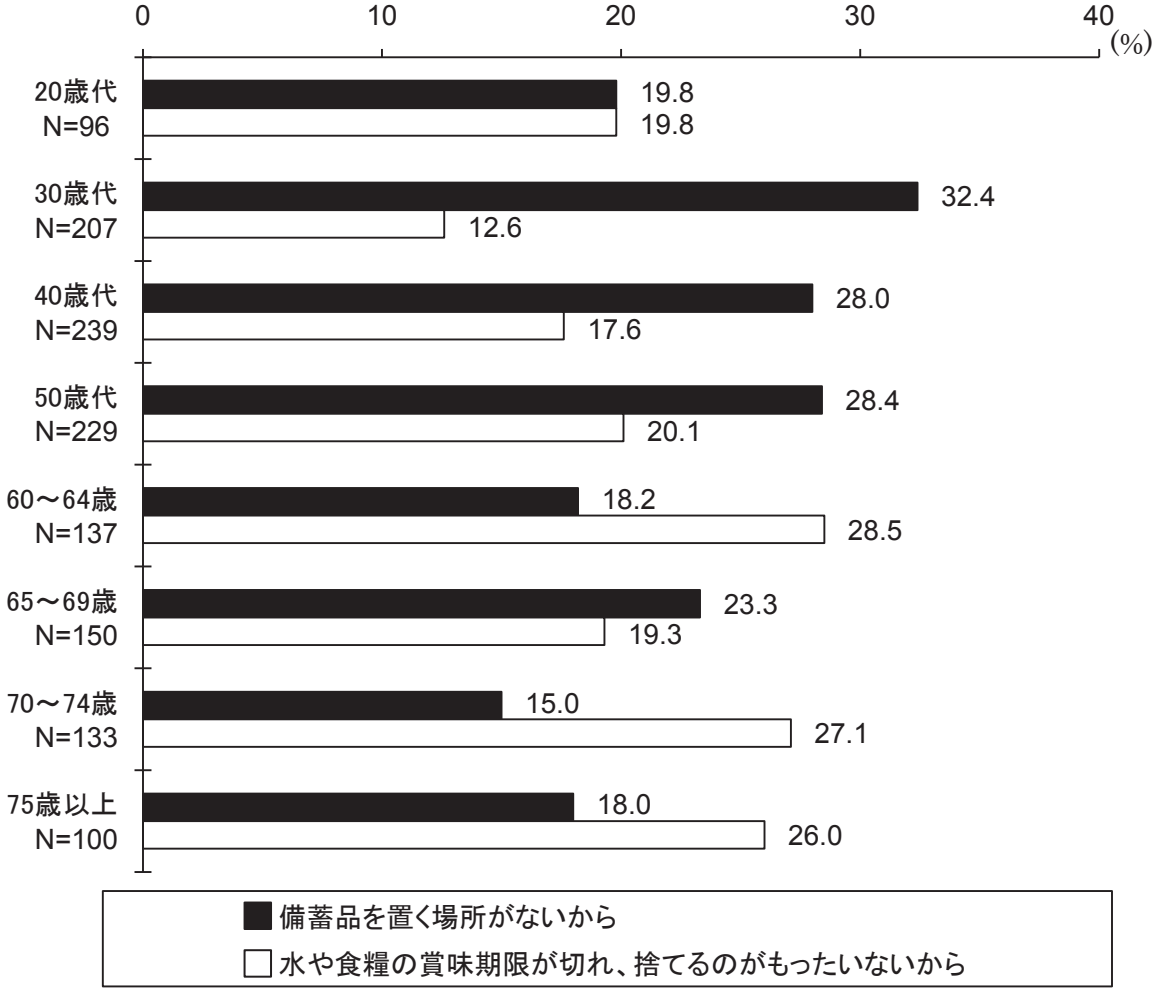


「必要とは思わないから」は 3.6%「災害時、実際に役立つかわからないから」は 14.4%にとどまり、大半の人が備蓄は必要と思いながらも、何らかの理由で 7 日分以上の備蓄ができていないことがわかった。備蓄ができていない理由としては、「備蓄品を置く場所がないから」が 24.6%で最も多く、次いで「水や食糧の賞味期限が切れ、捨てるのがもったいないから」の 20.4%となった。

回答割合が高かった「備蓄品を置く場所がないから」と「水や食糧の賞味期限が切れ、捨てるのがもったいないから」の回答の傾向を年齢別でみてみると、若い世代は「備蓄品を置く場所がないから」の回答割合が高く、高齢世代は「水や食糧の賞味期限が切れ、捨てるのがもったいないから」の回答割合が高かった。年齢により備蓄をしない理由が異なることから、年齢に応じた周知広報活動が必要といえる。

居住形態別でみると、賃貸アパート・マンションは「備蓄品を置く場所がないから」の回答割合が特に高かった。

【年齢別】



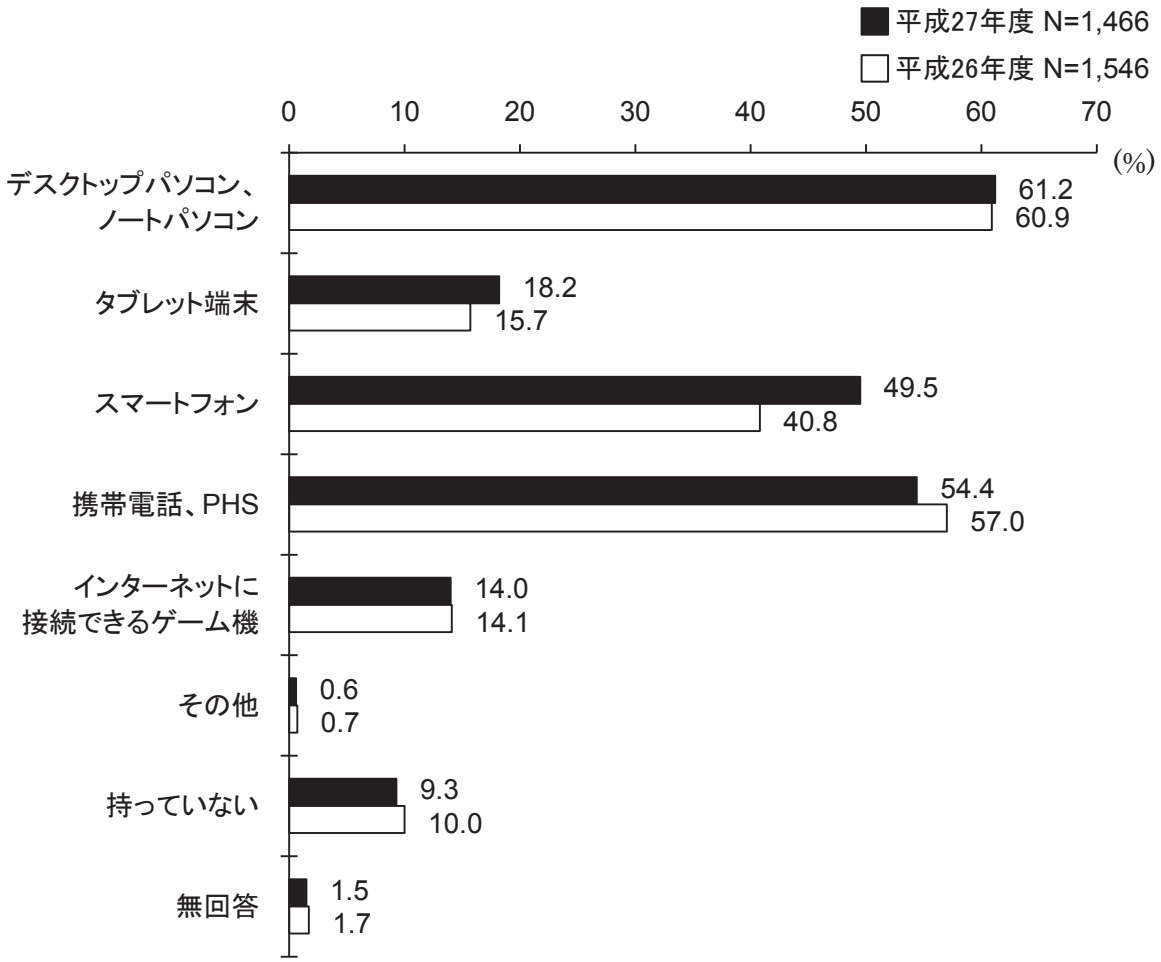
【居住形態別】

	必要とは思わないから	災害時、実際に役立つかわからないから	備蓄品を置く場所がないから	賞味期限が切れ、捨てるのがもったいないから	手間がかかるから	費用がかかるから	その他	無回答
持ち家 N=1,066	3.8	15.7	24.0	22.0	11.9	8.2	9.7	4.7
借家 N=38	－	13.2	13.2	18.4	13.2	26.3	13.2	2.6
賃貸アパート・マンション N=147	2.7	7.5	31.3	10.9	14.3	13.6	16.3	3.4
公営住宅 N=21	4.8	4.8	28.6	9.5	4.8	28.6	4.8	14.3
社宅・寮 N=13	7.7	15.4	7.7	7.7	15.4	23.1	23.1	－
その他 N=6	－	－	33.3	33.3	16.7	－	－	16.7

１３　地域情報化について

問 31　あなたはご家庭で、次のような情報通信機器を利用していますか。（あてはまるものすべてに○を付けてください）

約半数の人がスマートフォンを利用



「デスクトップパソコン、ノートパソコン」が 61.2%で最も多く、次いで、「携帯電話、ＰＨＳ」（54.4%）、「スマートフォン」（49.5%）の順に多かった。

平成 26 年度調査と比較すると、「スマートフォン」は 8.7 ポイント上昇、「携帯電話、ＰＨＳ」は2.6ポイント低下し、ポイント差は4.9ポイントまで縮小した。最も利用の多い「デスクトップパソコン、ノートパソコン」は、ほぼ横ばいの結果となった。

平成26年度調査との比較を年齢別でみると、30歳代以上は「携帯電話、ＰＨＳ」の利用が減少し、「スマートフォン」の利用が増加している。50歳代においては「携帯電話、ＰＨＳ」と「スマートフォン」とのポイント差が20.7ポイントから2.0ポイントまで縮まっている。

「スマートフォン」の普及が進み、いつでもどこでもインターネットに接続できるようになってきていることから、浜松市からの情報受発信も接続環境の変化に応じた対応が必要といえる。

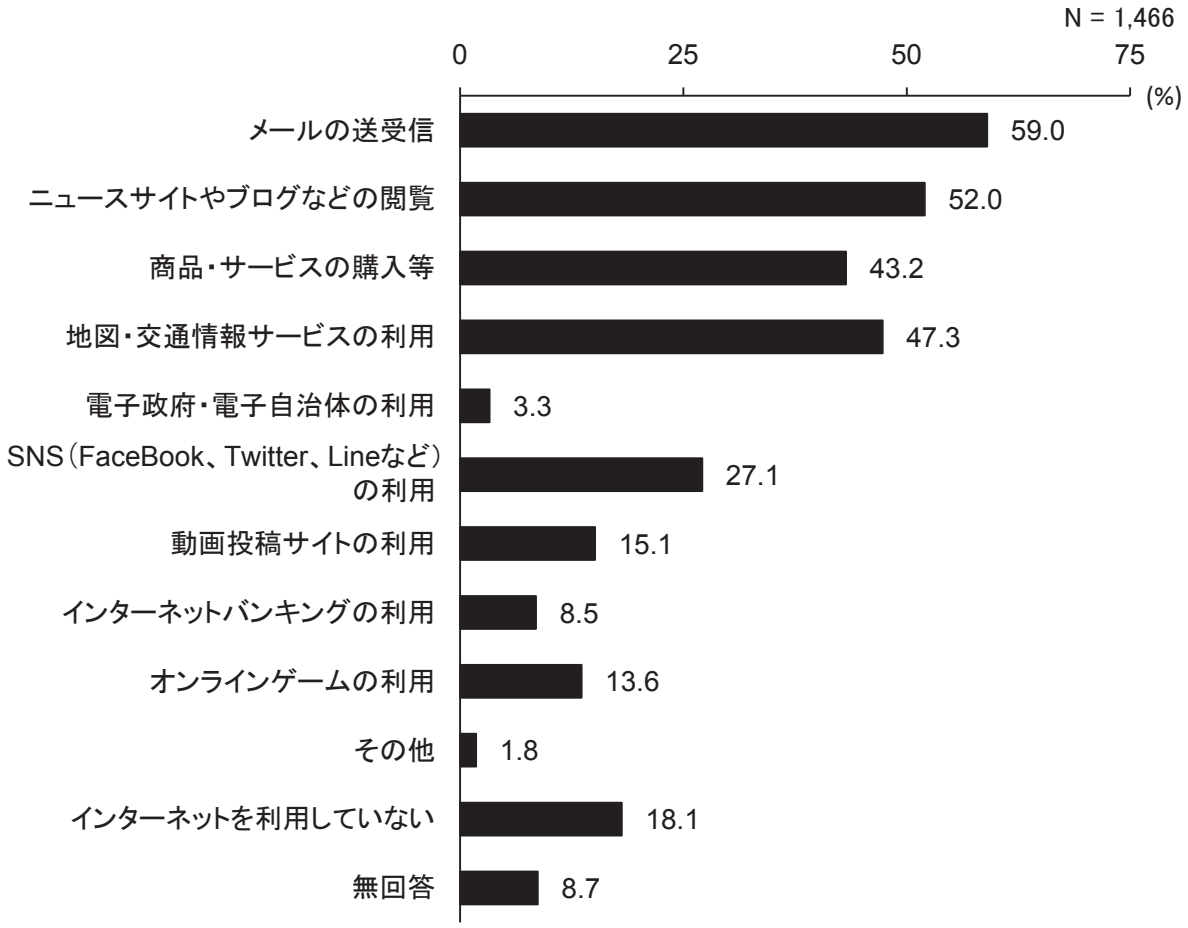
情報通信機器を「持っていない」は 9.3%となった。年齢別でみると、年齢が高まるに伴い「持っていない」の 割合が高くなる傾向がみられるが、75 歳以上でも「持っていない」は 35.9%にとどまっている。年齢に関わらず多くの市民が何らかの情報通信機器を所有している。

【年齢別】

	デスクトップパソコン、ノートパソコン	タブレット端末	スマートフォン	携帯電話、PHS	インターネットに接続できるゲーム機	その他	持っていない	無回答
20 歳代 N=109	73.4	20.2	90.8	33.9	21.1	－	0.9	－
30 歳代 N=219	76.3	27.4	86.3	37.9	23.3	－	－	－
40 歳代 N=255	75.7	29.8	72.5	50.6	28.2	－	2.4	1.2
50 歳代 N=249	77.5	22.9	58.2	60.2	9.6	0.4	2.0	0.4
60～64 歳 N=154	54.5	13.0	30.5	70.8	6.5	0.6	7.1	－
65～69 歳 N=174	51.1	8.0	17.8	71.3	5.2	0.6	12.6	2.3
70～74 歳 N=165	33.9	7.3	9.7	54.5	6.1	1.2	26.1	6.1
75 歳以上 N=131	21.4	3.8	7.6	53.4	3.1	3.1	35.9	1.5

問 32　あなたが、過去１か月間にインターネットを利用した際の、利用目的は何ですか。
（あてはまるものすべてに〇を付けてください）

利用目的は「メールの送受信」が 59.0%で最も多い



「メールの送受信」が 59.0%と最も多く、次いで、「ニュースサイトやブログなどの閲覧」（52.0%）、「地図・交通情報サービスの利用」（47.3%）となった。「電子政府・電子自治体の利用」は 3.3%にとどまった。

「電子政府・電子自治体の利用」は平成 26 年度調査でも 3.2%にとどまっている。平成 26 年度調査とは他の選択肢が異なるため単純比較はできないが、電子政府・電子自治体の利用普及が進んでいない状況がうかがえる。今後は、「認知度不足」「利便性の問題」「スマートフォン対応」といった普及の進んでいない要因をさらに分析し、利用促進に向けた対応策を考える必要がある。

年齢別でみると、20 歳代における「ＳＮＳの利用」（75.2%）が、「メールの送受信」（78.9%）と同程度の割合で高くなっており、ＳＮＳの普及がうかがえる。

「インターネットを利用していない」は全体では 18.1%と 2 割未満にとどまったが、年齢が高まるに伴い回答割合も高くなる傾向がみられ、70～74 歳は 40.6%、75 歳以上は 47.3%が「インターネットを利用していない」と回答している。問 31 でみたとおり、高齢者においても情報通信機器の所有は高まっているが、活用が進んでいない状況にある。高齢者向けのわかりやすい利活用講座・講演などの利用促進支援が必要といえる。

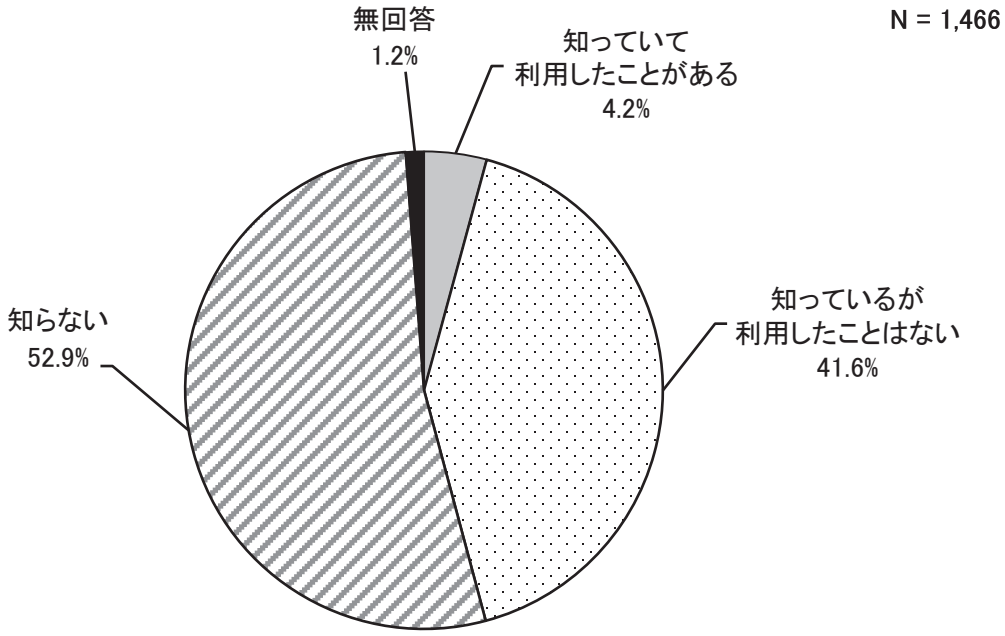
【年齢別】

	メールの送受信	ニュースサイトやブログなどの閲覧	商品・サービスの購入等	地図・交通情報サービスの利用	電子政府・電子自治体の利用	ＳＮＳ（FaceBook、Twitter、Lineなど）の利用	動画投稿サイトの利用	インターネットバンキングの利用	オンラインゲームの利用	その他	インターネットを利用していない	無回答
20 歳代 N=109	78.9	82.6	67.0	66.1	1.8	75.2	52.3	10.1	33.0	0.9	0.9	1.8
30 歳代 N=219	84.9	80.8	69.4	63.0	3.7	66.7	29.2	15.1	33.3	0.9	1.8	1.4
40 歳代 N=255	83.5	73.7	56.1	63.5	4.3	39.6	21.6	12.2	23.9	2.4	3.5	1.6
50 歳代 N=249	70.3	60.6	51.4	57.4	6.0	18.9	11.2	9.2	7.2	1.6	9.6	1.2
60～64 歳 N=154	50.0	39.0	34.4	39.0	1.3	8.4	5.2	6.5	4.5	1.3	25.3	7.1
65～69 歳 N=174	37.9	31.6	30.5	36.2	3.4	3.4	4.6	8.0	1.1	4.0	33.3	13.2
70～74 歳 N=165	25.5	17.0	12.7	25.5	1.8	1.2	0.6	1.8	1.8	1.8	40.6	21.2
75 歳以上 N=131	13.7	10.7	6.1	8.4	0.8	0.8	0.8	－	－	0.8	47.3	32.8

１４　市民コールセンターについて

問 33　浜松市では、市民のみなさんが市役所への問合せ先が分からないときにご利用いただくよう「市民コールセンター」を設置しています。あなたはご存じですか。（１つだけ○を付けてください）

「市民コールセンター」の認知度は 45.8%



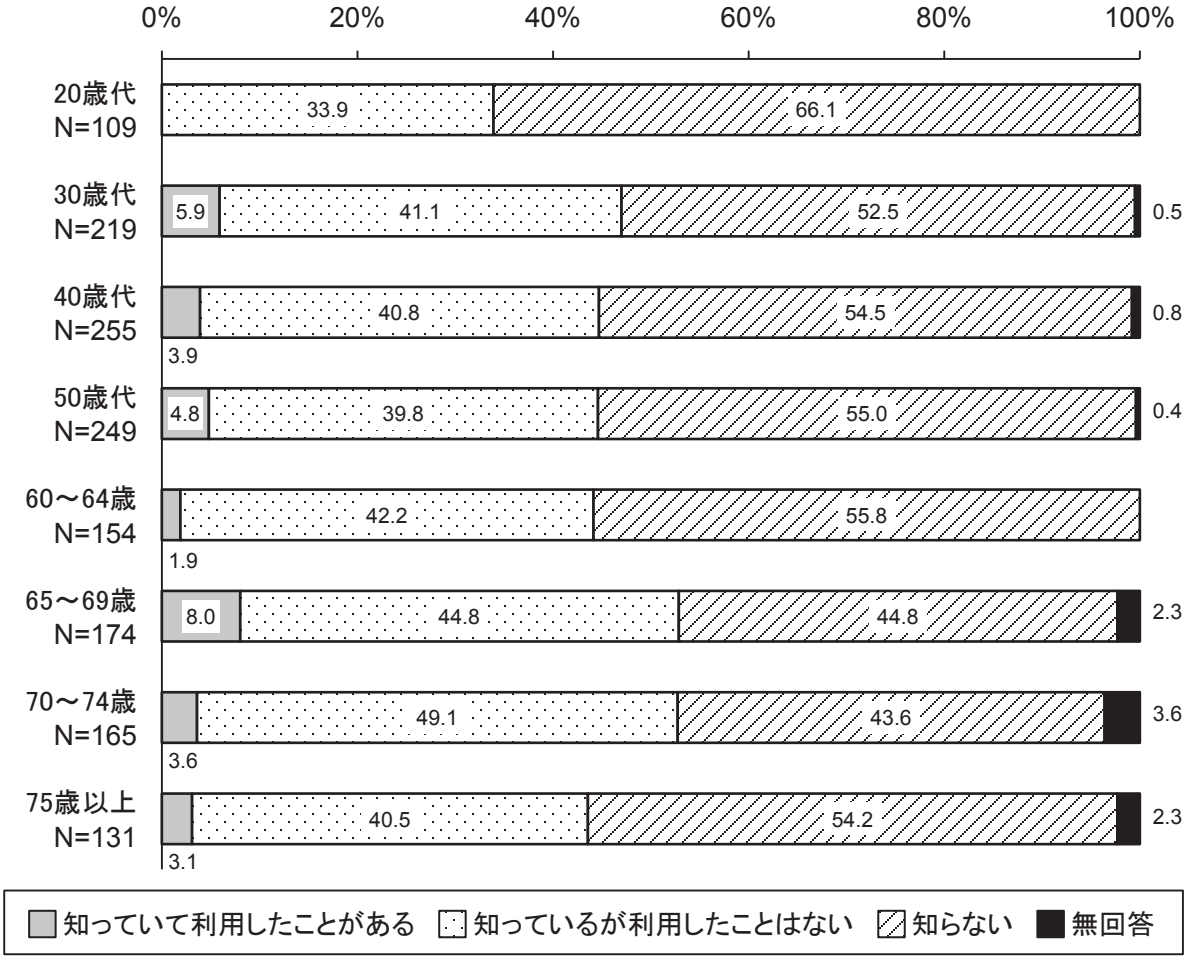
「知っていて利用したことがある」（4.2%）と「知っているが利用したことはない」（41.6%）を合わせた『認知度』は 45.8%となり、「知らない」の 52.9%を 7.1 ポイント下回った。

年齢別でみると、『認知度』が最も高かったのは 65～69 歳の 52.8%、次いで、70～74 歳の 52.7%で、『認知度』が最も低かったのは 20 歳代の 33.9%であった。

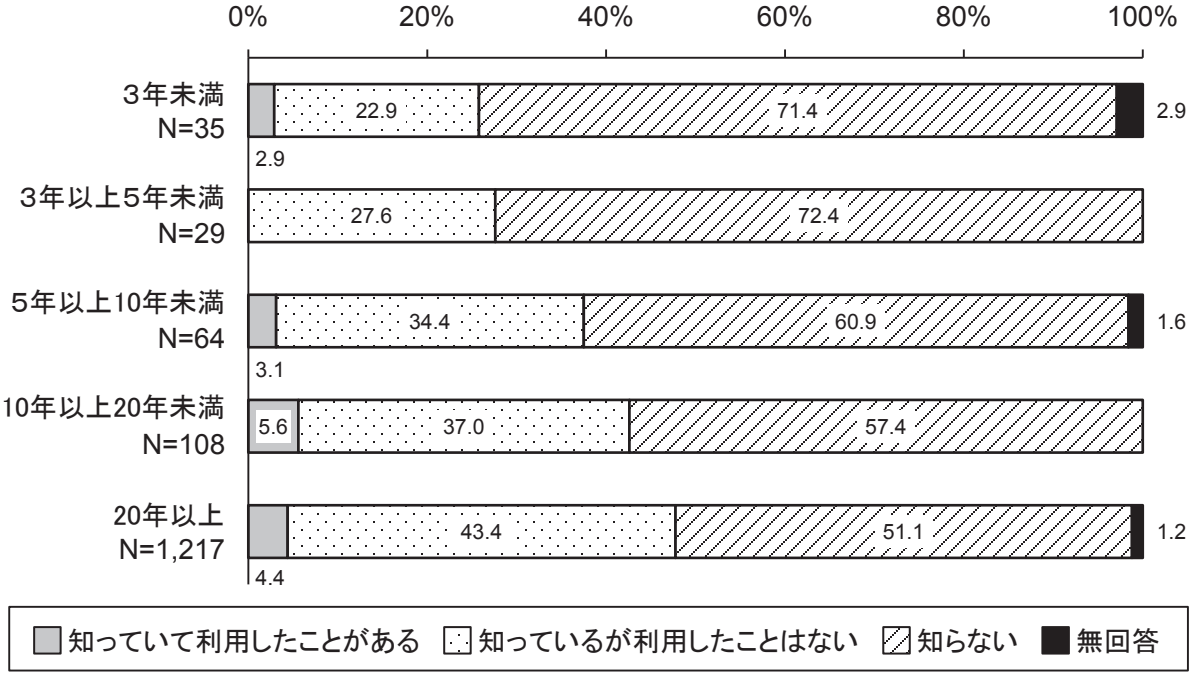
居住年数別では、「知らない」人の割合が 3 年以上 5 年未満で72.4%、3 年未満で71.4%と、居住年数が短い人の「知らない」割合が高かった。

毎月全戸配付している「広報はままつ」表紙への掲載、市ホームページトップページへの掲載の他に、若年層、転入者等認知度が低い対象者に対する「市民コールセンター」の効果的な周知方法について検討していく必要がある。

【年齢別】

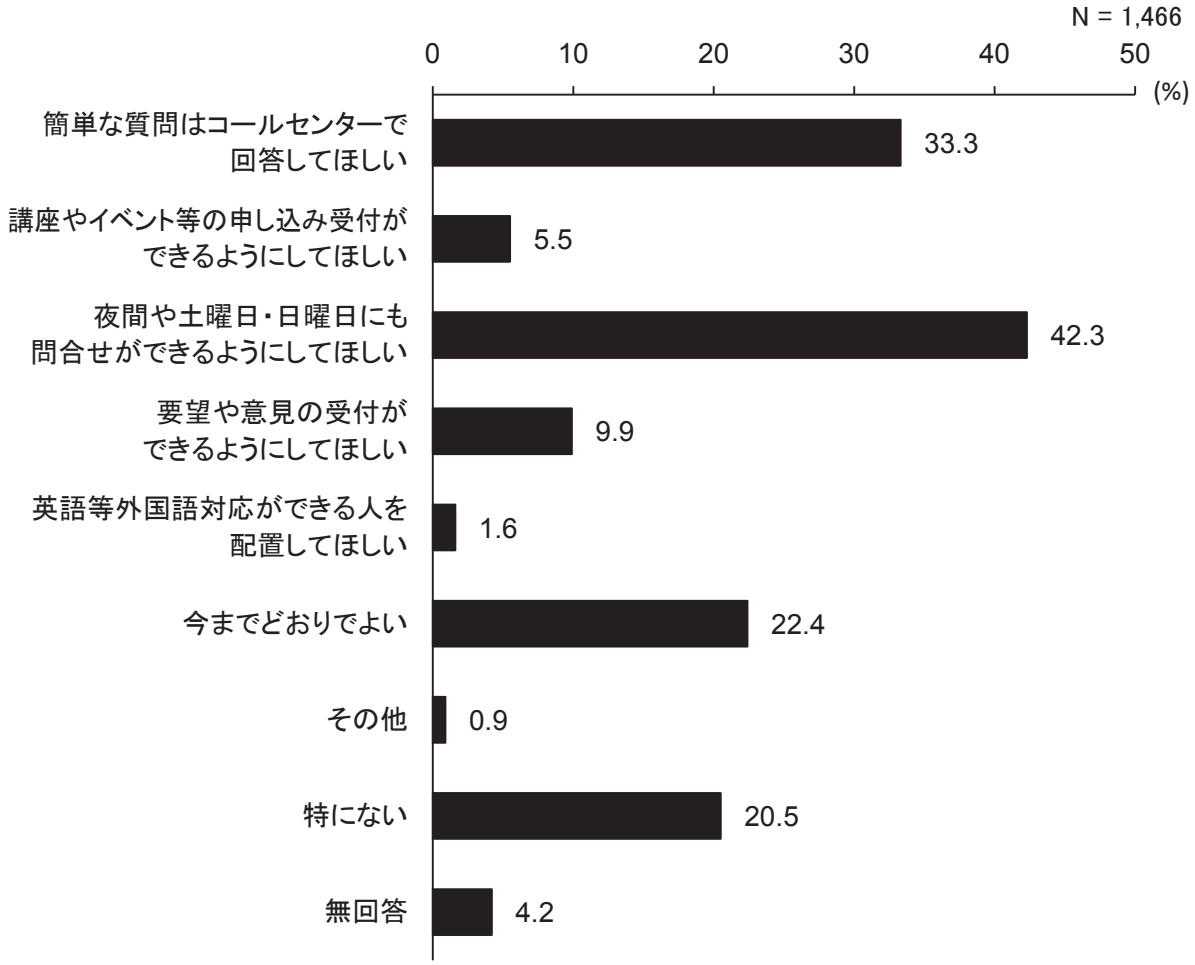

0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳代
N=109
33.9
66.1
30歳代
N=219
5.9
41.1
52.5
0.5
40歳代
N=255
40.8
54.5
0.8
3.9
50歳代
N=249
4.8
39.8
55.0
0.4
60～64歳
N=154
42.2
55.8
1.9
65～69歳
N=174
8.0
44.8
44.8
2.3
70～74歳
N=165
49.1
43.6
3.6
3.6
75歳以上
N=131
40.5
54.2
2.3
3.1
知っていて利用したことがある
知っているが利用したことはない
知らない
無回答

【居住年数別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
3年未満
N=35
22.9
71.4
2.9
2.9
3年以上5年未満
N=29
27.6
72.4
5年以上10年未満
N=64
34.4
60.9
1.6
3.1
10年以上20年未満
N=108
5.6
37.0
57.4
20年以上
N=1,217
43.4
51.1
1.2
4.4
知っていて利用したことがある
知っているが利用したことはない
知らない
無回答

問 34　市民コールセンターでは、問合せ内容の担当課へ電話をつなぐことを主な業務としていますが、今後、サービスの拡充としてコールセンターに求めるものは何ですか。
（２つまで〇を付けてください）

「夜間や土曜日・日曜日にも問合せができるようにしてほしい」が 42.3%で最も多い



「夜間や土曜日・日曜日にも問合せができるようにしてほしい」が 42.3%で最も多く、次いで「制度や手続きについての簡単な質問は、コールセンターで回答（完結）してほしい」の 33.3%となった。いずれも 20 歳代から 50 歳代の回答割合が高くなっており、平日勤務の都合上、夜間・土日や短時間での対応を望む声が多いと予想される。

一方、「今までどおりでよい」22.4%、「特にない」20.5%といった意見が上位に続いている。

さらに、問 33 でたずねた市民コールセンターの認知度別では、市民コールセンターを「知っていて利用したことがある」人は、「今までどおりでよい」が 45.2 %で最も多かった。このことから、サービス拡充へのニーズを見極めることも課題になると思われる。

【年齢別】

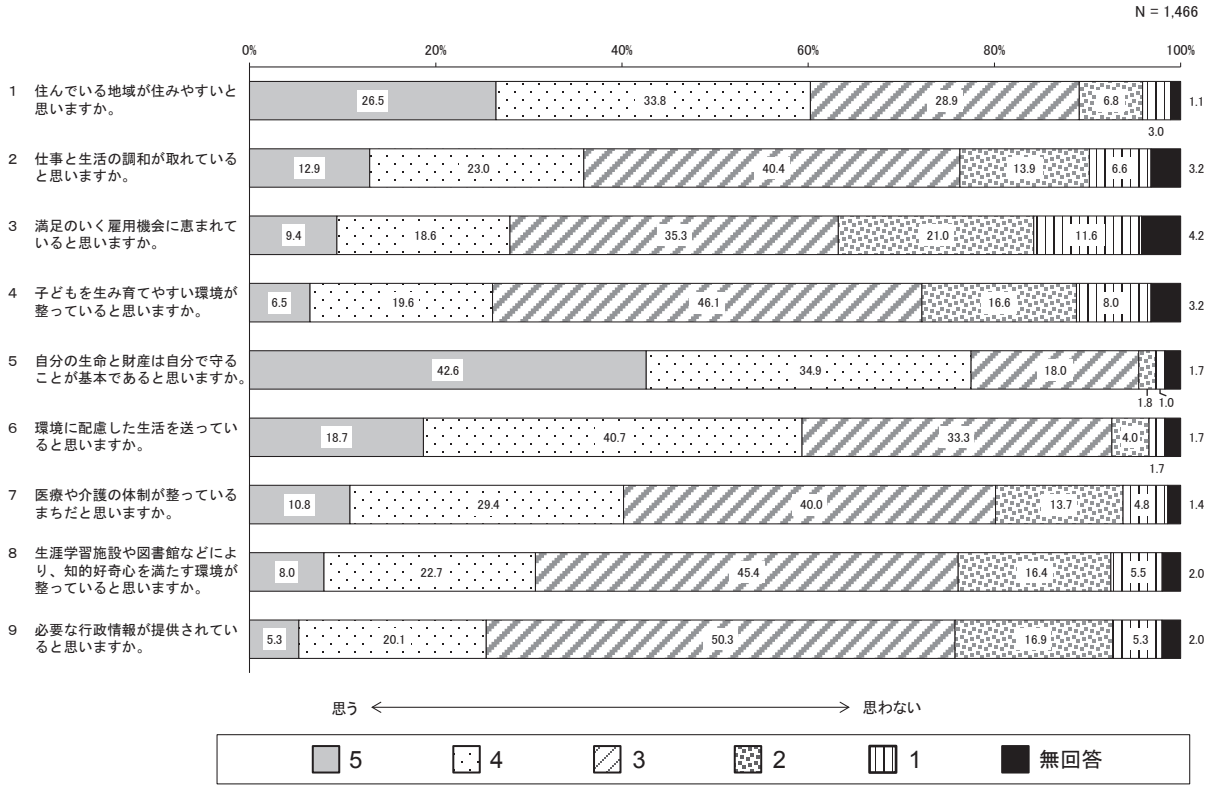
	簡単な質問はコールセンターで回答してほしい	講座やイベント等の申し込み受付ができるようにしてほしい	夜間や土・日にも問合せができるようにしてほしい	要望や意見の受付ができるようにしてほしい	英語等外国語対応ができる人を配置してほしい	今までどおりでよい	その他	特にない	無回答
20 歳代 N=109	31.2	7.3	51.4	7.3	4.6	9.2	0.9	27.5	1.8
30 歳代 N=219	34.7	5.9	46.6	9.1	3.2	19.6	1.4	20.5	2.7
40 歳代 N=255	34.1	4.3	52.2	6.7	2.7	20.0	−	17.6	2.4
50 歳代 N=249	42.6	5.2	55.8	5.2	0.8	18.9	1.2	13.7	0.4
60～64 歳 N=154	33.8	9.1	44.8	15.6	0.6	21.4	0.6	18.2	1.9
65～69 歳 N=174	30.5	4.0	31.6	14.4	−	27.0	1.7	24.1	6.3
70～74 歳 N=165	24.8	4.2	21.8	12.1	−	33.9	0.6	23.6	9.7
75 歳以上 N=131	27.5	3.1	22.1	13.0	0.8	29.8	0.8	27.5	10.7

【市民コールセンターの認知度別】

	簡単な質問はコールセンターで回答してほしい	講座やイベント等の申し込み受付ができるようにしてほしい	夜間や土・日にも問合せができるようにしてほしい	要望や意見の受付ができるようにしてほしい	英語等外国語対応ができる人を配置してほしい	今までどおりでよい	その他	特にない	無回答
知っていて利用したことがある N=62	30.6	4.8	38.7	3.2	−	45.2	−	9.7	4.8
知っているが利用したことはない N=610	38.2	7.0	45.2	12.6	2.6	25.4	0.8	13.8	1.3
知らない N=776	30.4	4.3	41.0	8.2	0.9	18.7	1.0	27.1	4.6

１５　市政に関する現状認識について

問 35　あなたは日常生活の中で、どのように感じていますか。各項目について「思う」から「思わない」まで５段階のうち、それぞれ１つだけ選び○を付けてください。



評価が「5」と「4」を合わせた『思う』の割合が最も高かったのは、「5 自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか」の77.5%だった。

平成26年度調査と比較すると、9項目中8項目で『思う』の割合が増加した。最も割合が増加した項目は「6 環境に配慮した生活を送っていると思いますか」で4.3ポイント増加した。

浜松市総合計画の平成36年度目標値（P123～126に記載）と比較すると、全ての項目で目標値を下回っている。目標値との差が最も大きかったのは「4 子どもを生み育てやすい環境が整っていると思いますか」で23.9ポイント低かった。

82ページ【年齢別】・【性別】【行政区別】の表は、評価が「5」を10点、「4」を7.5点、「3」を5点、「2」を2.5点、「1」を0点とし、各項目ごと回答者数に応じて平均点を算出したものである。この数値は、10点に近いほど『思う』度合が高い指数である。

年齢別でみると、いずれの年齢層でも「5 自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか」の指数が最も高かった。

性別でみても、男女とも「5 自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか」の指数が最も高かった。

【平成26年度結果との比較（差が大きい順）】　（単位：%）

項　目	平成27年度結果(A)	平成26年度結果(B)	差(A-B)
6 環境に配慮した生活を送っていると思いますか。	59.4	55.1	4.3
4 子どもを生み育てやすい環境が整っていると思いますか。	26.1	23.4	2.7
7 医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	40.2	37.8	2.4
3 満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	28.0	26.0	2.0
1 住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	60.3	58.9	1.4
8 生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	30.7	29.4	1.3
5 自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	77.5	76.4	1.1
2 仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	35.9	35.4	0.5
9 必要な行政情報が提供されていると思いますか。	25.4	26.0	▲ 0.6

※ A・Bの数値は「5」と「4」を合わせた『思う』の割合

【浜松市総合計画における平成 36 年度目標値との比較（差が大きい順）】　（単位：%）

項　目	平成27年度結果(A)	平成36年度目標値(B)	差(A-B)
4 子どもを生み育てやすい環境が整っていると思いますか。	26.1	50.0	▲ 23.9
9 必要な行政情報が提供されていると思いますか。	25.4	40.0	▲ 14.6
2 仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	35.9	50.0	▲ 14.1
7 医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	40.2	50.0	▲ 9.8
6 環境に配慮した生活を送っていると思いますか。	59.4	66.6	▲ 7.2
1 住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	60.3	65.0	▲ 4.7
8 生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	30.7	35.0	▲ 4.3
5 自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	77.5	80.0	▲ 2.5
3 満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	28.0	30.0	▲ 2.0

※ A・Bの数値は「5」と「4」を合わせた『思う』の割合

【年齢別】

◎＝6点以上　△＝4点以下

項　目	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
1　住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	◎ 6.9	◎ 7.2	◎ 7.0	◎ 6.8	◎ 7.0	◎ 7.0	◎ 6.7	◎ 6.9	◎ 6.4
2　仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	5.6	5.4	5.1	5.6	5.5	5.9	5.8	◎ 6.0	5.3
3　満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	4.8	5.1	5.1	4.9	4.7	4.6	4.7	4.9	4.3
4　子どもを生み育てやすい環境が整っていると思いますか。	5.0	4.7	4.6	5.3	4.8	5.1	5.2	5.6	4.7
5　自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	◎ 8.0	◎ 7.7	◎ 7.7	◎ 7.9	◎ 7.7	◎ 8.2	◎ 8.2	◎ 8.6	◎ 8.1
6　環境に配慮した生活を送っていると思いますか。	◎ 6.8	◎ 6.0	◎ 6.2	◎ 6.7	◎ 6.5	◎ 6.9	◎ 7.2	◎ 7.7	◎ 7.2
7　医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	5.7	5.3	5.4	5.7	5.4	5.7	5.9	◎ 6.4	◎ 6.2
8　生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	5.3	4.9	5.3	5.4	4.9	5.1	5.5	5.6	5.6
9　必要な行政情報が提供されていると思いますか。	5.1	4.7	4.9	5.1	4.9	5.0	5.1	5.8	5.2

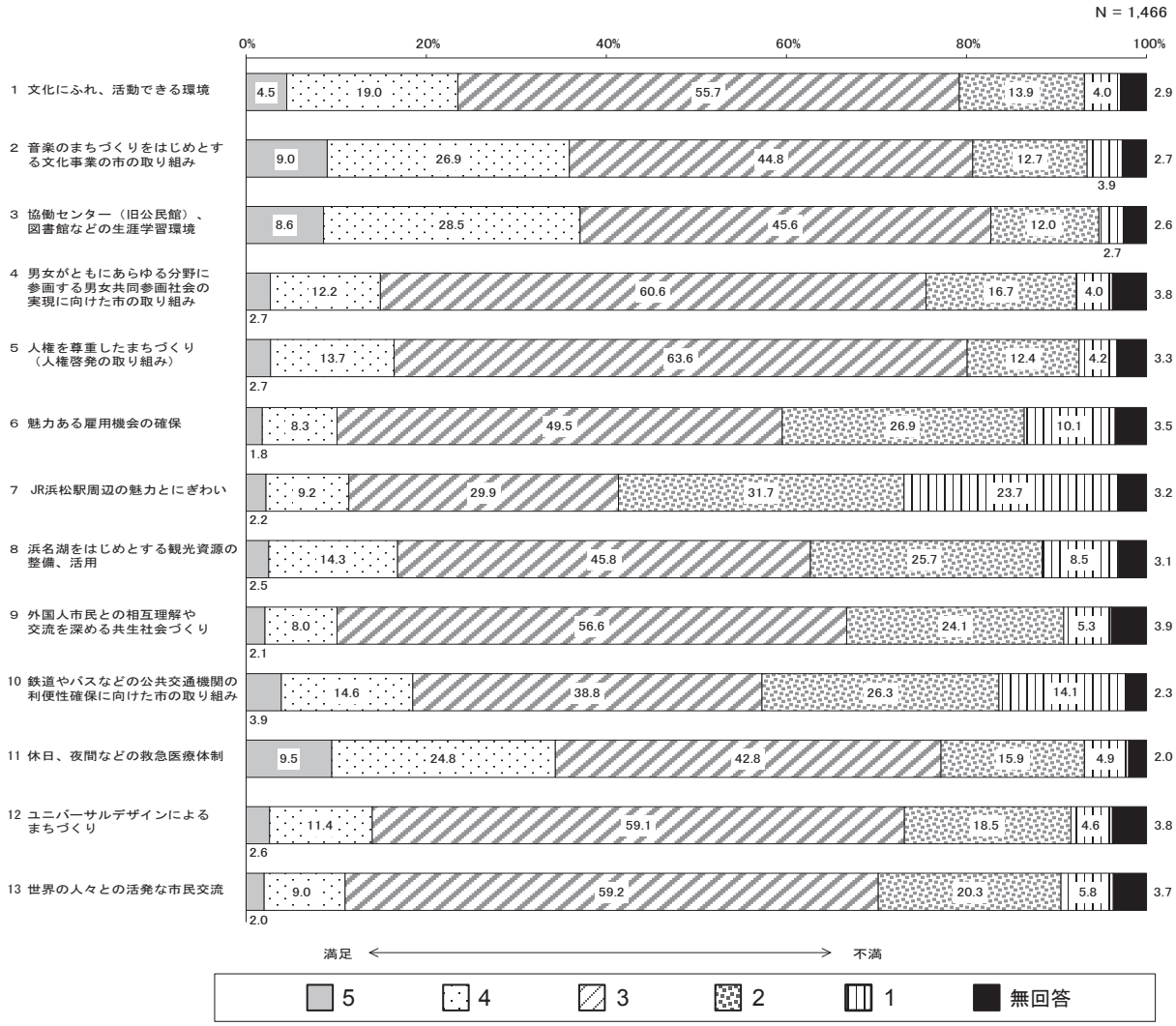
【性別】【行政区別】

◎＝6点以上　△＝4点以下

項　目	男性	女性	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
1　住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	◎ 6.8	◎ 7.0	◎ 7.2	◎ 6.9	◎ 6.5	◎ 7.2	◎ 7.0	◎ 7.2	5.7
2　仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	5.5	5.7	5.8	5.6	5.4	5.8	5.6	5.8	4.9
3　満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	4.9	4.7	4.8	5.0	4.7	5.3	4.8	5.4	△ 3.6
4　子どもを生み育てやすい環境が整っていると思いますか。	4.9	5.1	5.0	5.0	5.0	5.3	5.1	5.4	4.2
5　自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	◎ 8.0	◎ 8.0	◎ 7.9	◎ 7.7	◎ 8.0	◎ 8.3	◎ 8.1	◎ 7.9	◎ 7.8
6　環境に配慮した生活を送っていると思いますか。	◎ 6.4	◎ 7.0	◎ 6.8	◎ 6.7	◎ 6.7	◎ 7.1	◎ 6.9	◎ 6.8	◎ 6.7
7　医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	5.7	5.7	◎ 6.0	5.9	5.6	◎ 6.0	5.7	5.9	4.7
8　生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	5.3	5.3	5.6	5.4	5.3	5.5	5.2	5.3	4.4
9　必要な行政情報が提供されていると思いますか。	4.9	5.2	5.0	5.4	5.1	5.3	4.9	5.2	4.7

１６　市の取り組みの満足度評価について

問 36　あなたは、浜松市がこれまで進めてきた取り組みについて日ごろどのように感じていますか。 各項目について「満足」から「不満」まで５段階のうち、それぞれ１つだけ選び○を付けてください。



評価が「5」と「4」を合わせた『満足している』の割合が最も高かったのは、「3　協働センター（旧公民館）、図書館などの生涯学習環境」の37.1%だった。

平成26年度調査と比較すると、13項目中7項目で『満足している』の割合が高く、『満足している』の割合が最も増加したのも「3　協働センター（旧公民館）、図書館などの生涯学習環境」で6.4ポイントの増加となった

85ページ【年齢別】・【性別】【行政区別】の表は評価が「5」を10点、「4」を7.5点、「3」を5点、「2」を2.5点、「1」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は、10点に近いほど満足度が高くなる指数である。

年齢別でみると、20歳代、50歳代、70～74歳を除く年齢層は、「3　協働センター（旧公民館）、図書館などの生涯学習環境」の満足度が最も高く、20歳代、50歳代は「2　音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み」が最も高かった。70～74歳は「11　休日、夜間などの緊急医療体制」が最も高く、75歳以上も「3　協働センター（旧公民館）、図書館などの生涯学習環境」と同率で最も高かった。

【平成26年度結果との比較（差が大きい順）】　（単位：%）

項　目	平成27年度結果(A)	平成26年度結果(B)	差(A-B)
3　協働センター(旧公民館)、図書館などの生涯学習環境	37.1	30.7	6.4
2　音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	35.9	33.0	2.9
4　男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組み	14.9	13.0	1.9
6　魅力ある雇用機会の確保	10.1	9.3	0.8
10　鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	18.5	17.9	0.6
5　人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	16.4	15.9	0.5
12　ユニバーサルデザインによるまちづくり	14.0	13.8	0.2
7　JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい	11.4	11.6	▲ 0.2
9　外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	10.1	10.5	▲ 0.4
11　休日、夜間などの救急医療体制	34.3	35.6	▲ 1.3
13　世界の人々との活発な市民交流	11.0	12.4	▲ 1.4
1　文化にふれ、活動できる環境	23.5	26.7	▲ 3.2
8　浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	16.8	20.2	▲ 3.4

※ A・Bの数値は「5」と「4」を合わせた『満足している』の割合

【年齢別】

◎＝6点以上　△＝4点以下

項　目	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
1　文化にふれ、活動できる環境	5.2	5.4	5.2	5.4	5.0	4.7	5.0	5.6	5.1
2　音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	5.6	5.7	5.5	5.9	5.6	5.1	5.6	◎ 6.0	5.6
3　協働センター（旧公民館）、図書館などの生涯学習環境	5.7	5.5	5.6	◎ 6.0	5.5	5.5	5.8	◎ 6.1	◎ 6.0
4　男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組み	4.8	4.5	4.8	4.9	4.7	4.5	4.8	5.2	5.0
5　人権を尊重したまちづくり（人権啓発の取り組み）	5.0	5.0	4.9	5.0	4.8	4.8	5.0	5.3	5.0
6　魅力ある雇用機会の確保	4.1	△ 3.9	△ 4.0	4.2	△ 3.9	△ 4.0	△ 4.0	4.7	4.2
7　JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい	△ 3.3	△ 3.6	△ 3.0	△ 3.0	△ 2.8	△ 3.2	△ 3.4	4.5	△ 3.8
8　浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	4.4	4.7	4.2	4.2	△ 4.0	4.3	4.4	5.2	4.9
9　外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	4.4	4.6	4.5	4.6	4.2	4.1	4.3	4.6	4.5
10　鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	4.2	4.8	4.3	△ 3.9	△ 3.7	△ 3.9	4.2	4.9	4.5
11　休日、夜間などの救急医療体制	5.5	5.3	5.4	5.3	5.0	5.4	5.4	◎ 6.3	◎ 6.0
12　ユニバーサルデザインによるまちづくり	4.7	4.9	4.7	5.0	4.5	4.4	4.5	5.1	4.8
13　世界の人々との活発な市民交流	4.5	4.3	4.7	4.6	4.3	4.2	4.3	5.1	4.6

【性別】【行政区別】

◎＝6点以上　△＝4点以下

項　目	男性	女性	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
1　文化にふれ、活動できる環境	5.0	5.3	5.4	5.3	5.1	5.4	4.8	5.4	4.6
2　音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	5.4	5.8	◎ 6.0	5.9	5.4	◎ 6.1	5.2	5.7	4.8
3　協働センター（旧公民館）、図書館などの生涯学習環境	5.6	5.8	5.8	5.9	5.8	◎ 6.1	5.4	5.8	5.2
4　男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組み	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	5.1	4.6	4.9	4.6
5　人権を尊重したまちづくり（人権啓発の取り組み）	4.9	5.0	5.1	4.9	4.9	5.2	4.8	5.0	4.7
6　魅力ある雇用機会の確保	4.1	4.1	4.2	4.5	△ 4.0	4.4	△ 3.9	4.3	△ 3.3
7　JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい	△ 3.3	△ 3.3	△ 3.2	△ 3.4	△ 3.1	△ 3.3	△ 3.0	△ 3.4	△ 3.8
8　浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	4.3	4.5	4.4	4.6	4.4	4.5	△ 3.8	4.3	4.6
9　外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	4.4	4.4	4.4	4.6	4.4	4.4	4.2	4.6	4.3
10　鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	4.1	4.3	4.5	4.2	4.3	4.5	△ 3.5	4.5	△ 3.5
11　休日、夜間などの救急医療体制	5.4	5.5	5.7	5.6	5.7	5.7	5.1	5.1	5.1
12　ユニバーサルデザインによるまちづくり	4.7	4.8	4.8	4.9	4.7	4.9	4.4	4.7	4.5
13　世界の人々との活発な市民交流	4.5	4.5	4.6	4.7	4.5	4.7	4.2	4.6	4.3

付録　調査票

― あなたの声を市政に生かす ―

平成２７年度 **市民アンケート調査**（第４２回）

日ごろ、市政の推進につきましては、ご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

浜松市では、市民の皆さまのお考えを伺うことで市政の充実を図り、市民の皆さまの暮らしが豊かになるように努めていきたいと考えております。

つきましては、今後のまちづくりの基礎資料とするため、市民アンケート調査を実施させていただきます。この調査を実施するにあたり、市内在住の満２０歳以上の皆さまの中から無作為に３,０００人の方々を選ばせていただきました。お忙しいところ誠にお手数ですが、調査の趣旨をご理解いただきご回答くださいますようお願いします。

なお、調査結果につきましては、広報はままつや浜松市公式Ｗｅｂサイト（ホームページ）などで報告させていただく予定です。

平成２７年６月　浜松市長　鈴　木　康　友

＜ご回答についてのお願い＞

１．**封書のあて名の方**が、ご回答くださいますようお願いします。

２．ご回答は、各設問に該当する番号を選択肢の中から選んで、**○で囲んでください。**
また、「その他」を選んだ方は、その具体的な内容をご記入ください。

３．この調査結果は、上記目的以外に使用することはなく、内容についてご迷惑をお掛けすることはありません。

４．**６月３０日（火）まで**にこの用紙を同封の封筒に入れて、切手を貼らずにご投函ください。

５．ご不明な点は、**広聴広報課　市民コールセンターグループ☎（０５３）４５７－２０２３**へお問い合わせください。

～ あなたはご存じですか? ～

問１　次の項目について、あなたはご存じですか。
　　１～３（または、４）のうちから１つ選んで〇を付けてください。

	名称も内容も知っている	名称だけは知っている	知らない
①　浜松市音・かおり・光環境創造条例 ※人に潤いや安らぎを与えてくれる音・かおり・光資源を保全するとともに、自らも人に不快感や嫌悪感を与える騒音、悪臭および光害の防止に取り組み、快適な生活環境創造のための条例。	1	2	3
②　生物多様性 ※生き物の豊かな個性とつながりのこと。すべての生き物にはちがい（「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」）があり、互いにつながり合い、支え合って生きています。	1	2	3
③　市制記念日 ※浜松市では市制施行を記念して、７月１日を市制記念日として定めています。	1 知っている		2 知らない
④　協働センター ※平成２５年４月から、公民館が、併設されている市民サービスセンターと統合し「協働センター」となりました。	1 知っている		2 知らない

	知っていて、活用している	知っているが、活用していない	知らない
⑤　区版避難行動計画 ※災害時にとるべき行動を、区ごとの災害特性をふまえてわかりやすくまとめ、防災マップや防災カードとともに全戸に配布しています。	1	2	3

	詳しく知っている	知っている	言葉だけは知っている	まったく知らない
⑥　ユニバーサルデザイン ※ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、国籍などに関係なく、誰もが安全で安心、快適な暮らしができるように「人づくり」や「環境づくり」を行っていこうとする考え方です。	1	2	3	4

～ 浜松市歌について ～

問２　浜松市では、平成１９年、新たに浜松市歌を制定しました。あなたは市歌をご存じですか。また、歌うことができますか。

（１つだけ○を付けてください）

１．市歌があることを知っていて、歌うこともできる ２．市歌があることは知っているが、歌うことはできない ３．市歌があることを知らなかった

問３　問２で「１．市歌があることを知っていて、歌うこともできる」「２．市歌があることは知っているが、歌うことはできない」とお答えされた方に伺います。市歌をどこかで聴いたことがありますか。

（あてはまるものすべてに○を付けてください）

１．テレビ・ラジオ等	２．市役所等公共施設での館内放送
３．市主催のイベント	４．民間主催のイベント
５．その他（具体的に：　　）	
６．聴いたことがない	

～ 環境に配慮したライフスタイルの定着度について ～

問４　あなたは、日常生活においてごみ減量やリサイクル、環境に配慮した商品の購入、節電・節水などの省エネルギー、環境保全活動への参加など、環境に配慮した取り組みを行っていますか。

（１つだけ○を付けてください）

１．積極的に取り組んでいる	２．ある程度取り組んでいる
３．あまり取り組んでいない	４．まったく取り組んでいない

～ 障害を理由とした生きづらさ・差別等の事例について ～

問５　平成２８年４月から、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）が施行されます。地方公共団体等の行政機関や民間事業者は障害を理由とする差別が禁止されることや、合理的配慮※を行う義務（民間事業者は努力義務）があることを知っていますか。

（１つだけ○を付けてください）

１．名称も内容も知っている	２．名称だけは知っている	３．知らない

※合理的配慮とは、筆談や読み上げ、車いすでの移動の手助け等、障害のある人が生活を送る上での支障を取り除くために、状況に応じて行われる配慮をいいます。

問６　障害の有無にかかわらず、すべての方に伺います。あなたは、日常生活の中で、障害を理由として「差別を受けたと思った」「生活のなかでいやな思いをした」こと、「差別を受けている、いやな思いをしている場面を見た」ことがありますか。

（１つだけ○を付けてください）

１．ある （具体的に：　　） ２．ない

～ 地区社会福祉協議会について ～

問７　あなたは「地区社会福祉協議会※」をご存じですか。

（１つだけ○を付けてください）

１．知っていて、すでに活動に参加している
２．関心がある、または、今後活動に参加したいと思う
３．知らない、または、活動に参加したいと思わない

※地区社会福祉協議会とは、連合自治会規模の圏域で活動する住民主導の組織。地域住民をはじめ、自治会や民生委員、ボランティア等で構成し、身近な地域における福祉活動の啓発及び推進を行います。

問８　地区社会福祉協議会の設立により、地域での支え合いが進んだと思いますか。

（１つだけ○を付けてください）

１．進んだと思う　　２．変化を感じない　　３．　分からない

～ ドメスティック・バイオレンス（DV）について ～

問９　配偶者（元配偶者、事実婚、生活の本拠を共にする交際相手も含む）や恋人等から行われるドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）※について、あなたの経験や知識を伺います。

（あてはまるものすべてに○を付けてください）

１．自分が何らかの暴力をしたことがある
２．自分が何らかの暴力を受けたことがある
３．身近な人から相談を受けたことがある
４．テレビや新聞などで社会問題になっていることを知っている
５．ＤＶが人権侵害であることを知っている
６．その他（具体的に：　　）

※ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）には、「殴る、蹴る」などの身体的暴力以外に、「怒鳴る、脅す」などの精神的暴力、性行為を強要する性的暴力、生活費を渡さない経済的暴力、子どもの目の前で暴力をふるうなどの子どもを利用した暴力などがあります。

問 10　あなたは、ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）について相談できる窓口を知っていますか。

（あてはまるものすべてに○を付けてください）

１．ＤＶ相談専用ダイヤル※　　２．各区役所社会福祉課　　３．警察
４．静岡県女性相談センター　(054-286-9217)
５．静岡県西部健康福祉センター（0538-33-9217）
６．静岡県男女共同参画センター あざれあ（女性相談）（053-456-7879）
７．静岡地方法務局　女性の人権ホットライン(0570-070-810)
８．その他（具体的に：　　）
９．知っているものはない

※「ＤＶ相談専用ダイヤル」は、ＤＶの早期相談により、被害者の潜在化や重篤化を防止するため、平成 26 年１月に開設しました。
ＤＶ相談専用ダイヤル：０５３－４１２－０３６０、相談時間：毎日午前 10 時～午後 4 時（年末年始を除く）

～ 浜松市平和都市宣言について ～

問 11　あなたは「浜松市平和都市宣言」をご存じですか。

（１つだけ○を付けてください）

１．名称も内容も知っている	２．名称だけは知っている	３．知らない

問 12　問 11 で「１．名称も内容も知っている」「２．名称だけは知っている」とお答えされた方に伺います。「浜松市平和都市宣言」を何で知りましたか。

（あてはまるものすべてに○を付けてください）

１．浜松市ホームページ	２．市の刊行物（広報、配付物、学校教材など）
３．市役所や区役所での掲示	４．その他（具体的に：　　）

問 13　平和について活動したり、考えたことがありますか。

（１つだけ○を付けてください）

１．平和に関する活動に参加している	２．活動はしていないが考えたことはある
３．考えたことはない	

～ 新電力の活用について ～

問 14　あなたは平成２８年度から、「電力の小売自由化」という、今までの電力会社以外（新電力）からも電力を購入することができるようになる制度が始まることを知っていますか。

（１つだけ○を付けてください）

１．内容を良く知っている	２．少し内容を知っている
３．言葉だけ聞いたことがある	４．知らない

問 15　一般家庭の電力小売自由化が始まった場合、あなたはこの新電力から電力を購入しようと思いますか。

（１つだけ○を付けてください）

１．自由化後すぐに購入したい	２．最初に変えた人の様子を見てから購入したい
３．条件が合えば検討したい	４．購入しようとは思わない

問 16　問 15 で「１．自由化後すぐに購入したい」「２．最初に変えた人の様子を見てから購入したい」「３．条件が合えば検討したい」とお答えされた方に伺います。どのような条件が合えば、新電力からの電力を購入しますか。

（あてはまるものすべてに○を付けてください）

１．料金の安さ	２．料金メニューや契約手続きの分かりやすさ
３．サービスや商品選択の豊富さ	４．顧客対応等のサービス品質
５．ライフスタイル（生活パターン）にあった料金メニュー	
６．再生可能エネルギー発電の電力を多く使っている	
７．浜松市内で発電された電力を多く使っている	
８．よく知られた企業である	９．地元企業である
10．その他（具体的に：　　）	

～ 健康づくりについて ～

問 17　浜松市では、うごく＆スマイル（貯めよう！健康ポイント）の健康づくり事業を実施しています。あなたはご存じですか。

（１つだけ〇を付けてください）

１．参加したことがある	２．知っているが、参加したことはない	３．知らない

問 18　日ごろ、あなたは健康のために何か取り組んでいることはありますか。

（１つだけ〇を付けてください）

１．取り組んでいる
２．今は取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい
３．取り組むつもりはない

問 19　あなたは、どのような環境が整えば健康づくりに取り組もうと思いますか。

（２つまで〇を付けてください）

１．一緒に取り組んでくれる仲間
２．定期的な健康づくりの情報提供
３．身近なところで健康について学んだり、参加できる場
４．職場等で健康づくりに取り組める働きかけ
５．自分でできることを自分でするので、環境の整備は特に必要ない
６．どのような環境が整っても取り組むつもりはない
７．その他（具体的に:　　）

～ 浜松市のスポーツ推進について ～

問 20　過去１年間で、あなたはスポーツ（運動）をどの程度行いましたか。ウォーキングから本格的な競技スポーツまで、あらゆる運動を含みます。

（１つだけ〇を付けてください）

１．ほぼ毎日	２．週３回以上	３．週１回以上
４．月に１・２回程度	５．年に数回程度	６．年に１回もしない

問 21　過去１年間に、あなたはスポーツ支援をどの程度行いましたか。
スポーツイベントや各種競技の大会ボランティア活動のほか、スポーツ少年団や小中高大学の運動部活動、総合型地域スポーツクラブ、地域のスポーツ活動などのお手伝いや運営、指導など、あらゆるスポーツ活動の支援を含みます。

（１つだけ〇を付けてください）

１．月に数回のペースで支援活動を行った
２．年に数回程度、支援活動を行った
３．年に１回は支援活動を行った
４．全く支援活動を行わなかった

～ 子育て支援について ～

問 22　あなたは、社会全体で子どもを健全に育成し支えていくための基本理念や、それぞれの役割などを定めた「浜松市子ども育成条例」をご存じですか。

（１つだけ○を付けてください）

１．名称も内容も知っている	２．名称だけは知っている	３．知らない

問 23　あなたは、子どもや子育ての支援、社会生活を円滑に営む上で困難を有する若者の支援を目的に策定した「浜松市子ども・若者支援プラン」をご存じですか。

（１つだけ○を付けてください）

１．名称も内容も知っている	２．名称だけは知っている	３．知らない

問 24　あなたは、現在、「子育て」に対して、どのような関わり方をしていますか。

（１つだけ○を付けてください）

１．子育て中である
２．孫の面倒を見ることがある
３．甥（おい）、姪（めい）の面倒を見ることがある
４．近所の子どもの面倒を見ることがある
５．子育てサークルに参加している
６．子育てに関するボランティアに参加している
７．その他（具体的に：　　）
８．特に関わっていない

問 25　浜松市では、保育所整備、子育て支援ひろば、子どもの医療費助成など子育てに関する支援を行っています。あなたは、このような支援によって、子育てがしやすくなっていると思いますか。

（１つだけ○を付けてください）

１．思う	２．思わない	３．どちらともいえない	４．わからない

問 26　問 25 で「２．思わない」「３．どちらともいえない」「４．わからない」とお答えされた方に伺います。どのような環境が整えば子育てがしやすくなったと感じると思いますか。

（あてはまるものすべてに○を付けてください）

１．子育ての悩みを相談できる人が身近にいる環境
２．子育て中の親子の交流の場が身近にある環境
３．子どもたちが安心して遊べる場所が身近にある環境
４．困った時や緊急時に、安心して子どもを預けられる環境
５．子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境
６．子育てに関する必要な情報がすぐに手に入る環境
７．子どもの手当や医療費助成など、制度が充実した環境
８．わからない
９．その他（具体的に：　　）

～ 市民の地震への備えについて ～

問 27　あなたのご家庭では、家具が転倒しないように固定していますか。

（１つだけ〇を付けてください）

１．大部分の家具を固定している
２．一部の家具を固定している
３．固定していない。今後、固定しようと思っている
４．固定していない。今後も固定しようとは思わない

問 28　問 27 で「３．固定していない。今後、固定しようと思っている」「４．固定していない。今後も固定しようとは思わない」とお答えされた方に伺います。固定していない理由は何ですか。

（１つだけ〇を付けてください）

１．家具などを置いていない安全な部屋があるから
２．必要とは思わないから
３．災害時、実際に役立つかわからないから
４．どうやって固定していいかわからないから
５．手間がかかるから
６．費用がかかるから
７．賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから
８．その他（具体的に：　　）

問 29　あなたのご家庭では、災害の発生に備え７日分以上の水や食糧を備蓄していますか。

（１つだけ〇を付けてください）

１．している　　２．しているが３日分程度　　３．していない

問 30　問 29 で「２．しているが３日分程度」「３．していない」とお答えされた方に伺います。７日分以上の備蓄をしない理由は何ですか。

（１つだけ〇を付けてください）

１．必要とは思わないから
２．災害時、実際に役立つかわからないから
３．備蓄品を置く場所がないから
４．水や食糧の賞味期限が切れ、捨てるのがもったいないから
５．手間がかかるから
６．費用がかかるから
７．その他（具体的に：　　）

～ 地域情報化について ～

問 31　あなたはご家庭で、次のような情報通信機器を利用していますか。
（あてはまるものすべてに○を付けてください）

1．デスクトップパソコン、ノートパソコン
2．タブレット端末
3．スマートフォン
4．携帯電話、ＰＨＳ
5．インターネットに接続できるゲーム機
6．その他（具体的に：　　）
7．持っていない

問 32　あなたが、過去１か月間にインターネットを利用した際の、利用目的は何ですか。
（あてはまるものすべてに○を付けてください）

1．メールの送受信
2．ニュースサイトやブログなどの閲覧
3．商品・サービスの購入等
4．地図・交通情報サービスの利用
5．電子政府・電子自治体の利用
6．ＳＮＳ(FaceBook、Twitter、Line など）の利用
7．動画投稿サイトの利用
8．インターネットバンキングの利用
9．オンラインゲームの利用
10．その他（具体的に：　　）
11．インターネットを利用していない

～ 市民コールセンターについて ～

問 33　浜松市では、市民のみなさんが市役所への問合せ先が分からないときにご利用いただくよう「市民コールセンター※」を設置しています。あなたはご存じですか。
（１つだけ○を付けてください）

1．知っていて利用したことがある　　2．知っているが利用したことはない　　3．知らない

※市民コールセンター：０５３－４５７－２１１１
受付時間：午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分（土日・祝日、年末年始を除く）

問 34　市民コールセンターでは、問合せ内容の担当課へ電話をつなぐことを主な業務としていますが、今後、サービスの拡充としてコールセンターに求めるものは何ですか。
（２つまで○を付けてください）

1．制度や手続きについての簡単な質問は、コールセンターで回答（完結）してほしい
2．講座やイベント等の申し込み受付ができるようにしてほしい
3．夜間や土曜日・日曜日にも問合せができるようにしてほしい
4．要望や意見の受付ができるようにしてほしい
5．英語等外国語対応ができる人を配置してほしい
6．今までどおりでよい（用件を聴いて適切な担当課へ電話をつなぐ）
7．その他（具体的に：　　）
8．特にない

～ 市政に関する現状認識について ～

問35　あなたは日常生活の中で、どのように感じていますか。各項目について「思う」から「思わない」まで５段階のうち、それぞれ１つだけ選び〇を付けてください。

項目		選択肢				
		思う ←→				思わない
1	住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	5	4	3	2	1
2	仕事と生活の調和※が取れていると思いますか。 ※仕事と家事・育児・介護などと両立すること	5	4	3	2	1
3	満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	5	4	3	2	1
4	子どもを生み育てやすい環境が整っていると思いますか。	5	4	3	2	1
5	自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	5	4	3	2	1
6	環境に配慮※した生活を送っていると思いますか。 ※ごみの減量、リサイクルの推進、消費する電力の削減など	5	4	3	2	1
7	医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	5	4	3	2	1
8	生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	5	4	3	2	1
9	必要な行政情報※が提供されていると思いますか。 ※各種申請手続き、イベント、事業、予算の情報など	5	4	3	2	1

～ 市の取り組みの満足度評価について ～

問 36　あなたは、浜松市がこれまで進めてきた取り組みについて日ごろどのように感じていますか。各項目について「満足」から「不満」まで５段階のうち、それぞれ１つだけ選び○を付けてください。

	項　　目	評　価				
		満足				不満
1	文化にふれ、活動できる環境	5	4	3	2	1
2	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	5	4	3	2	1
3	協働センター（旧公民館）、図書館などの生涯学習環境	5	4	3	2	1
4	男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組み	5	4	3	2	1
5	人権を尊重したまちづくり（人権啓発の取り組み）	5	4	3	2	1
6	魅力ある雇用機会の確保	5	4	3	2	1
7	ＪＲ浜松駅周辺の魅力とにぎわい	5	4	3	2	1
8	浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	5	4	3	2	1
9	外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	5	4	3	2	1
10	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	5	4	3	2	1
11	休日、夜間などの救急医療体制	5	4	3	2	1
12	ユニバーサルデザインによるまちづくり	5	4	3	2	1
13	世界の人々との活発な市民交流	5	4	3	2	1

最後にあなたのことについて記入してください

（項目別に１つだけ〇を付けてください）

性別	１．男　２．女
年齢	１．20 歳代　２．30 歳代　３．40 歳代 ４．50 歳代　５．60～64 歳　６．65～69 歳 ７．70～74 歳　８．75 歳以上
国籍	１．日本　２．ブラジル　３．中国 ４．フィリピン　５．その他（　　）
職業	１．勤め人　２．商工・サービス・自由業（自営・家族従事者） ３．農林水産業（自営・家族従事者） ４．専業主婦（主夫）　５．学生 ６．無職　７．その他（　　）
居住年数	あなたは浜松市（合併前の旧市町村当時からも含みます）に住んで何年になりますか １．３年未満　２．３年以上５年未満　３．５年以上 10 年未満 ４．10 年以上 20 年未満　５．20 年以上
家族数	あなたを含めて何人で住んでいますか １．１人　２．２人　３．３人 ４．４人　５．５人　６．６人以上
居住形態	あなたのお住まいは １．持ち家　２．借家　３．賃貸アパート・マンション ４．公営住宅　５．社宅・寮　６．その他
行政区	あなたがお住まいの行政区は １．中区　２．東区　３．西区 ４．南区　５．北区　６．浜北区 ７．天竜区 行政区が分からない場合は、町名をご記入ください ⟶（　　）

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、６月３０日（火）までにご投函ください。

平成２７年度　市民アンケート調査報告書

平成 27 年 10 月発行
浜松市企画調整部広聴広報課
〒430－8652　浜松市中区元城町 103 番地の 2
電　話（053）457－2023　　FAX（053）457－2028
e-mail　koe-g@city.hamamatsu.shizuoka.jp
URL　http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp